

クライアント構築手順書
【運用管理クライアント(介護)】
導入作業編

第8版

平成31年4月25日

変更履歴

項番	変更日付	版	変更箇所	変更内容
1	2014/1/30	1.0 版		新規作成
2	2014/2/21	2.0 版	P.79～P.84	『2.17.5.プリンタ利用権限の設定』の追加 障害管理一覧表 No.119（印刷ジョブの一時停止／再開及びキャンセル操作における障害）の対応
3	2016/5/31	3.0 版	目次	「2.22.4.2. FD コントロールシステム装置使用時の設定」を追加 2.22.5 以降のページ数の修正
4	2016/5/31	3.0 版	P.105	「導入関連情報（H28 システム導入-003-0513）で配布した資材一式 （FD コントロールシステム装置のウイルスチェック用 PC として使用するクライアントの場合のみ）」に修正
5	2016/5/31	3.0 版	P.110	「2.22.4.2. FD コントロールシステム装置使用時の設定」を追加
6	2016/8/15	4.0 版	目次	「2.23. 暗号危殆化対策用の外部系 INI ファイル更新」を追加
7	2016/8/15	4.0 版	P.125	「2.23. 暗号危殆化対策用の外部系 INI ファイル更新」を追加
8	2017/1/31	5.0 版	目次	「2.24. vSphere Client 導入」を追加 「2.25. 情報漏えい対策ソフト（SKYSEA）導入」を追加 「2.26. ログ管理ソフト（Splunk）導入」を追加
9	2017/1/31	5.0 版	P.7～P.9	「2.1.11. WindowsUpdate の実行」を修正 SCCM 利用開始により、WindowsUpdate の実行手順を削除
10	2017/1/31	5.0 版	P.126～P.129	「2.24. vSphere Client 導入」を追加
11	2017/1/31	5.0 版	P.130～P.159	「2.25. 情報漏えい対策ソフト（SKYSEA）導入」を追加
12	2017/1/31	5.0 版	P.160～P.179	「2.26. ログ管理ソフト（Splunk）導入」を追加
13	2017/1/31	5.0 版	P.52	「2.14.4. JP1/NETM Remote Control - Manager 環境設定手順」の「エージェントリスト」に新規機器を追加

項番	変更日付	版	変更箇所	変更内容
14	2017/12/11	6.0 版	目次	導入順序の変更に伴う項番削除 ・ 2.2.JP1／Integrated Management - view 導入 ・ 2.3.JP1／AutomaticJobManagement System3 UserJobOperation－Definer 導入 ・ 2.4.JP1／AutomaticJobManagement System3 － UserJobOperation－Client 導入 ・ 2.5.JP1／Automatic Job Management System 3 － View 導入 ・ 2.6.JP1／NETM Remote Control － Manager 導入 ・ 2.25.情報漏えい対策ソフト(SKYSEA)導入 ・ 2.26.ログ管理ソフト (Splunk) 導入 (導入作業編から構築作業編へ移動)
15	2017/12/11	6.0 版	目次	導入順序の変更 (以下、変更履歴の項番 16、17、18、19、20、22、24、25、26、28、29、30、31、34、35、36、37、38) に伴う修正
16	2017/12/11	3.0 版	2.2.Microsoft Office Professional Plus 2010 導入	導入順序変更に伴う項番修正 2.7.Microsoft Office Professional Plus 2010 導入 →2.2.Microsoft Office Professional Plus 2010 導入
17	2017/12/11	6.0 版	2.3.TADAOO Notice Client 導入	導入順序変更に伴う項番修正 2.8.TADAOO Notice Client 導入 →2.3.TADAOO Notice Client 導入
18	2017/12/11	6.0 版	2.4.Microsoft .NET Framework Language Pack 導入	導入順序変更に伴う項番修正 2.9.Microsoft .NET Framework Language Pack 導入 →2.4.Microsoft .NET Framework Language Pack 導入
19	2017/12/11	6.0 版	2.5.Microsoft XML4.0SP2 パーサ導入	導入順序変更に伴う項番修正 2.10.Microsoft XML4.0SP2 パーサ導入 →2.5.Microsoft XML4.0SP2 パーサ導入
20	2017/12/11	6.0 版	2.6.Adobe Reader 導入	導入順序変更に伴う項番修正 2.11.Adobe Reader 導入 →2.6.Adobe Reader 導入
21	2017/12/11	6.0 版	2.6.Adobe Reader 導入	2017 年度のクライアント調達に伴い「2.6.4. Adobe Reader のバージョン確認」「2.6.5. Adobe Reader のアンインストール手順」を追記
22	2017/12/11	6.0 版	2.7.TADAOO XML Form Designer Ver4.1 導入	導入順序変更に伴う項番修正 2.12.TADAOO XML Form Designer Ver4.1 導入 →2.7.TADAOO XML Form Designer Ver4.1 導入
23	2017/12/11	6.0 版	2.7.TADAOO XML Form Designer Ver4.1 導入	導入する場合は導入関連情報を参照するよう記載を変更

項番	変更日付	版	変更箇所	変更内容
24	2017/12/11	6.0 版	2.8.JP1 / Automatic Job Management System 3 User Job Operation 環境設定	導入順序変更に伴う項番修正 2.13.JP1 / Automatic Job Management System 3 User Job Operation 環境設定 →2.8.JP1 / Automatic Job Management System 3 User Job Operation 環境設定
25	2017/12/11	6.0 版	2.9.JP1 / NETM Remote Control - Manager 環境設定	導入順序変更に伴う項番修正 2.14.JP1 / NETM Remote Control - Manager 環境設定 →2.9.JP1 / NETM Remote Control - Manager 環境設定
26	2017/12/11	6.0 版	2.10.Microsoft Office 環境設定	導入順序変更に伴う項番修正 2.15.Microsoft Office 環境設定 →2.10.Microsoft Office 環境設定
27	2017/12/11	6.0 版	2.10.Microsoft Office 環境設定	「2.15.4.Microsoft Office 2010 のセットアップ手順」 (14) に電話番号が表示されなかった場合の手順を追記
28	2017/12/11	6.0 版	2.11.Microsoft .NET Framework 3.5.1 有効化	導入順序変更に伴う項番修正 2.16.Microsoft .NET Framework 3.5.1 有効化 →2.11.Microsoft .NET Framework 3.5.1 有効化
29	2017/12/11	6.0 版	2.12.プリンタドライバ導入	導入順序変更に伴う項番修正 2.17.プリンタドライバ導入 →2.12.プリンタドライバ導入
30	2017/12/11	6.0 版	2.13.StarOffice X 4.0 環境設定	導入順序変更に伴う項番修正 2.18.StarOffice X 4.0 環境設定 →2.13.StarOffice X 4.0 環境設定
31	2017/12/11	6.0 版	2.14.データクリア	導入順序変更に伴う項番修正 2.19.データクリア→2.14.データクリア
32	2017/12/11	6.0 版	2.14.データクリア	「2.14.2 準備物の項番 2～4」を追加
33	2017/12/11	6.0 版	2.14.データクリア	「2.14.6.3 クライアントのファイル/ディレクトリのコピー (差分リリース)」を追加
34	2017/12/11	6.0 版	2.15.AP 環境設定	導入順序変更に伴う項番修正 2.20.AP 環境設定 →2.15.AP 環境設定
35	2017/12/11	6.0 版	2.16.業務 AP 導入作業	導入順序変更に伴う項番修正 2.21.業務 AP 導入作業 →2.16.業務 AP 導入作業
36	2017/12/11	6.0 版	2.17.業務グループ設定作業	導入順序変更に伴う項番修正 2.22.業務グループ設定作業 →2.17.業務グループ設定作業
37	2017/12/11	6.0 版	2.18.暗号危殆化対策用の外部系 INI ファイル更新	導入順序変更に伴う項番修正 2.23.暗号危殆化対策用の外部系 INI ファイル更新 →2.18.暗号危殆化対策用の外部系 INI ファイル更新
38	2017/12/11	6.0 版	2.19.vSphere Client 導入	導入順序変更に伴う項番修正 2.24.vSphere Client 導入 →2.19.vSphere Client 導入

項番	変更日付	版	変更箇所	変更内容
39	2017/12/11	6.0 版	全般	改版に伴いページ番号を変更
40	2018/5/31	7.0 版	2.2.Microsoft Office Professional Plus 2010 導入	2.2.4(7) インストールオプションに「」を追記
41	2018/5/31	7.0 版	2.8.JP1 / Automatic Job Management System 3 User Job Operation 環境設定	2.8.4(3) 「OK」→「ログイン」に記載を修正
42	2018/5/31	7.0 版	2.16.業務 AP 導入作業	2.16.6.JP1/AJS3 - UJO 登録 以下の文章を (5) に追記 ※ 運用管理クライアント (VT 系) の場合、 「C:¥Kaigo¥jmn¥SST_MENU.txt」を選択
43	2019/4/25	8.0 版	2.9.4. JP1/NETM Remote Control - Manager 環境設定手順	2.9.4. JP1/NETM Remote Control - Manager 環境設定手順 (5)の表から「事業所受付サーバ」を削除
44	2019/4/25	8.0 版	2.14.データクリア	「2.14.6.3 クライアントのファイル/ディレクトリのコピー (差分リリース)」に 190425 版の差分リリースを追加

目 次

2. 導入作業編	1
2.1. OS 環境設定	1
2.1.1. 対象マシン／作業予定時間	1
2.1.2. 準備物	1
2.1.3. 前提条件	1
2.1.4. ドメイン参加	1
2.1.5. FQDN 設定	2
2.1.6. デスクトップのカスタマイズ	3
2.1.7. MSG コマンド設定	3
2.1.8. スタートメニューのカスタマイズ	4
2.1.9. エクスプローラの設定	4
2.1.10. デスクトップアイコンの追加	6
2.1.11. WindowsUpdate の実行	7
2.2. Microsoft Office Professional Plus 2010 導入	10
2.2.1. 対象マシン／作業予定時間	10
2.2.2. 準備物	10
2.2.3. 前提条件	10
2.2.4. Microsoft Office Professional Plus 2010 のインストール手順	10
2.2.5. Microsoft Office Professional Plus 2010 のインストール確認	11
2.3. TADAO Notice Client 導入	13
2.3.1. 対象マシン／作業予定時間	13
2.3.2. 準備物	13
2.3.3. 前提条件	13
2.3.4. TADAO Notice Client Ver2.0 のインストール手順	13
2.4. Microsoft .NET Framework Language Pack 導入	21
2.4.1. 対象マシン／作業予定時間	21
2.4.2. 準備物	21
2.4.3. 前提条件	21
2.4.4. Microsoft .NET Framework Language Pack のインストール手順	21
2.5. Microsoft XML4.0SP2 パーサ導入	23
2.5.1. 対象マシン／作業予定時間	23
2.5.2. 準備物	23
2.5.3. 前提条件	23
2.5.4. Microsoft XML パーサのインストール手順	23

2.6. Adobe Reader 導入	26
2.6.1. 対象マシン／作業予定時間	26
2.6.2. 準備物	26
2.6.3. 前提条件	26
2.6.4. Adobe Reader のバージョン確認	26
2.6.5. Adobe Reader のアンインストール手順	27
2.6.6. Adobe Reader のインストール手順	27
2.7. TADAOO XML Form Designer Ver4.1 導入	29
2.8. JP1/Automatic Job Management System 3 User Job Operation 環境設定	30
2.8.1. 対象マシン／作業予定時間	30
2.8.2. 準備物	30
2.8.3. 前提条件	30
2.8.4. JP1/ AJS3 - User Job Operation Client 接続確認	30
2.9. JP1/NETM Remote Control – Manager 環境設定	32
2.9.1. 対象マシン／作業予定時間	32
2.9.2. 準備物	32
2.9.3. 前提条件	32
2.9.4. JP1/NETM Remote Control – Manager 環境設定手順	32
2.9.5. JP1/NETM Remote Control – Manager 環境設定（VT 系）手順	34
2.10. Microsoft Office 環境設定	35
2.10.1. 対象マシン／作業予定時間	35
2.10.2. 準備物	35
2.10.3. 前提条件	35
2.10.4. Microsoft Office 2010 のセットアップ手順	35
2.11. Microsoft .NET Framework 3.5.1 有効化	38
2.11.1. 対象マシン／作業予定時間	38
2.11.2. 準備物	38
2.11.3. 前提条件	38
2.11.4. Microsoft .NET Framework 3.5.1 有効化手順	38

2.12. プリンタドライバ導入	39
2.12.1. 対象マシン／作業予定時間	39
2.12.2. 準備物	39
2.12.3. 前提条件	39
2.12.4. プリンタ登録 (物理プリンタ)	39
2.12.5. プリンタ利用権限の設定	60
2.12.5.1. 前提条件	60
2.12.5.2. 注意事項	60
2.12.5.3. プリンタ権限付与	61
2.12.5.3.1. 事前確認	61
2.12.5.3.1. 権限付与確認	62
2.13. StarOffice X 4.0 環境設定	66
2.13.1. 対象マシン／作業予定時間	66
2.13.2. 準備物	66
2.13.3. 前提条件	66
2.13.4. インターネットオプションの設定	66
2.13.5. ActiveX のインストール手順	71
2.14. データクリア	74
2.14.1. 対象マシン／作業予定時間	74
2.14.2. 準備物	74
2.14.3. 前提条件	74
2.14.4. データクリア	74
2.14.5. ログクリア	75
2.14.6. AP 導入準備手順	76
2.14.6.1. クライアント側フォルダ作成／フォルダ共有設定／環境変数の登録	76
2.14.6.2. クライアントのファイル/ディレクトリのコピー	77
2.14.6.3. クライアントのファイル/ディレクトリのコピー (差分リリース)	77
2.15. AP 環境設定	79
2.15.1. 対象マシン／作業予定時間	79
2.15.2. 準備物	79
2.15.3. 前提条件	79
2.15.4. プレビュー表示関連導入手順	79
2.15.4.1. .NET Framework2.0 構成変更	79
2.15.4.2. プレビュー表示モジュールのレジストリ登録	80
2.15.5. ファイルアップロード・ダウンロード関連導入手順	82
2.15.5.1. ファイルアップロード・ダウンロードモジュールのレジストリ登録	82

2.16. 業務 AP 導入作業	83
2.16.1. 対象マシン／作業予定時間	83
2.16.2. 準備物	83
2.16.3. 前提条件	83
2.16.4. ファイルの置換	83
2.16.4.1. ファイルの置換実行 (クライアント)	83
2.16.4.2. ファイルの置換変更 (クライアント)	84
2.16.5. DLL ファイルのレジストリ登録 (SysReg)	85
2.16.6. JP1/AJS3 – UJO 登録	86
2.17. 業務グループ設定作業	87
2.17.1. 対象マシン／作業予定時間	87
2.17.2. 準備物	87
2.17.3. 前提条件	87
2.17.4. 外部データ授受環境設定	87
2.17.4.1. レセプト電算処理システムの CD コントロールシステム装置使用時の設定	87
2.17.4.2. FD コントロールシステム装置使用時の設定	92
2.17.5. JP1/NETM/Remote Control – Manager 環境設定	103
2.17.5.1. JP1/NETM/Remote Control – Manager ログ出力の有効化	103
2.17.5.2. ファイル転送オプション	105
2.18. 暗号危殆化対策用の外部系 INI ファイル更新	107
2.18.1. 対象マシン／作業予定時間	107
2.18.2. 準備物	107
2.18.3. 前提条件	107
2.18.4. 暗号危殆化対策用の外部系 INI ファイル更新化作業	107
2.19. vSphere Client 導入	108
2.19.1. 対象マシン／作業予定時間	108
2.19.2. 準備物	108
2.19.3. 前提条件	108
2.19.4. vSphere Client のインストール	109

2.導入作業編

2.1. OS 環境設定

2.1.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	15 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT 系)	15 分	<input type="checkbox"/>

2.1.2. 準備物

項番	種別	名称	確認
1	ドキュメント	設定変動表	<input type="checkbox"/>
2	ドキュメント	パスワード一覧	<input type="checkbox"/>

2.1.3. 前提条件

項番	前提条件	確認
1	「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザでログオンしていること	<input type="checkbox"/>
2	ネットワーク設定がされていること	<input type="checkbox"/>

2.1.4. ドメイン参加

- (1) 「スタート」→「コンピューター」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
- (2) 「システム」画面が表示されますので、「コンピュータ名、ドメインおよびワークグループの設定」部分の「設定の変更」をクリックします。
- (3) 「システムのプロパティ」画面が表示されますので、「コンピュータ名」タブを選択し、「変更」をクリックします。
- (4) 「コンピュータ名/ドメイン名の変更」画面が表示されますので、「所属グループ」にて「ドメイン」を選択し、「ドメイン」に『設定変動表のドメイン名』を入力し「OK」をクリックします。
- (5) 「ネットワーク資格情報」画面が表示されますので、「ユーザ名」に「設定変動表のドメイン名 (NetBIOS) ¥administrator」を入力し、「パスワード」に「パスワード一覧のドメイン名 (NetBIOS) ¥administrator のパスワード」を入力して、「OK」をクリックします。
- (6) 「『設定変動表のドメイン名』へようこそ」画面が表示されますので、「OK」をクリックします。
- (7) 「このコンピューターのプライマリ ドメイン DNS 名を…」画面が表示されましたら、「OK」をクリックします。
- (8) 「コンピュータ名の変更」画面に戻りますので、「閉じる」をクリックします。
- (9) 再起動を促すダイアログが表示されますので、「今すぐ再起動する」をクリックします。

2.1.5. FQDN 設定

- (1) マシン起動後、「ユーザ名」に『設定変動表のドメイン名(NetBIOS)¥administrator』を入力し、「パスワード」に『パスワード一覧のドメイン名(NetBIOS)¥administrator のパスワード』を入力して、「OK」をクリックします。
- (2) 「スタート」→「コンピューター」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
- (3) 「システム」画面が表示されますので、「コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定」部分の「設定の変更」をクリックします。
- (4) 「システムのプロパティ」画面が表示されますので、「コンピューター名」タブ内の「変更」をクリックします。
- (5) 「コンピューター名/ドメイン名の変更」画面が表示されますので、「詳細」をクリックします。
- (6) 「DNS サフィックスと NetBIOS コンピューター名」画面が表示されますので、「このコンピュータのプライマリ DNS サフィックス」に表示されている文字列の先頭に『kaigo.』を追記し、「OK」をクリックします。
- (7) 「コンピューター名の変更/ドメイン名の変更」画面に戻りましたら、「OK」をクリックします。
- (8) 「～コンピューターを再起動する必要があります」画面が表示されましたら、「OK」をクリックします。
- (9) 「システムのプロパティ」画面にて、「閉じる」をクリックし、再起動を促す画面が表示されましたら、「今すぐ再起動する」をクリックします。
- (10) マシン起動後、ログイン画面にて、「ユーザ名」に『設定変動表のドメイン名(NetBIOS)¥KG-UserAdmin』を入力し、「パスワード」に『パスワード一覧のドメイン名(NetBIOS)¥KG-UserAdmin のパスワード』を入力して、「OK」をクリックします。

2.1.6. デスクトップのカスタマイズ

- (1) デスクトップ上で右クリックし、「画面の解像度」を選択します。
- (2) 「画面の解像度」画面が表示されましたら、下記の項目が設定されていることを確認し、「OK」をクリックします。

設定項目	設定内容
解像度	1280 × 1024 ※

※対象機器のディスプレイがワイドの場合は、「1920×1080」に設定します。

- (3) 「ディスプレイ設定」画面が表示されますので、「変更を維持する」をクリックします。
- (4) 「画面の解像度」画面閉じます。

2.1.7. MSG コマンド設定

- (1) 「スタート」→「プログラムとファイルの検索」を選択し、『regedit』と入力後、キーボードの<Enter>キーを押下します。
- (2) 「レジストリエディター」画面が表示されましたら、以下のレジストリを選択し、ダブルクリックします。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥TerminalServer¥AllowRemoteRPC

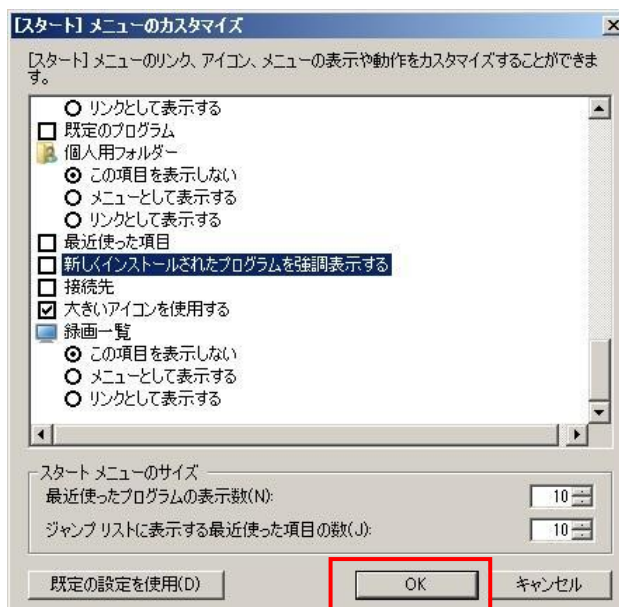
- (3) 「DWORD 値の編集」画面が開きましたら、「値のデータ」に『1』と入力し、「OK」をクリックします。
- (4) 「AllowRemoteRPC」の「データ」が「0x00000001」に変更されていることを確認します。

確認項目	確認
「AllowRemoteRPC」の「データ」が「0x00000001」に変更されていること	<input type="checkbox"/>

- (5) 「レジストリエディター」画面にて、「ファイル」→「レジストリエディターの終了」をクリックします。

2.1.8. スタートメニューのカスタマイズ

- (1) 「スタート」を右クリックし、メニューより「プロパティ」を選択します。
- (2) 「タスクバーと[スタート]メニューのプロパティ」画面が表示されますので、[スタート]メニュータブを選択し、「カスタマイズ」をクリックします。
- (3) 「[スタート]メニューのカスタマイズ」画面が表示されますので、「新しくインストールされたプログラムを強調表示する」のチェックを外し、「OK」をクリックします。



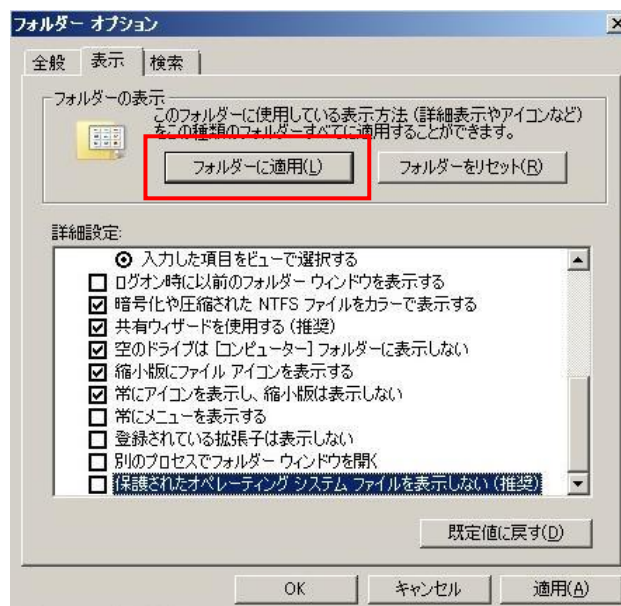
- (4) 「タスクバーと[スタート]メニューのプロパティ」画面に戻りますので、「OK」をクリックします。

2.1.9. エクスプローラの設定

- (1) 「スタート」を右クリックし、メニューより「エクスプローラを開く」を選択します。
- (2) 「ライブラリ」画面が表示されましたら、<Alt>キーを押下します。
- (3) メニューバーが表示されましたら、「ツール」→「フォルダーオプション」をクリックします。
- (4) 「フォルダーオプション」画面が表示されましたら、「表示」タブを選択し、詳細設定の項目の内容を、下表のとおり設定し「適用」をクリックします。

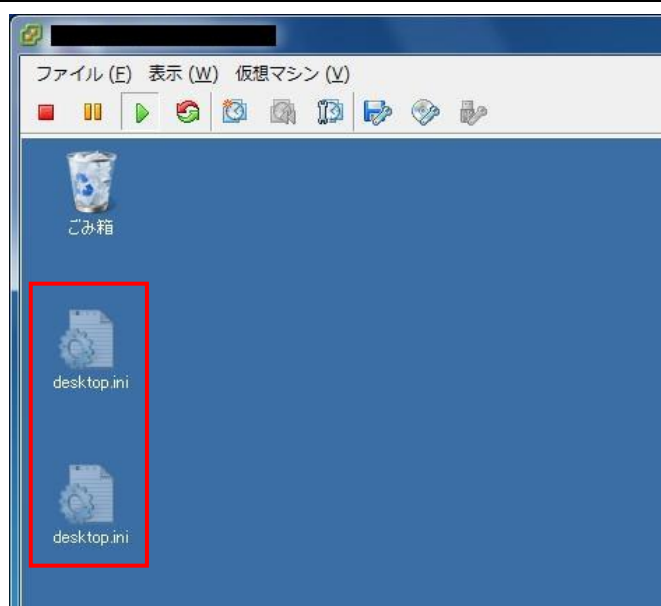
項番	設定項目	設定内容	確認
1	隠しファイル、隠しフォルダー、及び隠しドライブを表示する	ラジオボタン ON	<input type="checkbox"/>
2	登録されている拡張子は表示しない	チェック OFF	<input type="checkbox"/>
3	保護されたオペレーティングシステムファイルを表示しない(推奨) <u>チェックを外す際警告メッセージが表示されますが、「はい」をクリックします。</u>	チェック OFF	<input type="checkbox"/>

- (5) 「フォルダーオプション」画面にて「フォルダーの表示」内の「フォルダーに適用」をクリックします。



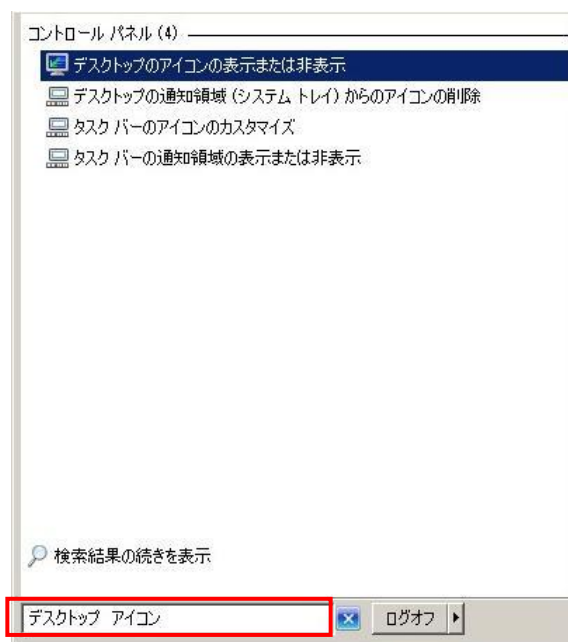
- (6) 「フォルダーの表示」画面が表示されますので、「はい」をクリックします。
 (7) 「フォルダーオプション」画面に戻りますので、「OK」をクリックします。
 (8) 「ライブラリ」画面が表示されますので、右上の「×」をクリックします。
 (9) デスクトップにて、以下のファイルが2つ薄く表示されていることを確認します。

項番	ファイル名	確認
1	desktop.ini	<input type="checkbox"/>

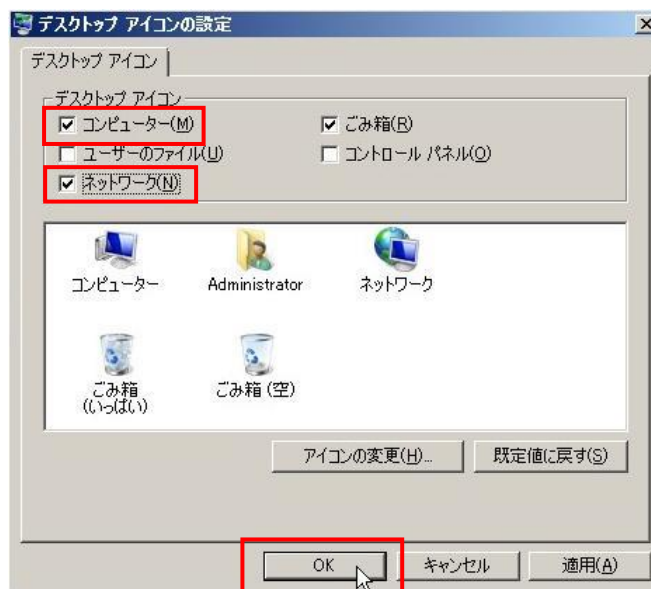


2.1.10. デスクトップアイコンの追加

- (1) 「スタート」を開き、検索欄に『デスクトップ アイコン』と入力します。
- (2) 「コントロールパネル」の「デスクトップのアイコンの表示または非表示」を選択します。



- (3) 「デスクトップアイコンの設定」画面が表示されますので、「デスクトップアイコン」の「コンピューター」と「ネットワーク」にチェックを入れ、「OK」をクリックします。



- (4) デスクトップに「コンピューター」、「ネットワーク」のアイコンが存在することを確認します。

項番	アイコン名	確認
1	コンピューター	<input type="checkbox"/>
2	ネットワーク	<input type="checkbox"/>

2.1.11. WindowsUpdate の実行

SCCM 利用開始により、WindowsUpdate の実行手順を削除しました。

なお、クライアントへの SCCM 導入は自動的に実施され、最新のセキュリティパッチについても SCCM によって自動的に適用されます。

(空白ページ)

(空白ページ)

2.2. Microsoft Office Professional Plus 2010 導入

2.2.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	25 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT 系)	25 分	<input type="checkbox"/>

2.2.2. 準備物

項番	種別	名称	確認
1	DVD-ROM	Office Professional Plus 2010 SP1 32bit	<input type="checkbox"/>

2.2.3. 前提条件

項番	前提条件	確認
1	“ドメイン名(NetBIOS)¥KG-UserAdmin”でログオンすること	<input type="checkbox"/>

2.2.4. Microsoft Office Professional Plus 2010 のインストール手順

- (1) 「Office Professional Plus 2010 SP1 32bit」DVD-ROM を DVD ドライブにセットします。
- (2) 「自動再生」画面が表示されますので、「SETUP.exe の実行」をクリックします。
- (3) 「Microsoft office Professional Plus 2010」画面が表示されますので、「～に同意します」にチェックを入れ、「続行」をクリックします。
- (4) 「インストールの種類を選択してください」画面が表示されますので、「ユーザ設定」をクリックします。
- (5) 「インストールオプション」画面が表示されましたら、「ユーザー情報」タブをクリックします。
- (6) 「ユーザー情報」画面が表示されましたら、下表のとおり入力します。

設定項目	設定内容	確認
氏名	〇〇〇 国保連合会	<input type="checkbox"/>
頭文字	デフォルト (空白)	<input type="checkbox"/>
所属	〇〇〇国保連合会	<input type="checkbox"/>

※〇〇〇は都道府県名

- (7) 「インストールオプション」を以下のとおりに選択します。

※国保連合会で必要とする場合、任意で選択（導入）して頂いて構いません。

項目	確認
Microsoft Access：規定値	<input type="checkbox"/>
Microsoft Excel：規定値	<input type="checkbox"/>
Microsoft InfoPath：インストールしない（任意）	<input type="checkbox"/>
Microsoft OneNote：インストールしない（任意）	<input type="checkbox"/>
Microsoft Outlook：インストールしない（任意）	<input type="checkbox"/>
Microsoft PowerPoint：規定値	<input type="checkbox"/>
Microsoft Publisher：インストールしない（任意）	<input type="checkbox"/>
Microsoft SharePoint Workspace：インストールしない（任意）	<input type="checkbox"/>
Microsoft Visio Viewer：インストールしない（任意）	<input type="checkbox"/>
Microsoft Word：規定値	<input type="checkbox"/>
Microsoft ツール：規定値	<input type="checkbox"/>
Microsoft 共有機能：規定値	<input type="checkbox"/>

- (8) 「今すぐインストール」をクリックします。
- (9) 「Microsoft Office Professional Plus 2010 をインストールしていただき～」と表示されましたら、「閉じる」をクリックします。
- (10) 「Office Professional Plus 2010 SP1 32bit」DVD-ROM を DVD ドライブから取出します。
- (11) 「スタート」→「すべてのプログラム」→「Microsoft Office」が存在することを確認します。

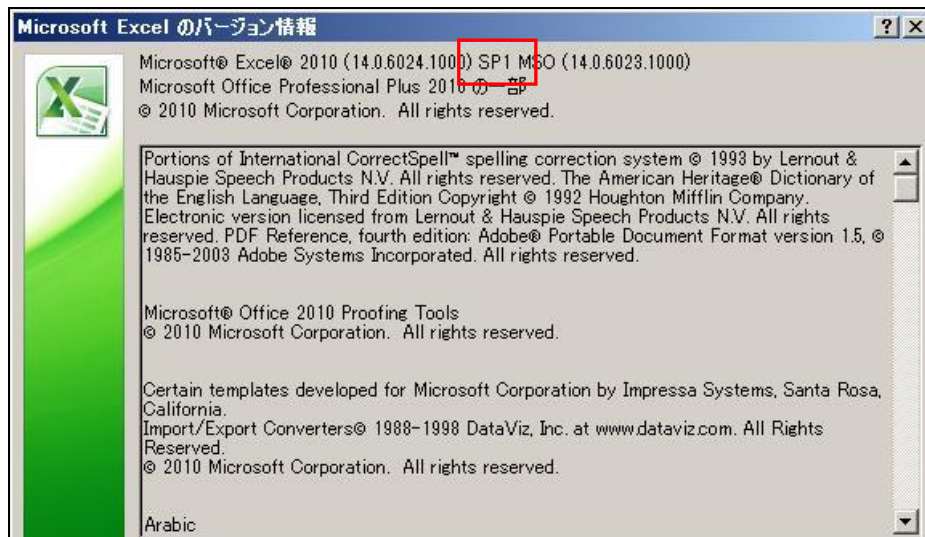
確認項目	確認
「スタート」→「すべてのプログラム」→「Microsoft Office」が存在すること	<input type="checkbox"/>

2.2.5. Microsoft Office Professional Plus 2010 のインストール確認

- (1) 「スタート」→「すべてのプログラム」→「Microsoft Office」→「Microsoft Excel2010」をクリックします。
- (2) 「Microsoft Office 2010 へようこそ」画面が表示されましたら、「変更しない」にチェックを入れ「OK」をクリックします。
- (3) メニューバーの「ファイル」タブをクリックします。
- (4) 「ファイル」画面が表示されましたら、左メニューの「ヘルプ」をクリックします。
- (5) 「ヘルプ」画面の画面右側の「バージョンと著作権の追加の情報」の上に、「バージョン:14.0.6023.1000(32 ビット)」と表示されていることを確認します。

項番	確認内容	確認
1	バージョン:14.0.6023.1000(32 ビット)と表示されていること	<input type="checkbox"/>

- (6) 「ヘルプ」画面の画面右側の「バージョンと著作権の追加の情報」をクリックします。
- (7) 「Microsoft Excel のバージョン情報」画面が表示されましたら、画面最上部に「SP1」と表示されていることを確認します。



項番	確認内容	確認
1	「SP1」と表示されていること	<input type="checkbox"/>

2.3. TADAO Notice Client 導入

2.3.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	10 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT 系)	10 分	<input type="checkbox"/>

2.3.2. 準備物

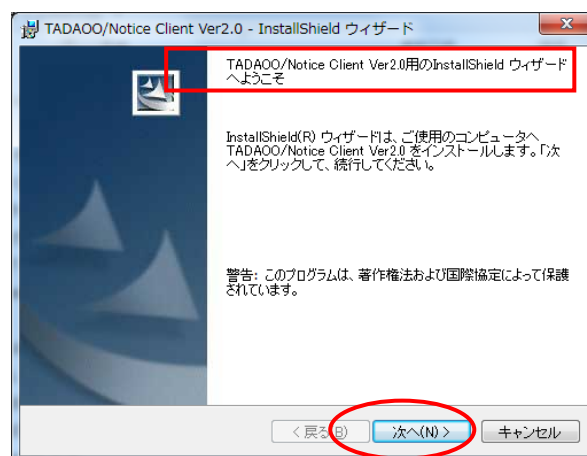
項番	種別	名称	確認
1	DVD-ROM	TADAO Notice Ver2.0	<input type="checkbox"/>
2	ドキュメント	TADAO/Notice パラメータ SG 条件書	<input type="checkbox"/>

2.3.3. 前提条件

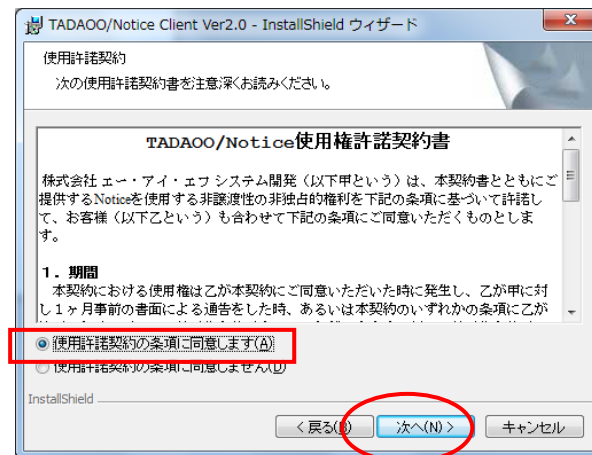
項番	前提条件	確認
1	“ドメイン名(NetBIOS)¥KG-UserAdmin”でログオンすること	<input type="checkbox"/>

2.3.4. TADAO Notice Client Ver2.0 のインストール手順

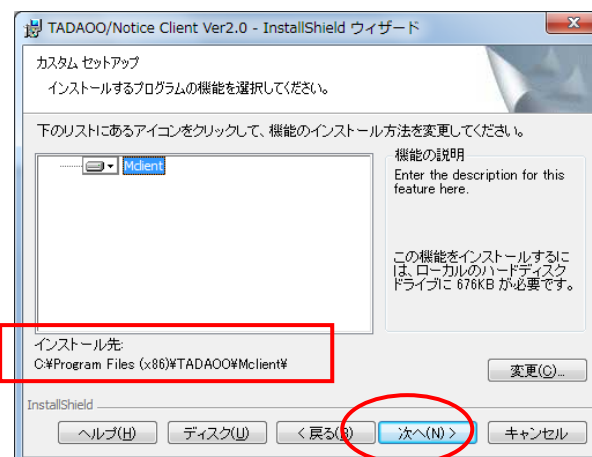
- (1) 「TADAO Notice Ver2.0」を DVD ドライブにセットします。
- (2) 「自動再生」画面が表示されますので、「フォルダーを開いてファイルを表示」をクリックします。
- (3) エクスプローラにて、「E:¥TADAO_notice¥Client」フォルダ内の「TADAO Notice Client Ver2.0.msi」ファイルを右クリックし、「インストール」を選択します。
- (4) 「TADAO/Notice Client Ver2.0 用の InstallShield ウィザードへようこそ」画面が表示されましたら、「次へ」をクリックします。



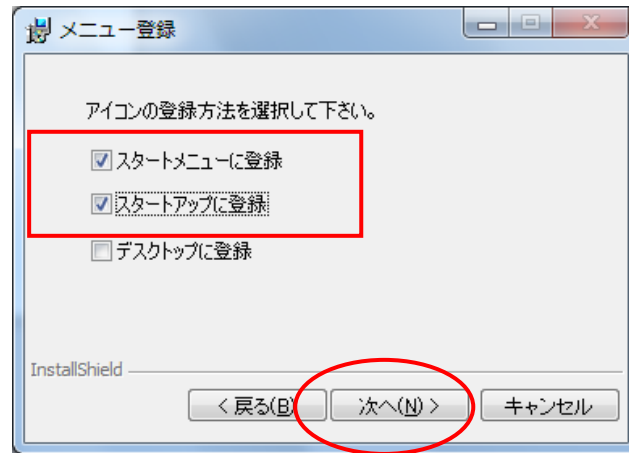
- (5) 「使用許諾契約」画面が表示されますので、「使用許諾契約の条項に同意します」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。



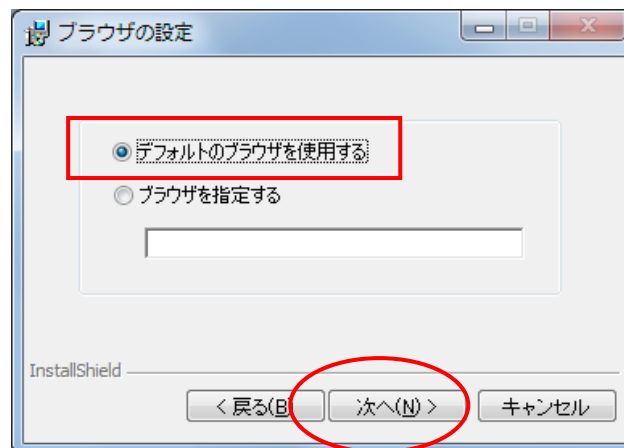
- (6) 「カスタムセットアップ」画面が表示されますので、インストール先が「C:\Program Files (x86)\TADAOO\Mclient\」と表示されていることを確認し、「次へ>」をクリックします。



- (7) 「メニュー登録」画面が表示されますので、「スタートメニューに登録」、「スタートアップに登録」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。



- (8) 「ブラウザの設定」画面が表示されますので、「デフォルトのブラウザを使用する」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。



- (9) 「クライアント設定」画面が表示されますので、「グループ ID」に「TADAOO/Notice
パラメータ SG 条件書のグループ ID (介護)」、「クライアント ID」は『1』と入力
し、「次へ」をクリックします。

クライアント設定

グループID、クライアントIDを入力して下さい。

グループID

クライアントID 1

InstallShield

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

- (10) 「サーバの台数」画面が表示されますので、サーバの台数を『2』と入力し、「次へ」
をクリックします。

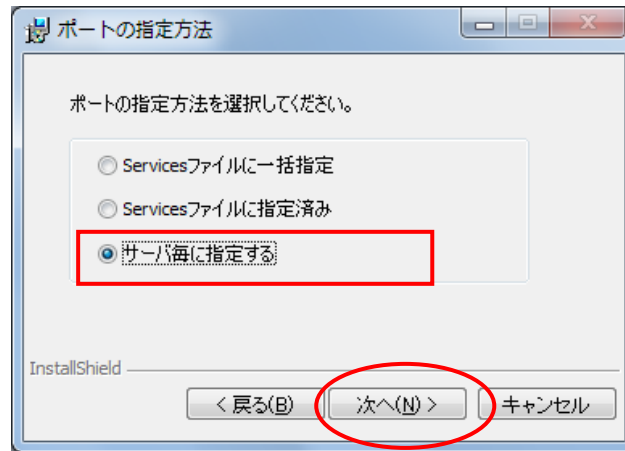
サーバの台数

サーバの台数を指定してください(1-5) 2

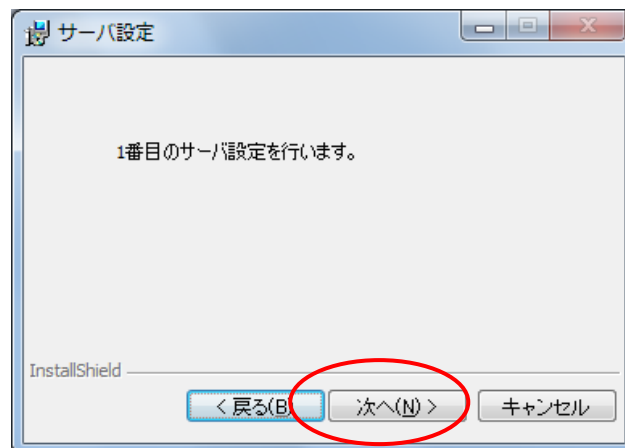
InstallShield

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

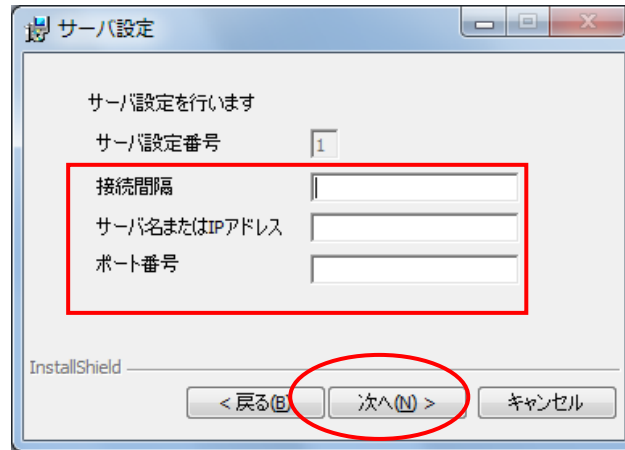
- (11) 「ポートの設定方法」画面が表示されますので、「サーバごとに指定する」を選択し、「次へ」をクリックします。



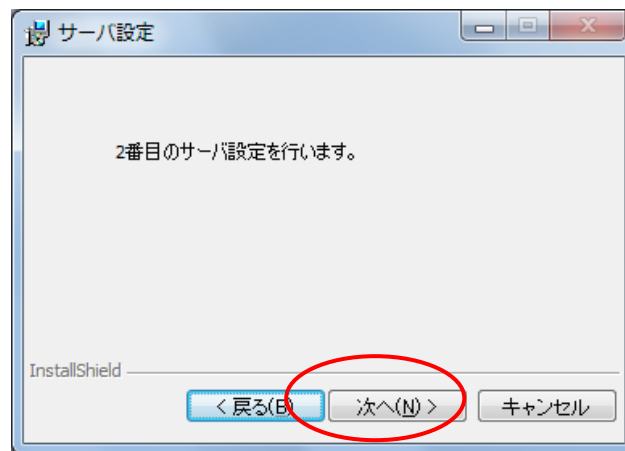
- (12) 「1 番目のサーバ設定を行います」画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。



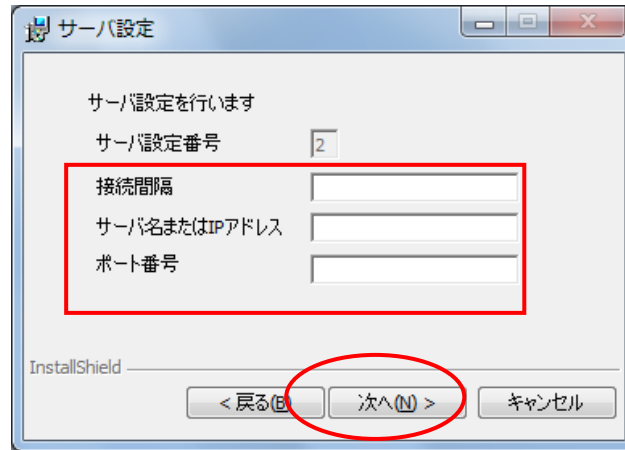
- (13) 「サーバ設定」画面が表示されますので、「接続間隔」、「サーバ名または IP アドレス」、「ポート番号」に「TADAOO/Notice パラメータ SG 条件書におけるサーバの設定（Server 接続用）の接続間隔、サーバ名または IP アドレス、ポート番号」を入力し、「次へ」をクリックします。



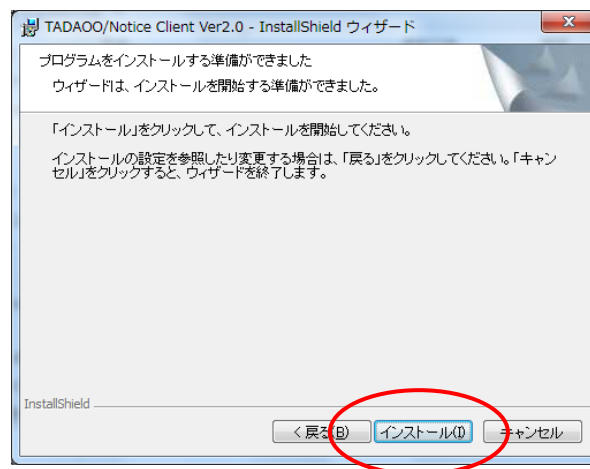
- (14) 「2 番目のサーバ設定を行います」画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。



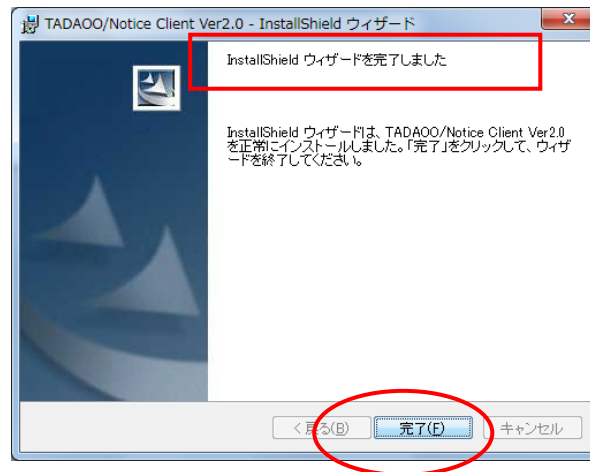
- (15) 「サーバ設定」画面が表示されますので、「接続間隔」、「サーバ名または IP アドレス」、「ポート番号」に「TADAO/Notice パラメータ SG 条件書におけるサーバの設定（Proxy 接続用）の接続間隔、サーバ名または IP アドレス、ポート番号」を入力し、「次へ」をクリックします。



- (16) 「プログラムをインストール～準備ができました」画面が表示されますので、「インストール」をクリックします。



- (17) 「Install～完了しました」画面が表示されますので、「完了」をクリックします。



- (18) エクスプローラを閉じます。
- (19) 「TADAO Notice Ver2.0」を DVD ドライブから取出します。
- (20) 「スタート」→「すべてのプログラム」→「TADAO」→「Notice Client」が存在することを確認します。

2.4. Microsoft .NET Framework Language Pack 導入

2.4.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	5 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT 系)	5 分	<input type="checkbox"/>

2.4.2. 準備物

項番	種別	名称	確認
1	DVD-ROM	作業用媒体（一拠点集約化システム）（共通NW・介護）	<input type="checkbox"/>

2.4.3. 前提条件

項番	前提条件	確認
1	“ドメイン名(NetBIOS)¥KG-UserAdmin”でログオンすること	<input type="checkbox"/>

2.4.4. Microsoft .NET Framework Language Pack のインストール手順

- (1) 「作業用媒体（一拠点集約化システム）（共通NW・介護）」DVD-ROM を DVD ドライブにセットします。
- (2) 「自動再生」画面が表示されますので、「フォルダーを開いてファイルを表示」をクリックします。
- (3) エクスプローラが表示されますので、「E:¥Microsoft¥dotNET Framework4¥dotNetFx40LP_Client_x86_x64ja.exe」をダブルクリックします。
- (4) 「Microsoft .NET Framework Language Pack セットアップ」画面が表示されましたら、「同意する」にチェックを入れ、「インストール」をクリックします。



- (5) 「インストールが完了しました」画面が表示されましたら、「完了」をクリックします。



- (6) DVD ドライブより「作業用媒体(一拠点集約化システム) (共通NW・介護)」DVD-ROM を取出します。
- (7) マシンを再起動します。

2.5. Microsoft XML4.0SP2 パーサ導入

2.5.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	5 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT 系)	5 分	<input type="checkbox"/>

2.5.2. 準備物

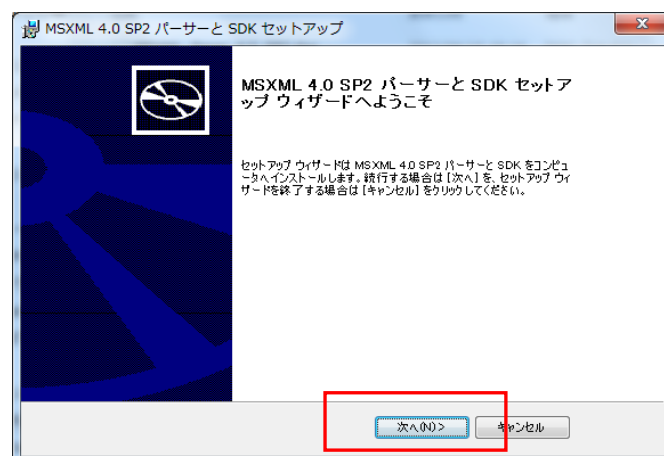
項番	種別	名称	確認
1	DVD-ROM	作業用媒体 (一拠点集約化システム) (共通NW・介護)	<input type="checkbox"/>

2.5.3. 前提条件

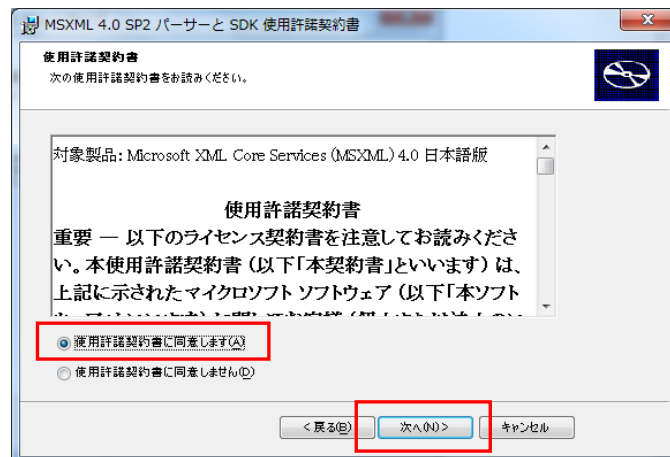
項番	前提条件	確認
1	“ドメイン名(NetBIOS)¥KG-UserAdmin”でログオンすること	<input type="checkbox"/>

2.5.4. Microsoft XML パーサのインストール手順

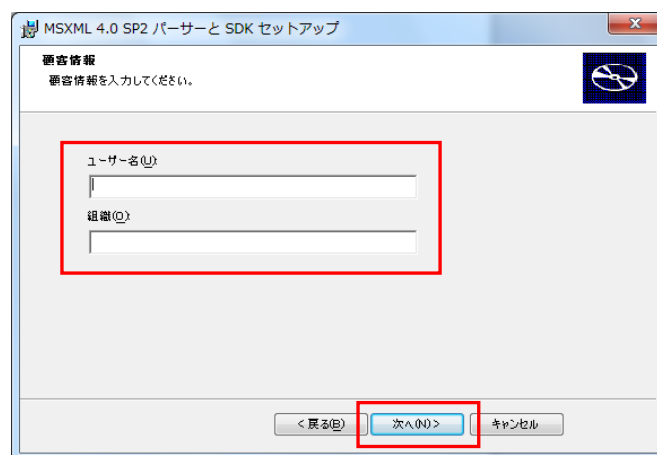
- (1) 「作業用媒体 (一拠点集約化システム) (共通NW・介護)」 DVD-ROM を DVD ドライブにセットします。
- (2) 「自動再生」画面が表示されますので、「フォルダーを開いてファイルを表示」をクリックします。
- (3) エクスプローラが表示されますので、「E:¥Microsoft¥MSXML」フォルダ内の「msxmljpn.msi」ファイルをダブルクリックします。
- (4) 「MSXML 4.0 SP2 パーサーと SDK セットアップウィザードへようこそ」画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。



- (5) 「使用許諾契約書」画面が表示されますので、「使用許諾契約書に同意します」にチェックを入れ、「次へ」をクリックしてください。



- (6) 「顧客情報」画面が表示されましたら、下表のとおり設定し、「次へ」をクリックします。



設定項目	設定内容	確認
ユーザ名	ooo国保連合会	<input type="checkbox"/>
会社名	ooo国保連合会	<input type="checkbox"/>

※oooは都道府県名

- (7) 「セットアップの種類を選択」画面が表示されましたら、「今すぐインストール」をクリックします。



- (8) 「MSXML 4.0 SP2 パーサーと SDK セットアップウィザードの完了」画面が表示されましたら、「完了」をクリックします。



- (9) エクスプローラを閉じます。
- (10) 「作業用媒体(一拠点集約化システム)(共通NW・介護)」DVD-ROM を DVD-ROM ドライブから取出します。
- (11) マシンを再起動します。

2.6. Adobe Reader 導入

2.6.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	5 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT 系)	5 分	<input type="checkbox"/>

2.6.2. 準備物

項番	種別	名称	確認
1	DVD-ROM	作業用媒体 (一拠点集約化システム) (共通NW・介護)	<input type="checkbox"/>

2.6.3. 前提条件

項番	前提条件	確認
1	“ドメイン名 (NetBIOS) ¥K¥G¥UserAdmin”でログオンしていること。	<input type="checkbox"/>

2.6.4. Adobe Reader のバージョン確認

- (1) 「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
- (2) 「コントロールパネル」画面にて「プログラムと機能」をクリックします。
※「プログラムと機能」が存在しない場合は、「プログラム」をクリック後、「プログラムと機能」を選択します。
- (3) 「プログラムと機能」画面が表示されましたら、右ペインの一覧より「Adobe Reader XI MUI」が存在することを確認します。

項番	確認項目	確認
1	「Adobe Reader XI MUI」が存在すること	<input type="checkbox"/>

※「Adobe Reader (10.1.4) – Japanese」がインストールされていた場合は、以下「2.6.5. Adobe Reader のアンインストール手順」手順は不要となりますので、「2.6.6. Adobe Reader のインストール手順」の項番 (10) まで飛ばしてください。

※「Adobe Reader X(10.1.4) – Japanese」及び「Adobe Reader XI MUI」が両方ともインストールされていない場合は、以下「2.6.5. Adobe Reader のアンインストール手順」手順は不要となりますので、「2.6.6. Adobe Reader のインストール手順」を実施してください。

- (4) 「プログラムと機能」画面を閉じます。

2.6.5. Adobe Reader のアンインストール手順

- (1) 「スタート」→「コントロールパネル」をクリックします。
- (2) 「コントロールパネル」画面にて「プログラムと機能」をクリックします。
※「プログラムと機能」が存在しない場合は、「プログラム」をクリック後、「プログラムと機能」を選択します。
- (3) 「プログラムと機能」画面が表示されましたら、右ペインの一覧より「Adobe Reader XI MUI」を選択し、右クリックより「アンインストール」をクリックします。
- (4) 「Adobe Reader XI MUI をアンインストールしますか？」と表示されますので、「はい」をクリックします。



- (5) 「プログラムと機能」画面に戻りますので、右ペインの一覧より「Adobe Reader XI MUI」が存在しないことを確認します。

項番	確認項目	確認
1	「Adobe Reader XI MUI」が存在しないこと	<input type="checkbox"/>

2.6.6. Adobe Reader のインストール手順

- (1) 「作業用媒体（一拠点集約化システム）（共通NW・介護）」を DVD ドライブにセットします。
- (2) 「自動再生」画面が表示されますので、「フォルダーを開いてファイルを表示」をクリックします。
- (3) エクスプローラが表示されますので、「E:\¥adobe¥AdbeRdr1014_ja_JP.exe」をダブルクリックします。
- (4) 「Adobe Reader X (10.1.4)をインストールする用意ができました」画面が表示されましたら、「～インストール先：」が下表の設定内容が表示されていることを確認し、「インストール」をクリックします。

設定項目	設定内容
フォルダ名	C:\¥Program Files (x86)\¥Adobe¥Reader 10.0¥

- (5) 「セットアップ完了」画面が表示されましたら、「完了」をクリックします。
- (6) エクスプローラを閉じます。
- (7) DVD ドライブより「作業用媒体（一拠点集約化システム）（共通NW・介護）」DVD-ROM を取出します。
- (8) マシンを再起動します。
- (9) マシンを起動後、ログイン画面にて、「ユーザ名」に『設定変動表のドメイン名 (NetBIOS)¥KG-UserAdmin』を入力し、「パスワード」に『パスワード一覧のドメイン名 (NetBIOS)¥KG-UserAdmin のパスワード』を入力して、「OK」をクリックします。

- (10) デスクトップに作成された「Adobe Reader X」のショートカットアイコンをダブルクリックします。
※ショートカットアイコンがない場合、「スタート」→「すべてのプログラム」→「Adobe Reader X」をクリックしてください。
- (11) 「Adobe Reader X - パーソナルコンピュータでの使用に関する配布の使用許諾契約」画面が表示されましたら、「同意する」をクリックします。
- (12) メニューバーの「編集」→「環境設定」をクリックします。
- (13) 「環境設定」画面が表示されましたら、左欄から「アップデーター」を選択します。
- (14) 「アップデートの有無をチェック」が表示されましたら、「アップデートのダウンロードやインストールを自動的に行わない」にチェックを入れ、「OK」をクリックします。
- (15) 「Adobe Reader」画面が表示されましたら、画面右上の「×」をクリックし、画面を閉じます。

2.7. TADAOO XML Form Designer Ver4.1 導入

TADAOO/xmlFormDesignerVer4.1 をご利用になる場合は、導入関連情報「H25 システム導入-022」、「H25 システム導入-027」を参照してください。

2.8. JP1/Automatic Job Management System 3 User Job Operation 環境設定

2.8.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	10 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT 系)	10 分	<input type="checkbox"/>

2.8.2. 準備物

項番	種別	名称	確認
1	ドキュメント	設定変動表	<input type="checkbox"/>
2	ドキュメント	パスワード一覧	<input type="checkbox"/>

2.8.3. 前提条件

項番	前提条件	確認
1	“ドメイン名 (NetBIOS) ¥KKG-UserAdmin”でログオンすること	<input type="checkbox"/>

2.8.4. JP1/AJS3 - User Job Operation Client 接続確認


- (1) 「スタート」→「すべてのプログラム」→「JP1_AutomaticJob Management System3 - User Job Operation」→「JP1_AJS3 - UJO_Client」を選択します。
- (2) 「Adobe AIR」画面が表示されたら、「同意する」をクリックします。
- (3) 「JP1/AJS3 - User Job Operation」画面が表示されたら、「ユーザ名」「パスワード」「接続ホスト名」に下表の設定をし、「ログイン」をクリックします。

項目		設定内容
ユーザ名		jp1admin
パスワード		パスワード一覧を参照
接続ホスト名	運用管理クライアント	RKS01xxA
	運用管理クライアント (VT 系)	RKT01xxA

※ xx：都道府県番号

- (4) 「業務オペレーション」画面が表示されることを確認します。

確認項目	確認
「業務オペレーション」画面が表示されること	<input type="checkbox"/>

- (5) 「業務オペレーション」画面より「オプション」をクリックし、「カスタマイズ」を選択します。



- (6) 「カスタマイズ」画面が表示されましたら、「文字」に『運用メニュー』と入力し、「太字」にチェックを入れ、「OK」をクリックします。
- (7) 「運用メニュー」画面が表示されることを確認し、「×」をクリックします。

確認項目	確認
「運用メニュー」画面が表示されること	<input type="checkbox"/>

- (8) 「このウィンドウを閉じる～」画面が表示されますので、「はい」をクリックします。
- (9) 「スタート」→「すべてのプログラム」→「JP1_AutomaticJob Management System3 – User Job Operation」→「JP1_AJS3 – UJO_Client」を選択し、右クリックより「送る」→「デスクトップ（ショートカットを作成）」をクリックします。
- (10) デスクトップにて「JP1_AJS3 – UJO_Client」アイコンを選択し、右クリックより「名前の変更」を選択し、『運用メニュー』と入力します。
- (11) デスクトップに「運用メニュー」アイコンが存在することを確認します。

確認項目	確認
デスクトップに「運用メニュー」アイコンが存在すること	<input type="checkbox"/>

2.9. JP1/NETM Remote Control – Manager 環境設定

2.9.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	15 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT 系)	15 分	<input type="checkbox"/>

2.9.2. 準備物

項番	種別	名称	確認
1	ドキュメント	設定変動表	<input type="checkbox"/>

2.9.3. 前提条件

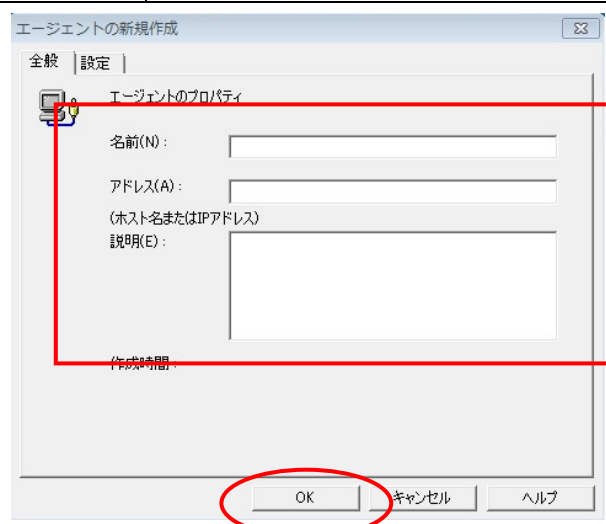
項番	前提条件	確認
1	“ドメイン名(NetBIOS)¥KKG-UserAdmin”でログオンすること	<input type="checkbox"/>

2.9.4. JP1/NETM Remote Control – Manager 環境設定手順

※ 以下の作業は、運用管理クライアントにて行います。

- (1) 「スタート」→「すべてのプログラム」→「JP1_Remote Control Manager」→「リモートコントロールマネージャ」を選択します。
- (2) 「Remote Control」画面が表示されるので、メニューバーより「エージェント」→「接続リストを編集」を選択します。
- (3) 「エージェントマネージャ」画面が開くので、「エージェントリスト」を右クリックし、「新しいエージェント」を選択します。
- (4) 「エージェントの新規作成」画面が開くので、設定変動表を参照し、「全般」タブにて以下の入力を行い、「OK」をクリックします。（oooは都道府県名）

項目	設定内容
名前	連合会連携サーバ
アドレス	連合会連携サーバの『IP アドレス(業務)』
説明	ooo国保連合会



- (5) 以下の内容について (2) ～ (4) の手順を繰り返し設定します。

項目	設定内容
名前	審査支払 DB サーバ
アドレス	審査支払 DB サーバの『IP アドレス(業務)』
説明	〇〇〇国保連合会

項目	設定内容
名前	特別徴収 DB サーバ
アドレス	特別徴収 DB サーバの『IP アドレス(業務)』
説明	〇〇〇国保連合会

項目	設定内容
名前	バックアップコントローラ
アドレス	バックアップコントローラの『IP アドレス(管理)』
説明	〇〇〇国保連合会

項目	設定内容
名前	都道府県・保険者受付サーバ
アドレス	都道府県・保険者受付サーバの『IP アドレス(業務)』
説明	〇〇〇国保連合会

項目	設定内容
名前	バックアップコントローラ 2
アドレス	バックアップコントローラ 2 の『IP アドレス(管理)』
説明	〇〇〇国保連合会

項目	設定内容
名前	セキュリティ管理サーバ
アドレス	セキュリティ管理サーバの『IP アドレス(管理)』
説明	〇〇〇国保連合会

項目	設定内容
名前	ログ管理サーバ
アドレス	ログ管理サーバの『IP アドレス(管理)』
説明	〇〇〇国保連合会

- (6) 設定がすべて完了しましたらメニューバーより「ファイル」→「保存」を選択します。
- (7) 「エージェントマネージャ」画面を閉じます。
- (8) 「Remote Control」画面を閉じます。

2.9.5. JP1/NETM Remote Control – Manager 環境設定 (VT 系) 手順

※ 以下の作業は、運用管理クライアント (VT 系) にて行います。

- (1) 「スタート」→「すべてのプログラム」→「JP1_Remote Control Manager」→「リモートコントロールマネージャ」を選択します。
- (2) 「Remote Control」画面が表示されるので、メニューバーより「エージェント」→「接続リストを編集」を選択します。
- (3) 「エージェントマネージャ」画面が開くので、「エージェントリスト」を右クリックし、「新しいエージェント」を選択します。
- (4) 「エージェントの新規作成」画面が開くので、設定変動表を参照し、「全般」タブにて以下の入力を行い、「OK」をクリックします。(oooは都道府県名)

項目	設定内容
名前	連合会連携サーバ (VT 系)
アドレス	連合会連携サーバ (VT 系) の『IP アドレス(業務)』
説明	ooo国保連合会

エージェントの新規作成

全般 | 設定

エージェントのプロパティ

名前(N):

アドレス(A):

(ホスト名またはIPアドレス)

説明(E):

作成時間:

OK キャンセル ヘルプ

- (5) 設定が完了しましたらメニューバーより「ファイル」→「保存」を選択します。
- (6) 「エージェントマネージャ」画面を閉じます。
- (7) 「Remote Control」画面を閉じます。

2.10. Microsoft Office 環境設定

2.10.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	30 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT)	30 分	<input type="checkbox"/>

2.10.2. 準備物

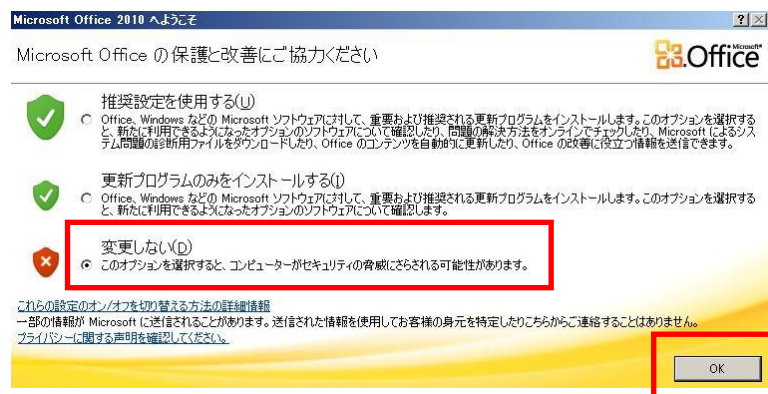
項番	種別	機能名	確認
1	ドキュメント	平成 25 年 1 月 17 日:事務連絡（一拠点集約化システムに係るソフトウェア媒体の送付）	<input type="checkbox"/>

2.10.3. 前提条件

項番	前提条件	確認
1	“ドメイン名(NetBIOS)¥KG-UserAdmin”でログオンすること	<input type="checkbox"/>

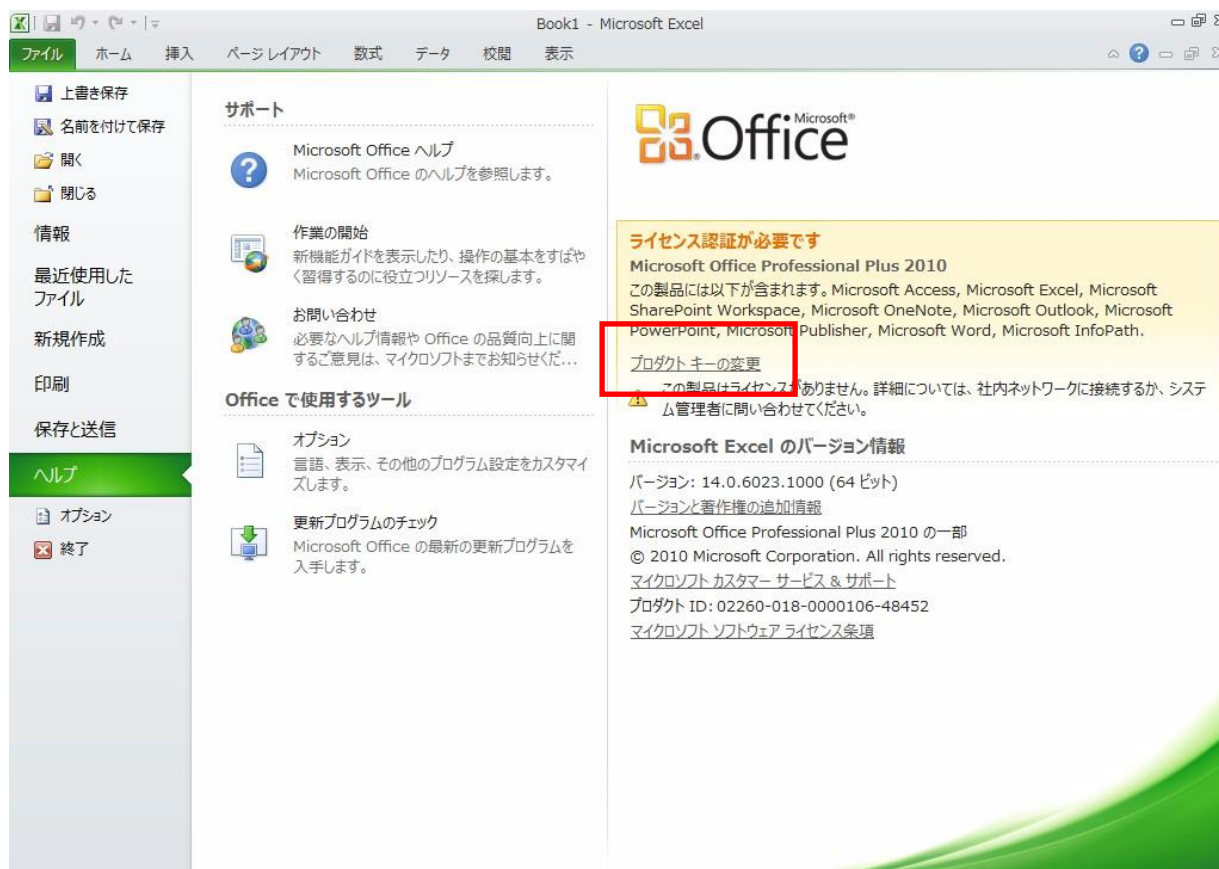
2.10.4. Microsoft Office 2010 のセットアップ手順

- (1) 「スタート」→「すべてのプログラム」→「Micorsoft Office」→「Micorsoft Excel 2010」をクリックします。
- (2) 「Microsoft Office 2010 へようこそ」画面が表示されましたら、「変更しない」にチェックを入れ「OK」をクリックします。



- (3) メニューバーの「ファイル」タブをクリックします。
- (4) 「ファイル」画面が表示されましたら、左メニューの「ヘルプ」をクリックします。

- (5) 「サポート」画面の画面右側の「プロダクトキーの変更」をクリックします。



- (6) 「プロダクトキーの入力」画面が表示されましたら、「平成 25 年 1 月 17 日:事務連絡（一拠点集約化システムに係るソフトウェア媒体の送付）」における Microsoft Office Professional Plus 2010 SP1 の **MAK 認証プロダクトキー** を入力し、「続行」をクリックします。
- (7) 「インストールの種類を選択してください」画面が表示されましたら、「ユーザー設定」をクリックします。
- (8) 「ユーザー情報を入力してください」画面が表示されましたら、下表のとおりを設定し、「今すぐインストール」をクリックします。

設定項目	設定内容	確認
氏名	〇〇〇国保連合会（〇〇〇は都道府県名）	<input type="checkbox"/>
頭文字	デフォルト（空白）	<input type="checkbox"/>
所属	〇〇〇国保連合会（〇〇〇は都道府県名）	<input type="checkbox"/>

- (9) 「Microsoft Office Professional Plus 2010 の構成が完了～」画面が表示されましたら、「閉じる」をクリックします。
- (10) 「Microsoft Excel」画面を閉じます。
- (11) 「スタート」→「すべてのプログラム」→「Microsoft Office」→「Microsoft Excel 2010」をクリックします。

- (12) 「Microsoft Office ライセンス認証ウィザード」画面が表示されましたら、「ソフトウェアのライセンス認証を電話で行う」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。
- (13) 「1. ダイアル元の国/地域を選択し～」タブを「日本」に選択し、画面の指示に従ってライセンス認証を行います。
- (14) 表示された電話番号に電話をし、ガイダンスに従って確認 ID を取得し、画面に入力します。
「電話によるライセンス認証手続きは、この製品ではサポートしておりません。」と表示された場合、以下の電話番号に電話し、確認 ID を取得します。
電話番号:0120-801-734
- (15) すべての確認 ID の入力完了しましたら「次へ」をクリックします。
- (16) 「～ライセンス認証が完了しました」と表示されるので「閉じる」をクリックします。
- (17) 「Microsoft Excel」画面を閉じます
- (18) 「スタート」→「すべてのプログラム」→「Microsoft Office」→「Microsoft Excel 2010」をクリックします。
- (19) メニューバーより「ファイル」をクリックします。
- (20) 「ファイル」画面が表示されましたら、左メニューの「ヘルプ」をクリックします。
- (21) 「サポート」画面の画面右側に「ライセンス認証された製品」と表示されていることを確認します
- (22) Microsoft Excel のバージョン情報が“14.0.6023.1000”となっていることを確認します。

項番	確認項目	確認
1	「サポート」画面の画面右側に「ライセンス認証された製品」と表示されていること	<input type="checkbox"/>
2	Microsoft Excel のバージョン情報が“14.0.6023.1000”となっていること	<input type="checkbox"/>

- (23) メニューバーの「ファイル」から「オプション」を選択します。
- (24) 「オプション」画面が表示されましたら、「セキュリティセンター」タブを選択し、「セキュリティセンターの設定」をクリックします。
- (25) 「マクロの設定」を選択し、「すべてのマクロを有効にする」にチェックを入れ、「OK」をクリックします。
- (26) すべての画面を閉じます。

2.11. Microsoft .NET Framework 3.5.1 有効化

2.11.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	10 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT)	10 分	<input type="checkbox"/>

2.11.2. 準備物

なし

2.11.3. 前提条件

項番	前提条件	確認
1	“ドメイン名(NetBIOS)¥KG-UserAdmin”でログオンすること	<input type="checkbox"/>

2.11.4. Microsoft .NET Framework3.5.1 有効化手順

- (1) 「スタート」→「コントロールパネル」→「プログラム」→「プログラムと機能」をクリックします。
- (2) 「Windows の機能の有効化または無効化」をクリックします。
- (3) 「Microsoft.NET Framework3.5.1」のツリーを展開します。
- (4) 「 Windows Communication Foundation HTTP Activation 」 , 「 Windows Communication Foundation Non-HTTP Activation」にチェック入れます。
- (5) 「OK」をクリックします。
- (6) 「プログラムと機能」を閉じます。

2.12. プリンタドライバ導入

2.12.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	10 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT 系)	10 分	<input type="checkbox"/>

2.12.2. 準備物

項番	種別	名称	確認
1	DVD-ROM	作業用媒体（一拠点集約化システム）（共通NW・介護）	<input type="checkbox"/>

2.12.3. 前提条件

項番	前提条件	確認
1	“ドメイン名(NetBIOS)¥KKG-UserAdmin”でログオンすること	<input type="checkbox"/>
2	プリンタへの IP アドレス設定が完了していること	<input type="checkbox"/>
3	プリンタが NW に接続されていること※	<input type="checkbox"/>

※ 各クライアントからプリンタへの疎通 (IP アドレスによる ping 疎通) が取れない場合、本設定が出来ませんので、プリンタの設定の確認を行なってください。

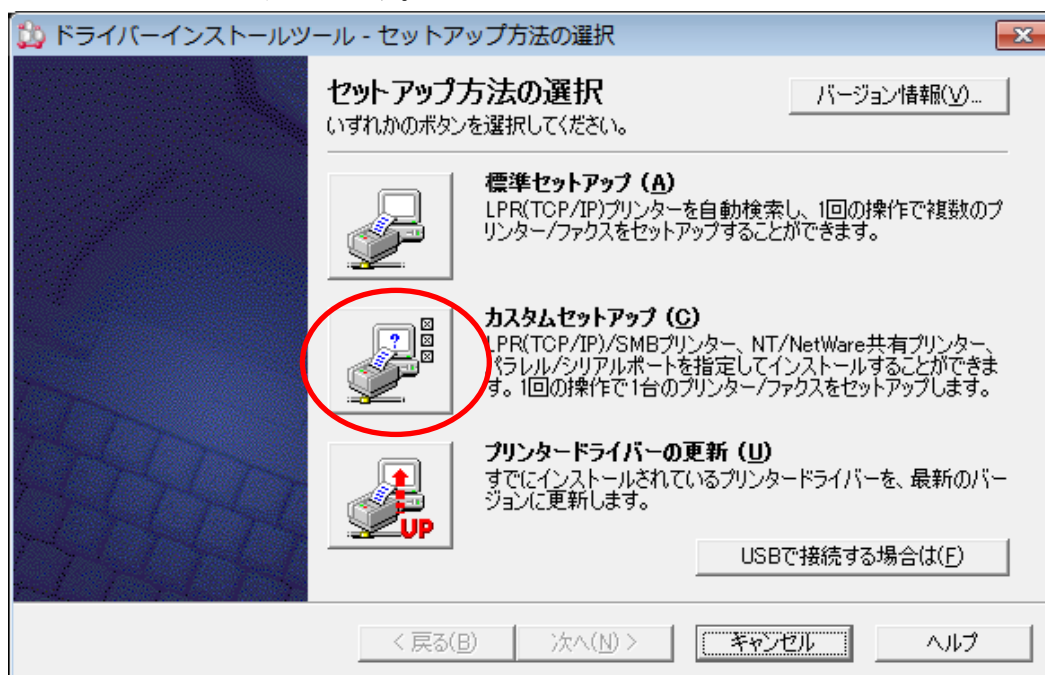
※ 本作業実施時にプリンタが搬入/設置されていない場合、後続の手順を実施ください。

2.12.4. プリンタ登録（物理プリンタ）

【富士ゼロックス DocuPrint3000 の場合】

- 「作業用媒体（一拠点集約化システム）（共通NW・介護）」DVD-ROM を DVD-ROM ドライブにセットします。
- 「E:¥プリンタドライバ¥FX_3000¥fxdp3100plw12091nwxp6fja.exe」をコピーし、エクスプローラを開いて「C¥temp」に貼り付けます。
- 「C:¥temp¥fxdp3100plw12091nwxp6fja.exe」ダブルクリックします。
- 「Driver Package」画面が表示されますので、デフォルトのまま、「OK」をクリックします。

- (5) 「セットアップ方法の選択」画面が表示されますので、「カスタムセットアップ」横のアイコンをクリックします。

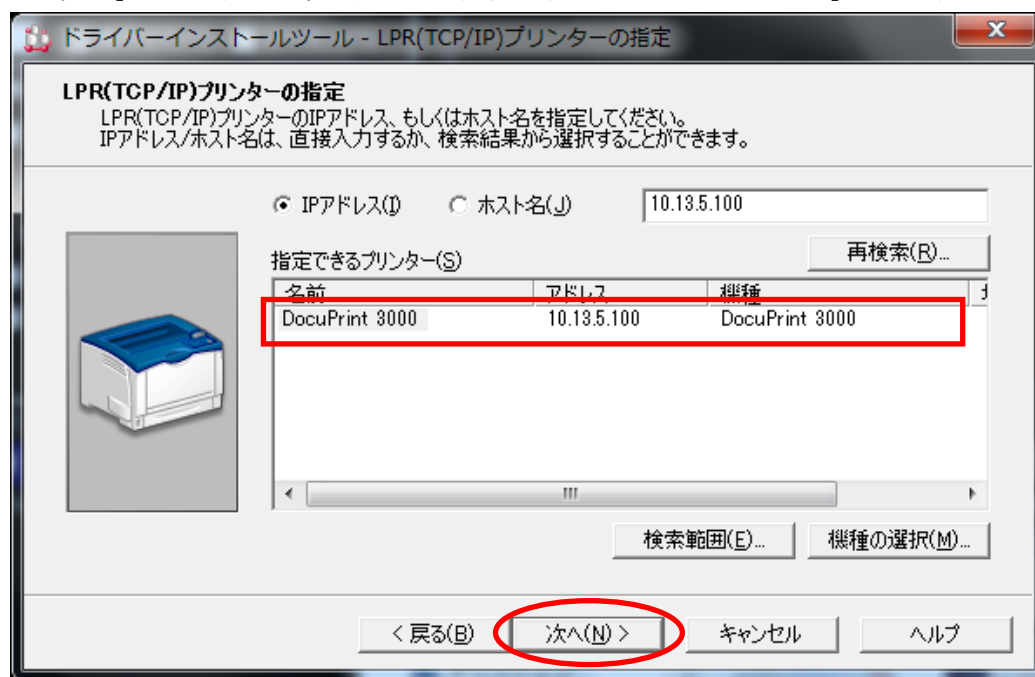


- (6) 「プリンター指定方法の選択」画面に切り替わりますので、「LPR(TCP/IP)プリンターを指定する」を選択し、「次へ」をクリックします。

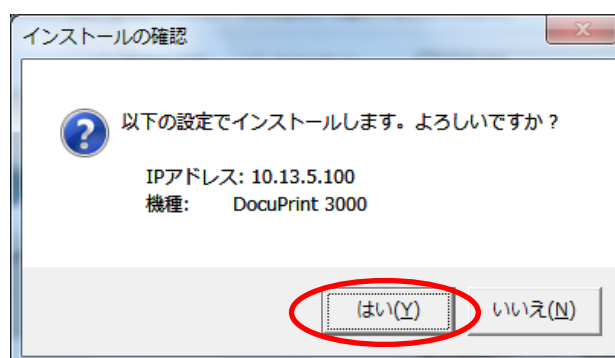


- (7) 「LPR(TCP/IP)プリンターの指定」画面が表示されますので、「DocuPrint 3000」が表示されている事を確認し、選択してから「次へ」をクリックします。

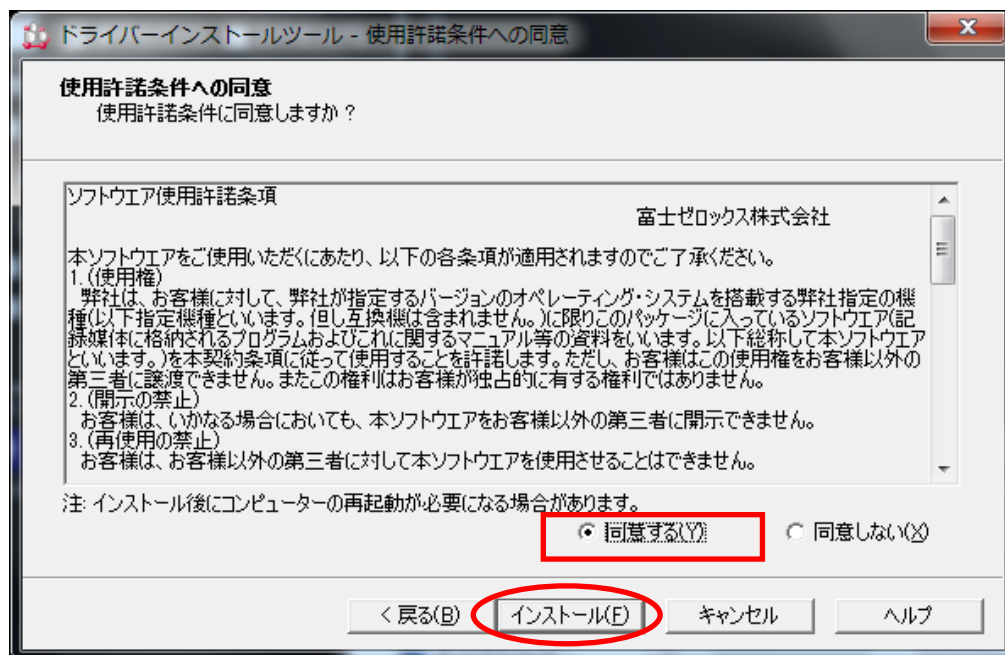
※プリンタが表示されない場合は、「IP アドレス」にチェックを付け、IP アドレスを入力してから「再検索」をクリックします。それでも見つからない場合は、そのまま「次へ」をクリックし、メッセージ画面が表示されましたら「OK」をクリックします。



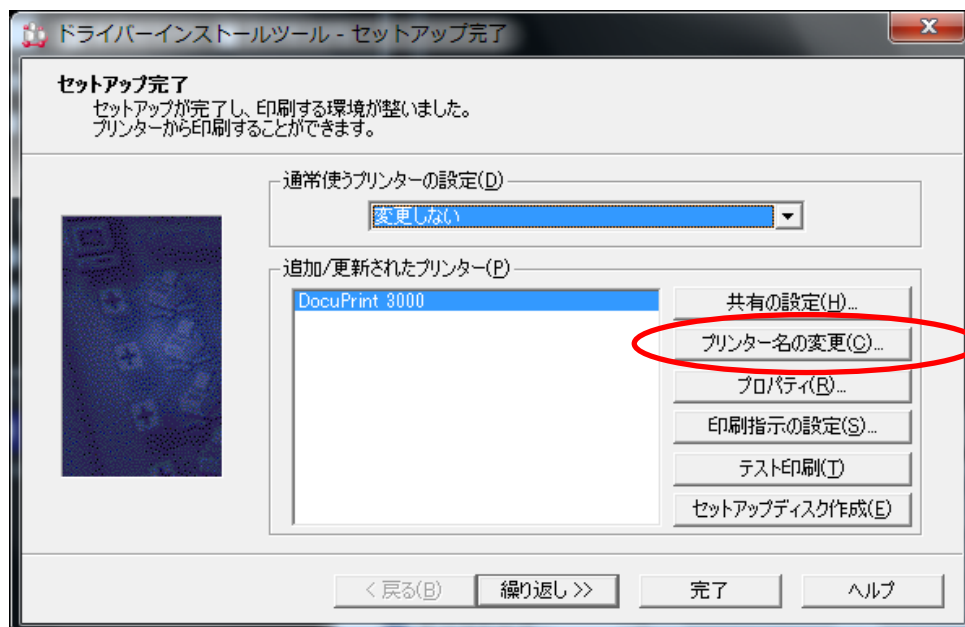
- (8) 「インストールの確認」画面が表示されますので、プリンタ情報が正しければ「はい」をクリックします。



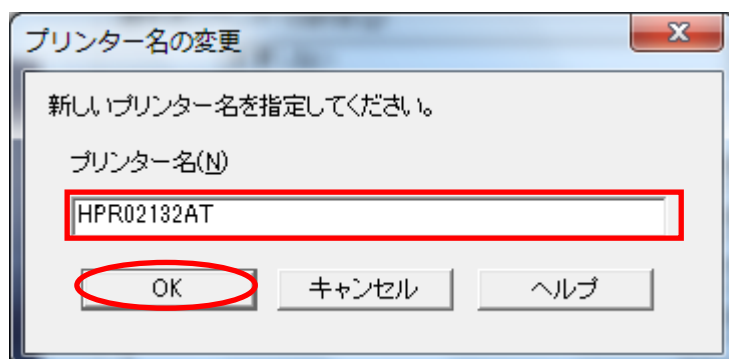
- (9) 「仕様許諾条件への同意」画面が表示されますので、「同意する」にチェックを付けてから「インストール」をクリックします。



- (10) 「セットアップ完了」画面が表示されましたら、「プリンター名の変更」をクリックします。

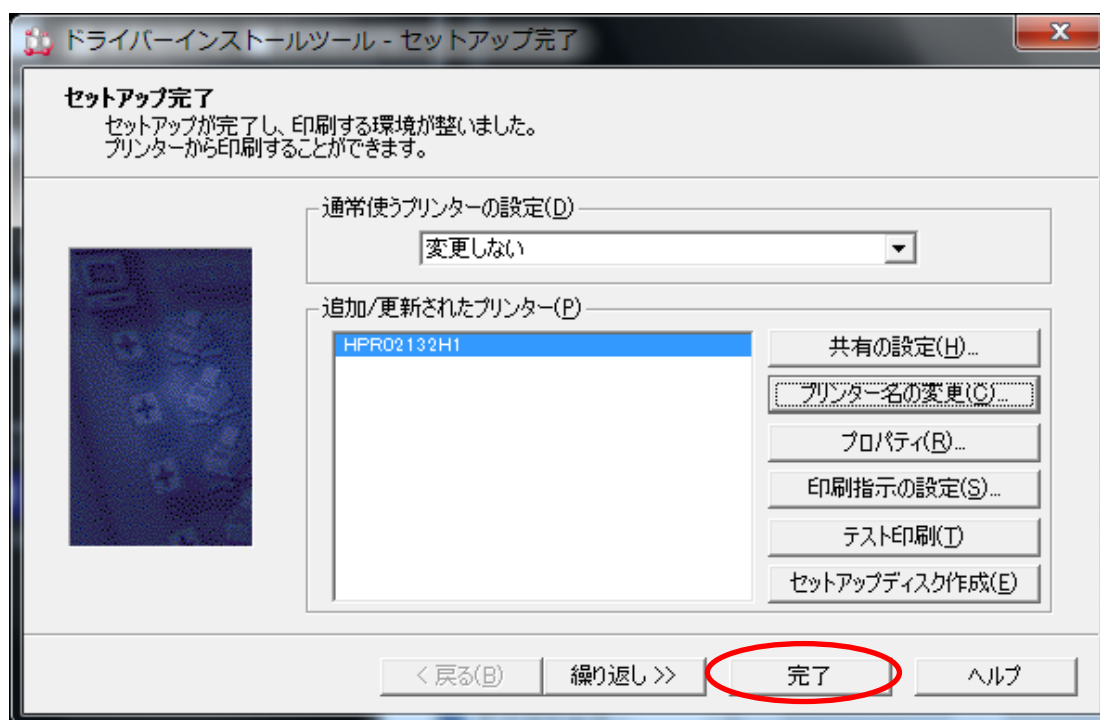


- (11) 「プリンター名の変更」画面が表示されますので、プリンタ名を「設定変動表のプリンタ名AT」に変更し、「OK」をクリックします。

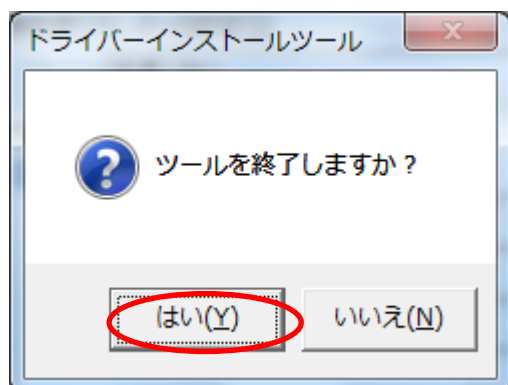


項目	設定内容	確認
プリンター名	設定変動表のプリンタ名AT	<input type="checkbox"/>

- (12) 「セットアップ完了」画面に戻りますので、「完了」をクリックします。



- (13) 「ツールを終了しますか？」画面が表示されましたら、「はい」をクリックします。

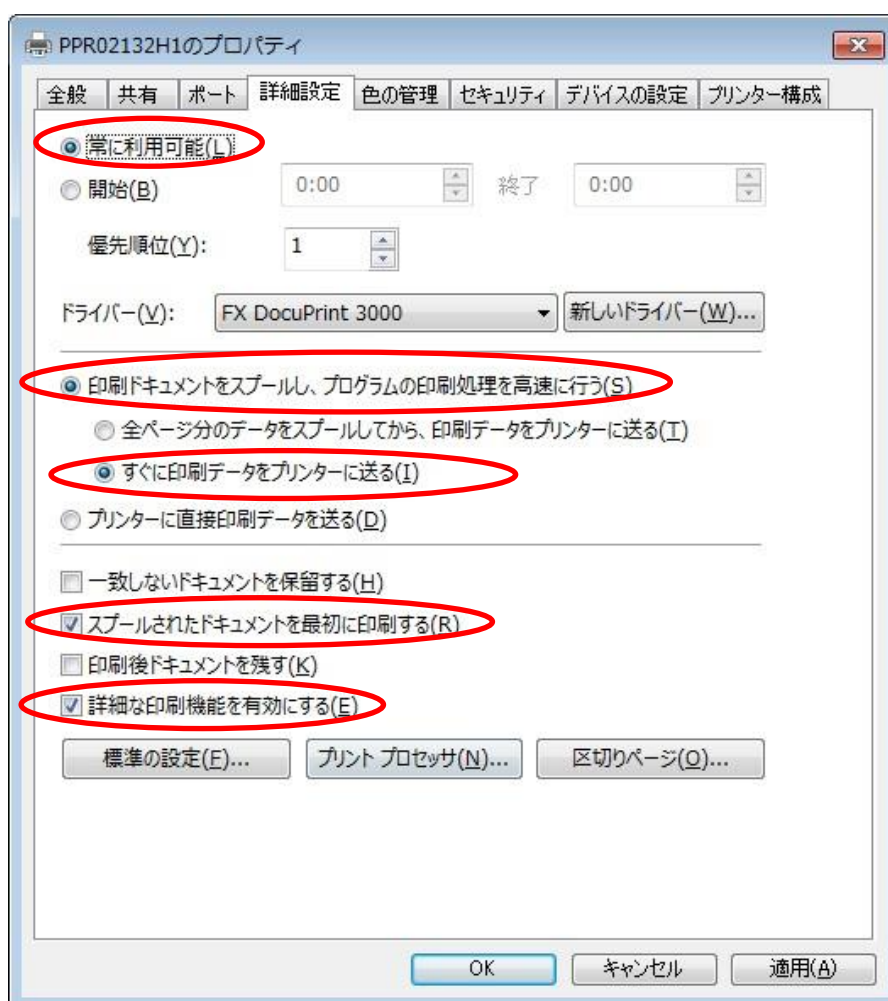


- (14) 「スタート」→「コントロールパネル」で「デバイスとプリンター」画面を開き、追加したプリンタのアイコンを選択し、右クリック→「プリンタのプロパティ」を選択します。

- (15) 「プリンタのプロパティ」画面が開きますので、「詳細設定」タブをクリックします。



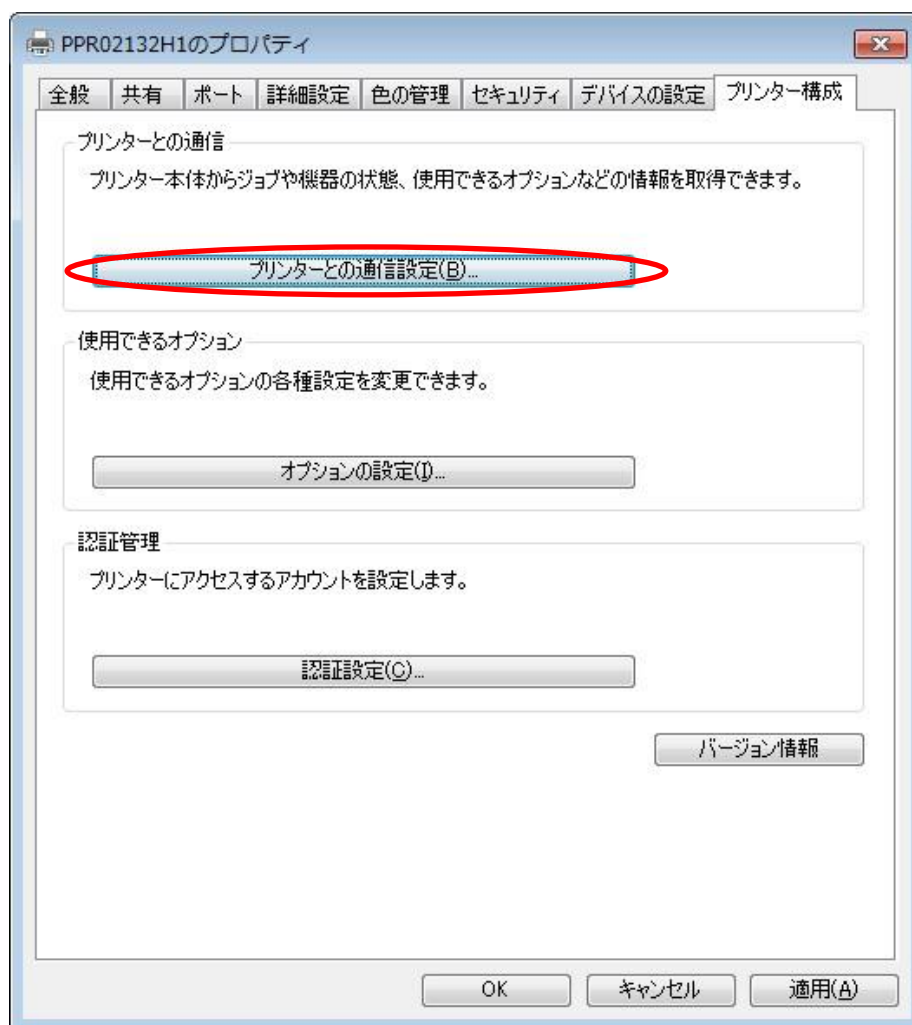
(16) 「プリンタのプロパティ」画面の「詳細設定」タブにて、下表の通りに設定します。



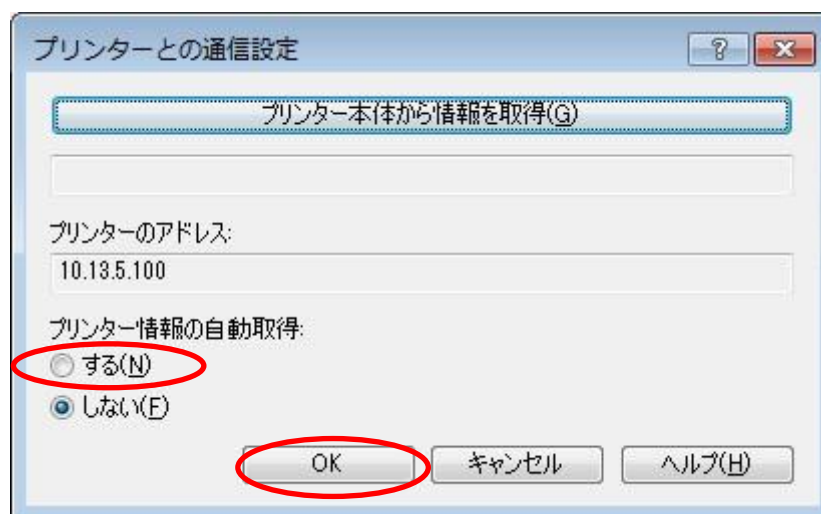
設定項目	設定内容
常に利用可能	ON
印刷ドキュメントをスプールし、プログラムの印刷処理を高速に行う	ON
全ページ分のデータをスプールしてから、印刷データをプリンタに送る	OFF
すぐに印刷データをプリンタに送る	ON
一致しないドキュメントを保留する	OFF
スプールされたドキュメントを最初に印刷する	ON
印刷後ドキュメントを残す	OFF
詳細な印刷機能を有効にする	ON

(17) 「プリンター構成」タブをクリックします。

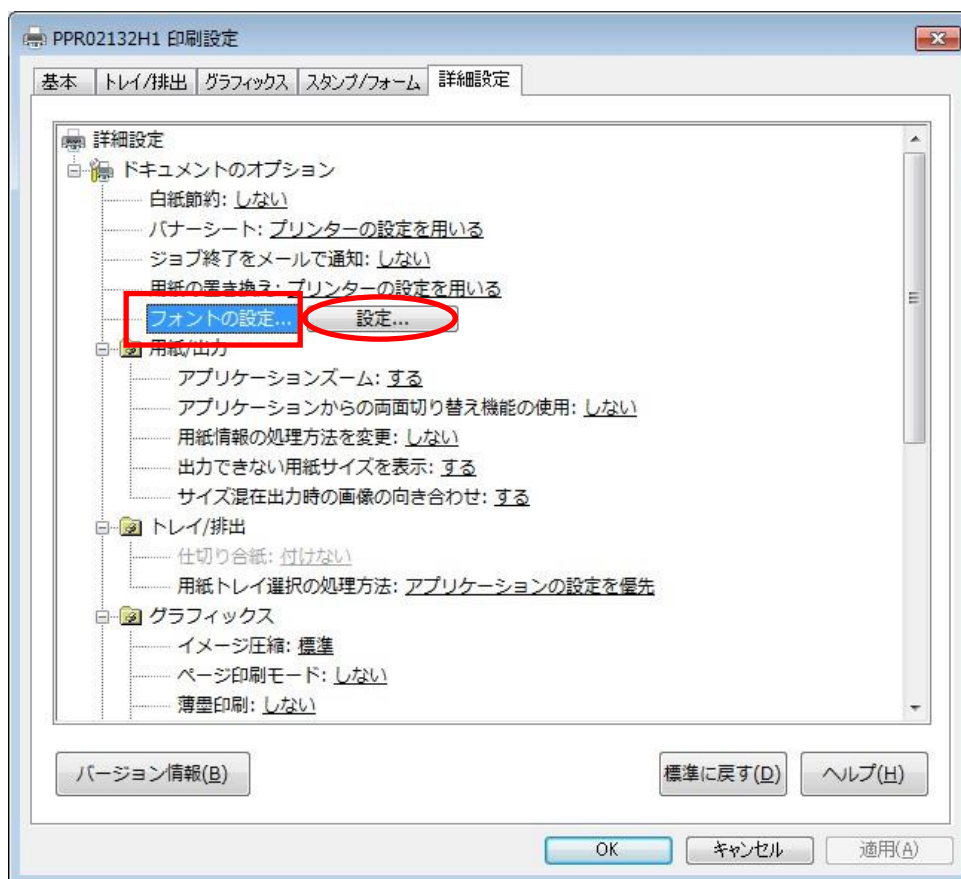
(18) 「プリンターとの通信設定」をクリックします。



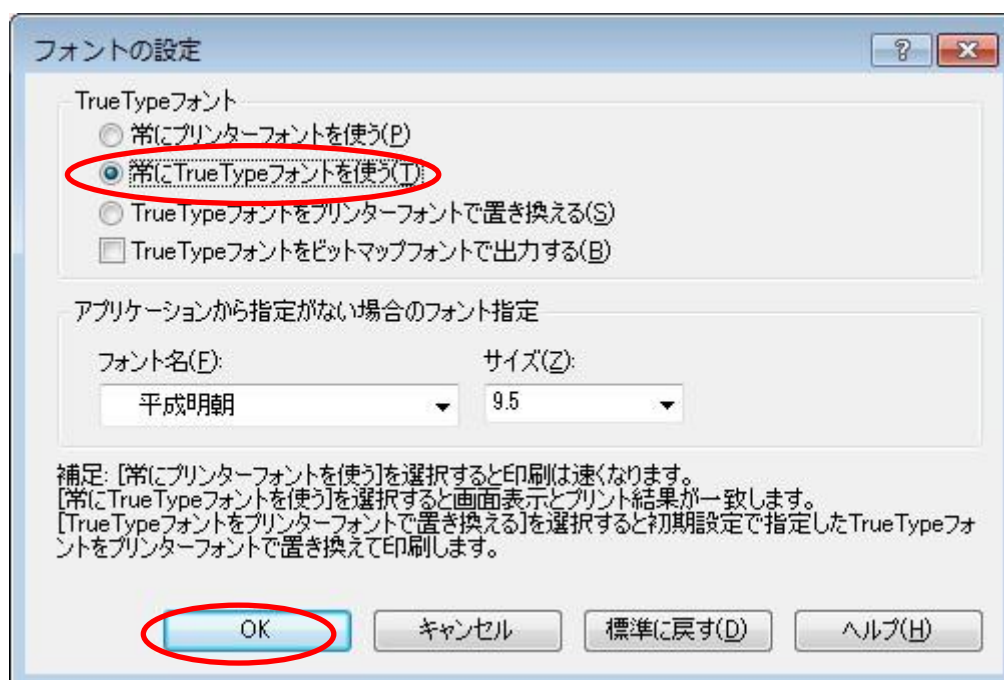
(19) 「プリンターとの通信設定」画面が表示されますので、「プリンター情報の自動取得」を「する」を選択し、「OK」をクリックします。



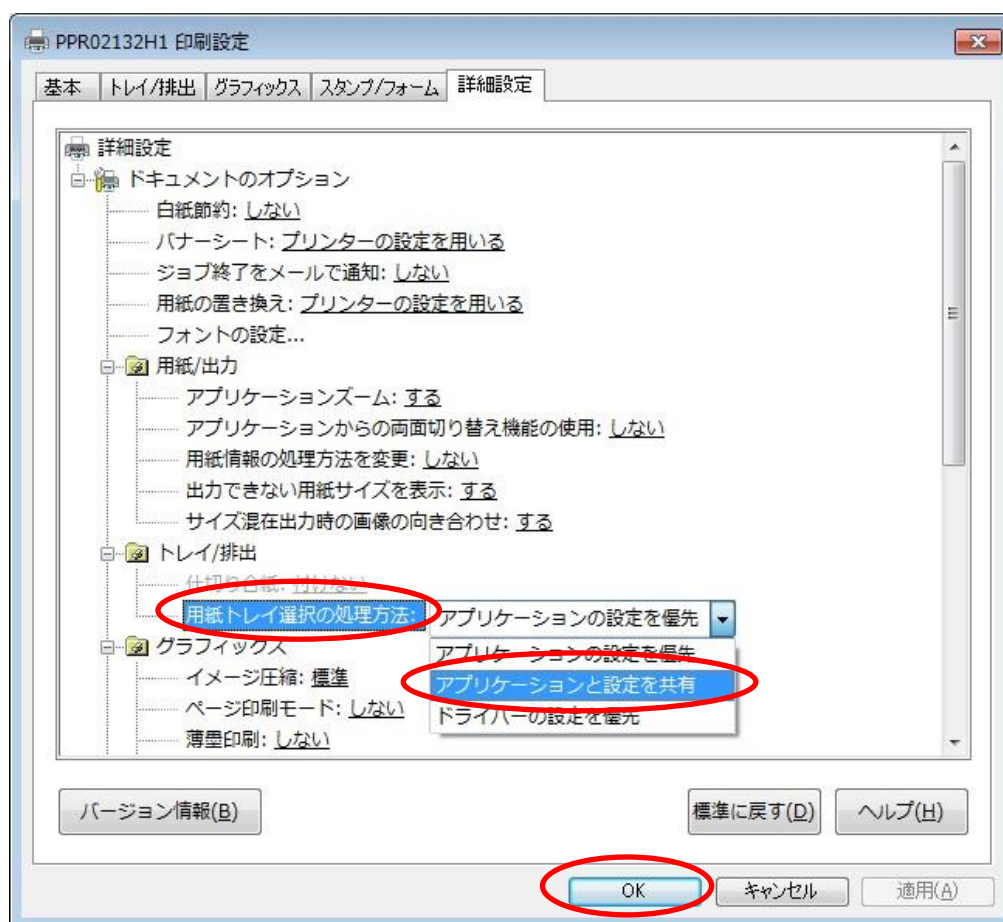
- (20) 再度「全般」タブをクリックし、「基本設定」をクリックします。
- (21) 「印刷設定」画面が表示されますので、「詳細設定」タブをクリックします。
- (22) ドキュメントのオプションから、「フォントの設定」を選択し、「設定」をクリックします。



- (23) 「フォントの設定」画面が表示されますので、「常に True Type フォントを使う」にチェックを付け、「OK」をクリックします。



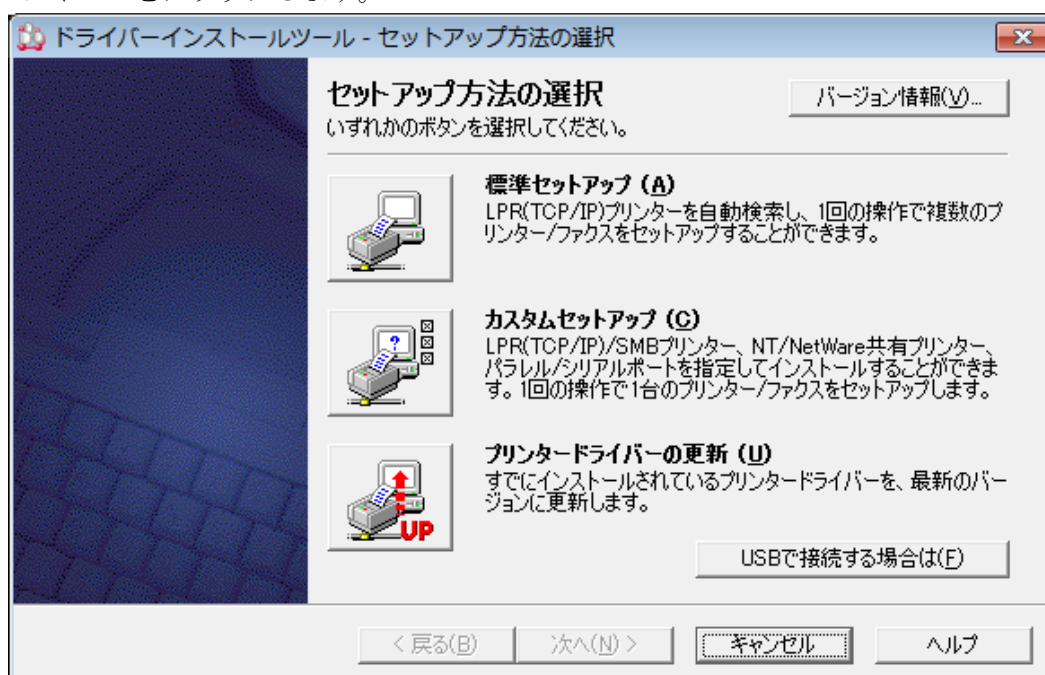
- (24) 「トレイ排出」の「用紙トレイ選択の処理方法」をクリックし、隣のプルダウンより「アプリケーションと設定を共有」を選択し、「OK」をクリックします。



- (25) 「プロパティ」画面を閉じます。
- (26) 「作業用媒体（一拠点集約化システム）（共通NW・介護）」DVD-ROM を DVD-ROM ドライブから取り出します。
- (27) 「C:\temp¥cswnd」と「C:\temp¥fxdp3100plw12091nwxp6fja.exe」を削除します。

【富士ゼロックス DocuPrint4060 の場合】

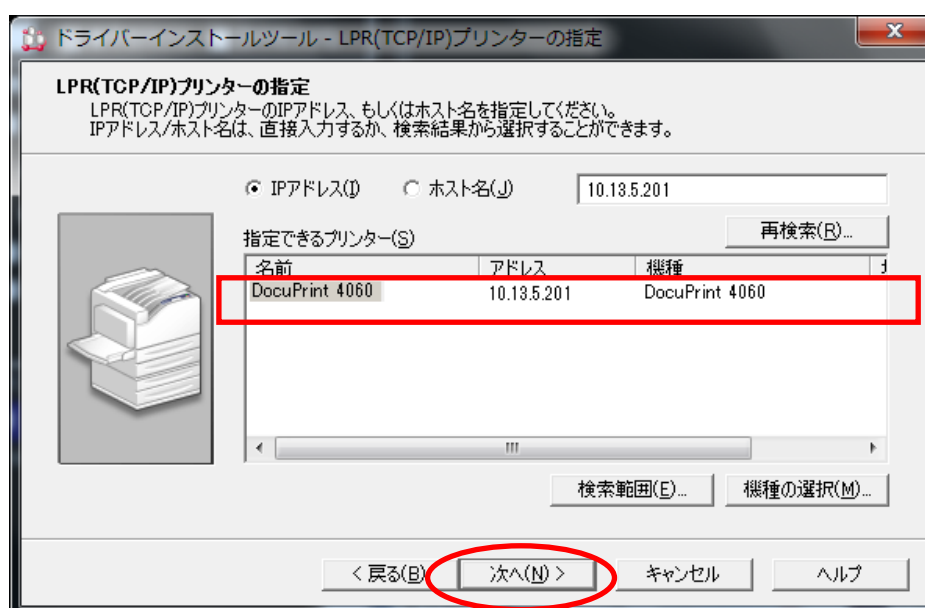
- (1) 「作業用媒体（一拠点集約化システム）（共通NW・介護）」DVD-ROM を DVD-ROM ドライブにセットします。
- (2) 「E:\¥プリンタドライバ¥FX_4600¥fxdp5060plw12081nwxp6fja.exe」をコピーし、エクスプローラを開いて「C¥temp」に貼り付けます。
- (3) 「C¥temp¥fxdp5060plw12081nwxp6fja.exe」をダブルクリックします。
- (4) 「Driver Package」画面が表示されますので、デフォルトのまま、「OK」をクリックします。
- (5) 「セットアップ方法の選択」画面が表示されますので、「カスタムセットアップ」横のアイコンをクリックします。



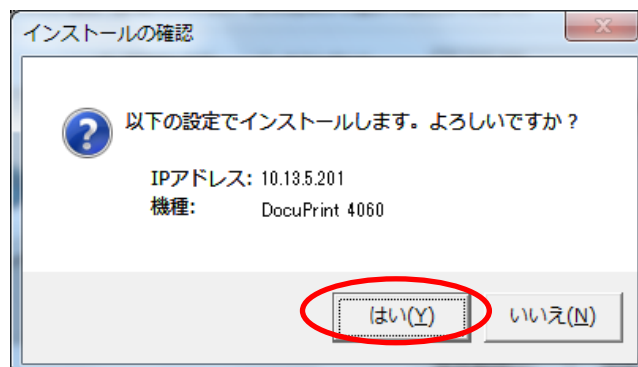
- (6) 「プリンター指定方法の選択」画面に切り替わりますので、「LPR(TCP/IP)プリンターを指定する」を選択し、「次へ」をクリックします。



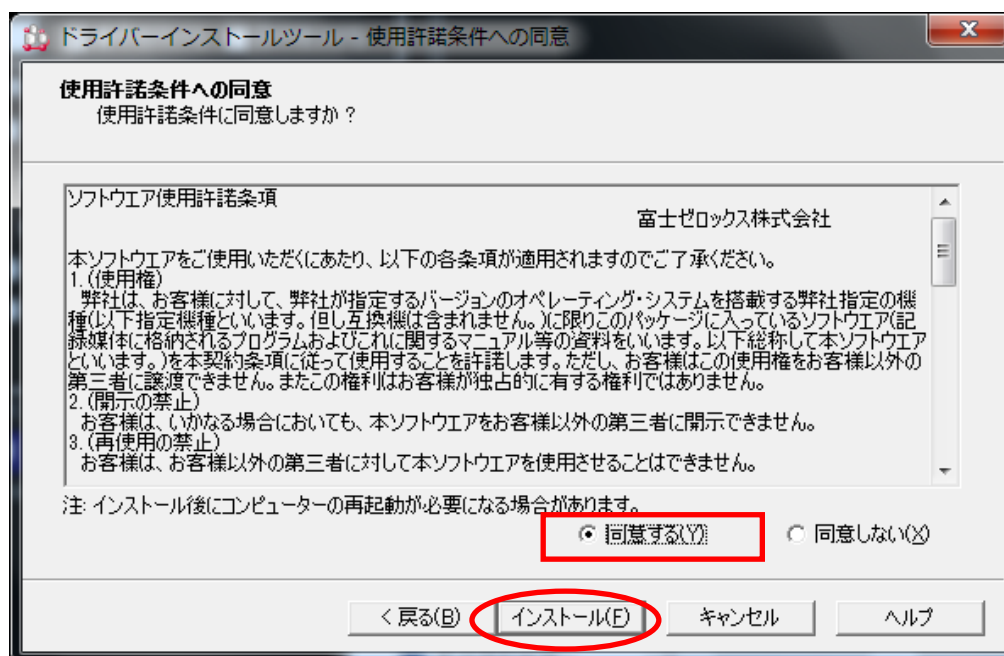
- (7) 「LPR(TCP/IP)プリンターの指定」画面が表示されますので、“DocuPrint 4060”が表示されている事を確認し、選択してから「次へ」をクリックします。
- ※プリンタが表示されない場合は、「IP アドレス」にチェックを付け、IP アドレスを入力してから「再検索」をクリックします。それでも見つからない場合は、そのまま「次へ」をクリックし、メッセージ画面が表示されましたら「OK」をクリックします。



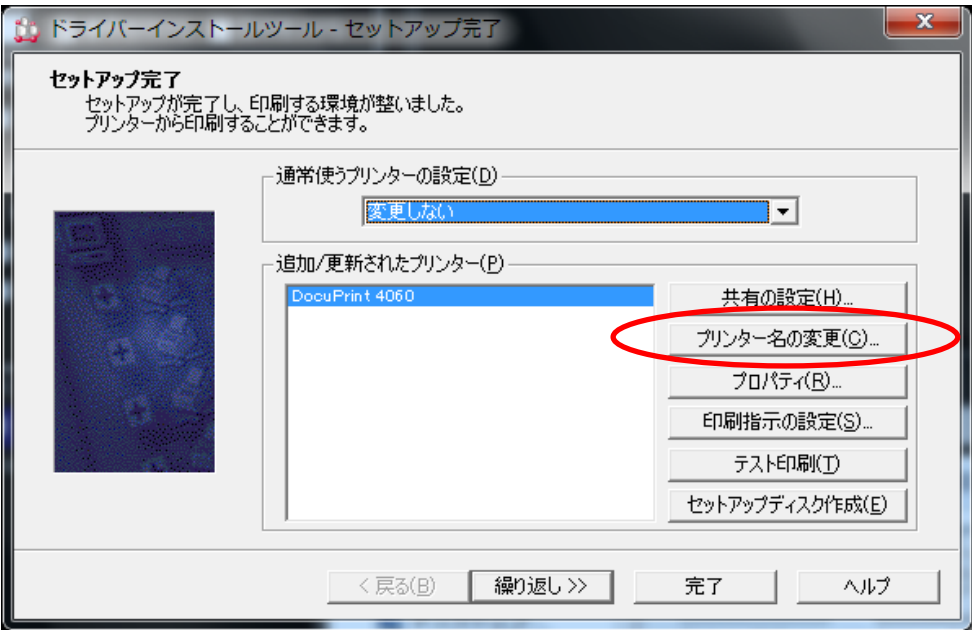
- (8) 「インストールの確認」画面が表示されますので、プリンタ情報が正しければ「はい」をクリックします。



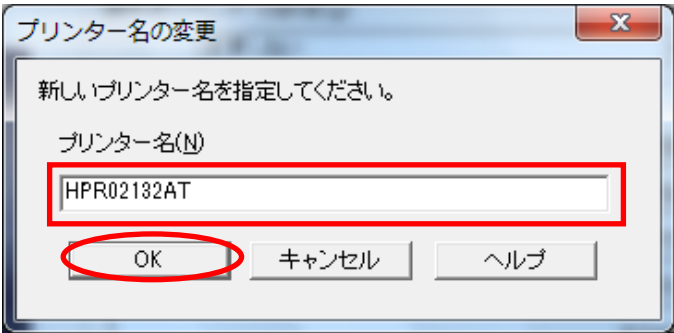
- (9) 「仕様許諾条件への同意」画面が表示されますので、「同意する」にチェックを付けてから「インストール」をクリックします。



- (10) 「セットアップ完了」画面が表示されましたら、「プリンター名の変更」をクリックします。

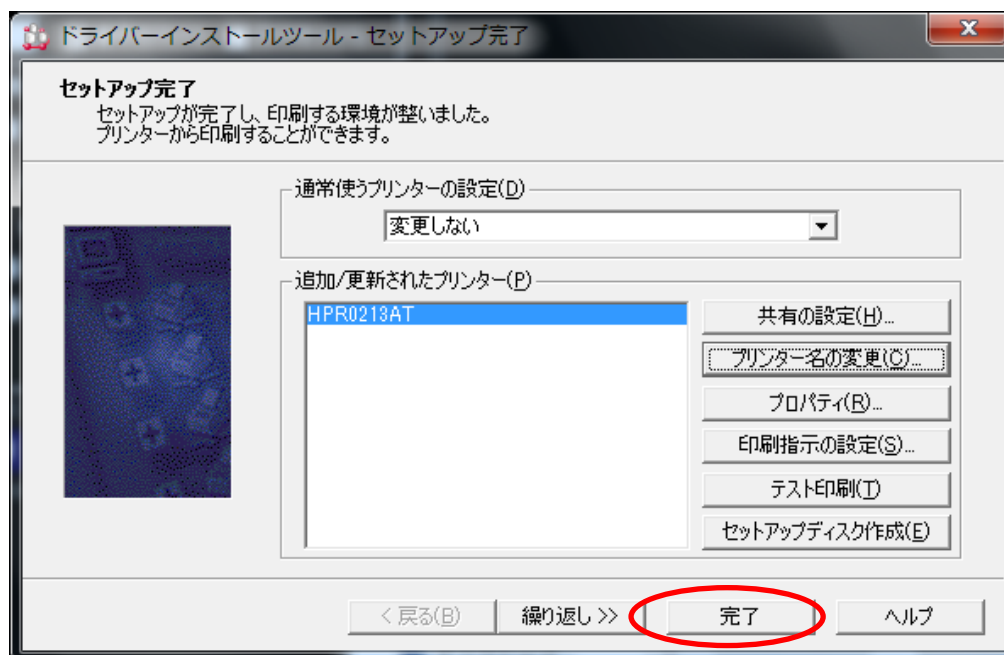


- (11) 「プリンター名の変更」画面が表示されますので、プリンタ名を「設定変動表のプリンタ名AT」に変更し、「OK」をクリックします。

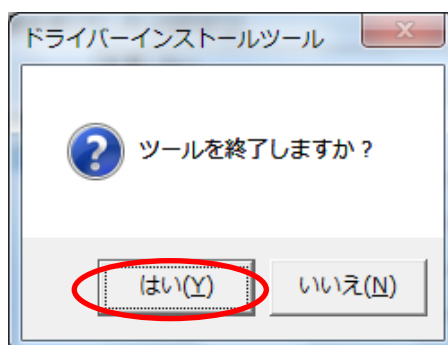


項目	設定内容	確認
プリンター名	設定変動表のプリンタ名AT	<input type="checkbox"/>

- (12) 「セットアップ完了」画面に戻りますので、「完了」をクリックします。



- (13) 「ツールを終了しますか？」画面が表示されましたら、「はい」をクリックします。

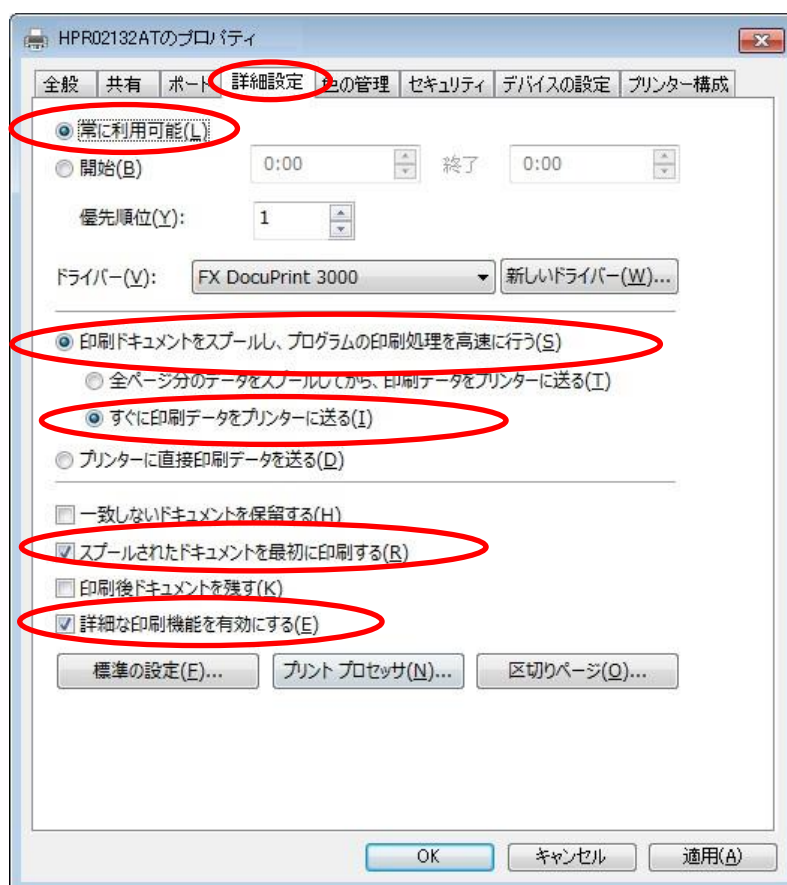


- (14) 「スタート」→「コントロールパネル」で「デバイスとプリンター」画面を開き、追加したプリンタのアイコンを選択し、右クリック→「プリンタのプロパティ」を選択します。

- (15) 「プリンタのプロパティ」画面が開きますので、「詳細設定」タブをクリックします。



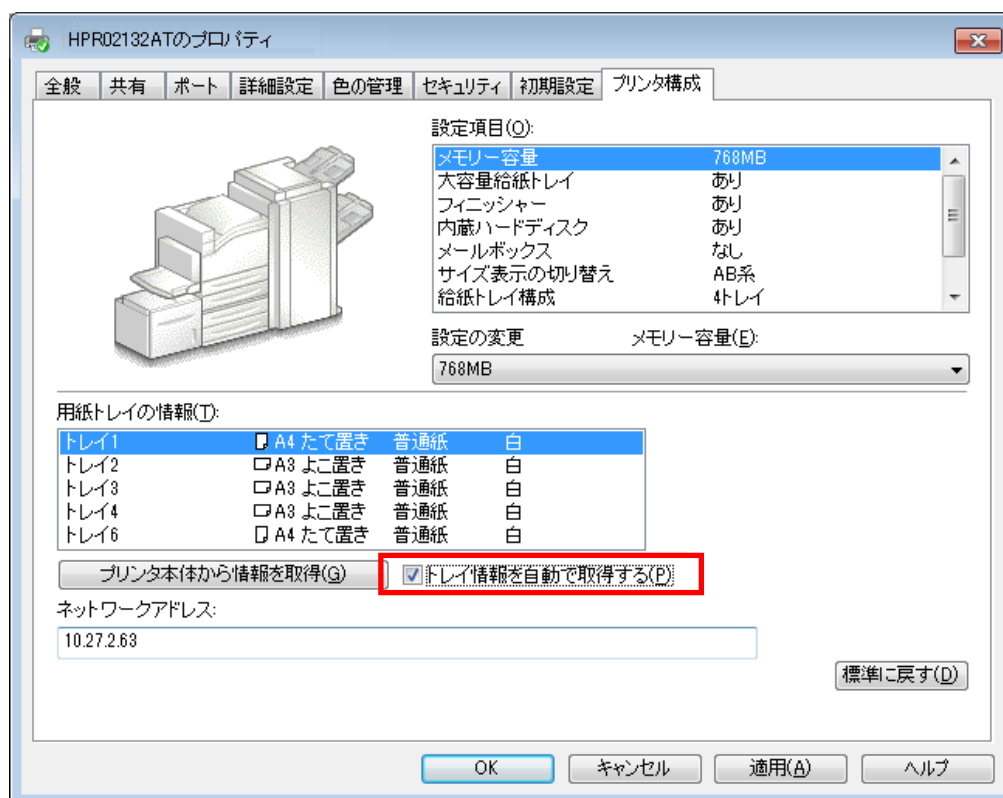
(16) 「プリンタのプロパティ」画面の「詳細設定」タブにて、下表の通りに設定します。



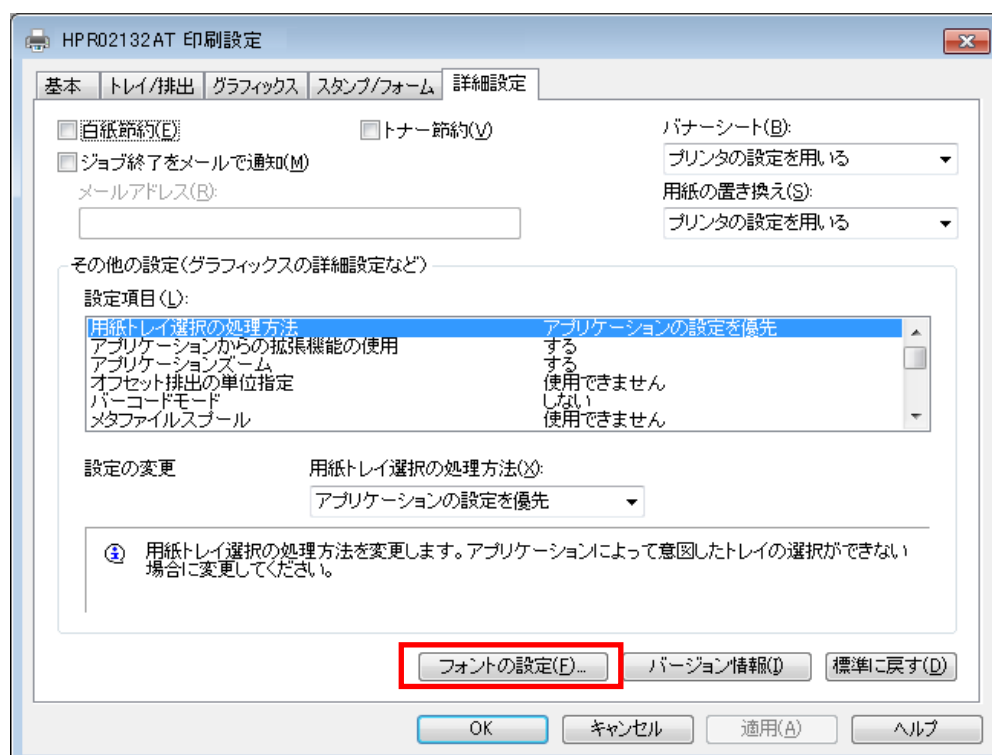
設定項目	設定内容
常に利用可能	ON
印刷ドキュメントをスプールし、プログラムの印刷処理を高速に行う	ON
全ページ分のデータをスプールしてから、印刷データをプリンタに送る	OFF
すぐに印刷データをプリンタに送る	ON
一致しないドキュメントを保留する	OFF
スプールされたドキュメントを最初に印刷する	ON
印刷後ドキュメントを残す	OFF
詳細な印刷機能を有効にする	ON

(17) 「プリンター構成」タブをクリックします。

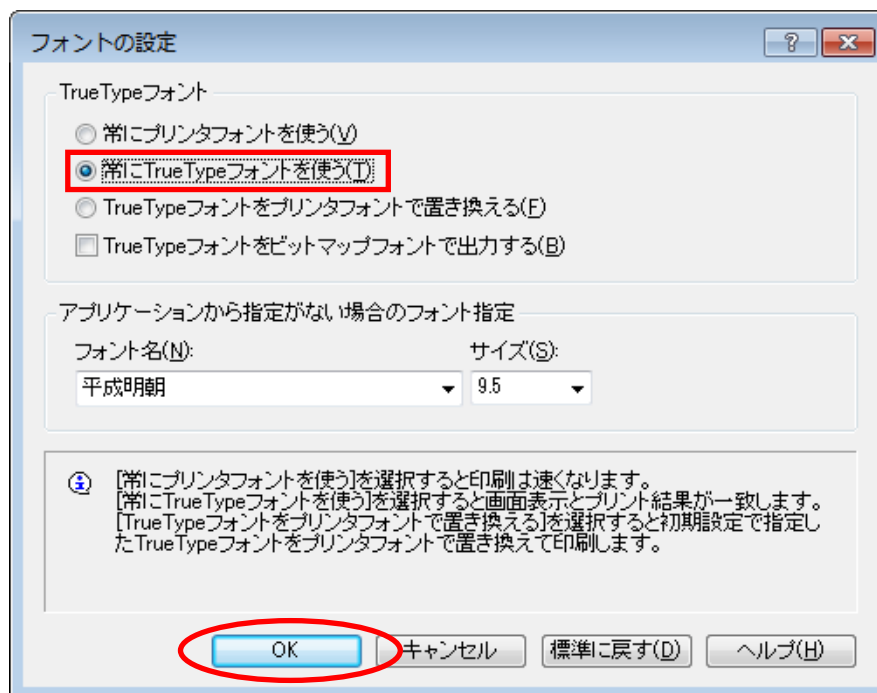
- (18) 「トレイ情報を自動で取得する」にチェックを付けます。



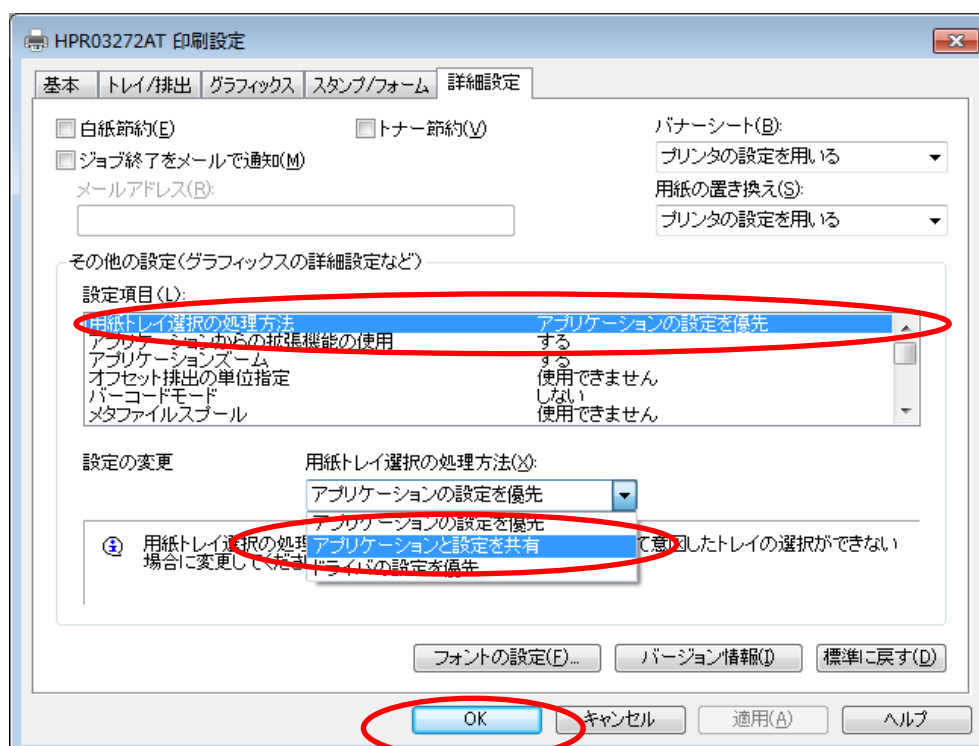
- (19) 再度、「全般」タブをクリックし、「基本設定」をクリックします。
- (20) 「フォントの設定」をクリックします。



- (21) 「フォントの設定」画面が表示されますので、「常に True Type フォントを使う」を選択し、「OK」をクリックします。



- (22) 「プリンタ名 印刷設定」画面にて、「設定項目」欄で「用紙トレイ選択の処理方法～」が選択されていることを確認してから「設定の変更」欄の「用紙トレイ選択の処理方法」のプルダウンにて、「アプリケーションと設定を共有」を選択して「OK」をクリックします。



- (23) 「プロパティ」画面を閉じます。
- (24) 「作業用媒体（一拠点集約化システム）（共通NW・介護）」DVD-ROM を DVD-ROM ドライブから取り出します。
- (25) 「C:\temp\cswnd」と「C:\temp\fxdp5060plw12081nwxp6fja.exe」を削除します。

2.12.5. プリンタ利用権限の設定

2.12.5.1. 前提条件

項番	前提条件	確認
1	“ドメイン名 (NetBIOS)¥KG-UserAdmin”でログオンすること	<input type="checkbox"/>
2	プリンタドライバのインストールが完了していること	<input type="checkbox"/>

2.12.5.2. 注意事項

クライアントに複数のプリンタを使用している場合は、プリンタ毎に本作業の設定が必要となります。

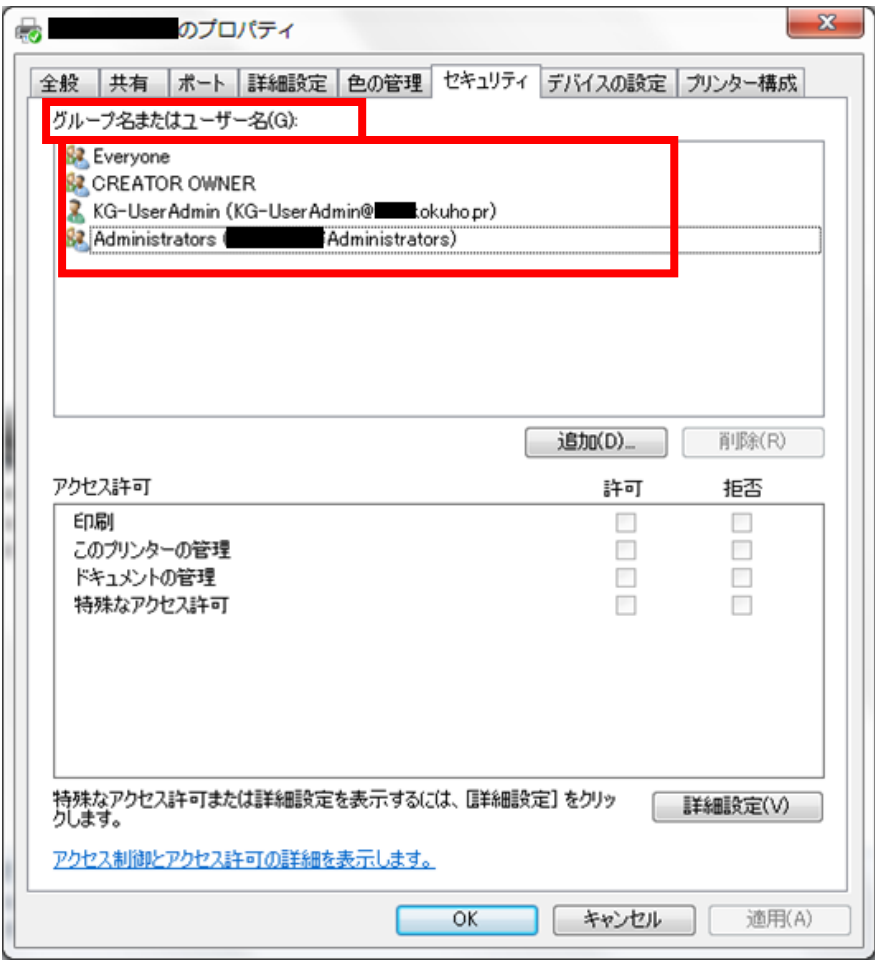
2.12.5.3. プリンタ権限付与

2.12.5.3.1. 事前確認

- (1) 「スタート」→「デバイスとプリンター」を選択します。
- (2) 「デバイスとプリンター」画面にて登録している下表に該当するプリンタを右クリックし、「プリンターのプロパティ」を選択します。

確認項目	確認
プリンター名が「HPR～」で始まるプリンタ	<input type="checkbox"/>
プリンター名が「CPR～」で始まるプリンタ	<input type="checkbox"/>

- (3) 「～のプロパティ」画面が表示されますので、「セキュリティ」タブを選択します。
- (4) 「グループ名またはユーザー名」にて「Domain Users」が存在しないことを確認します。

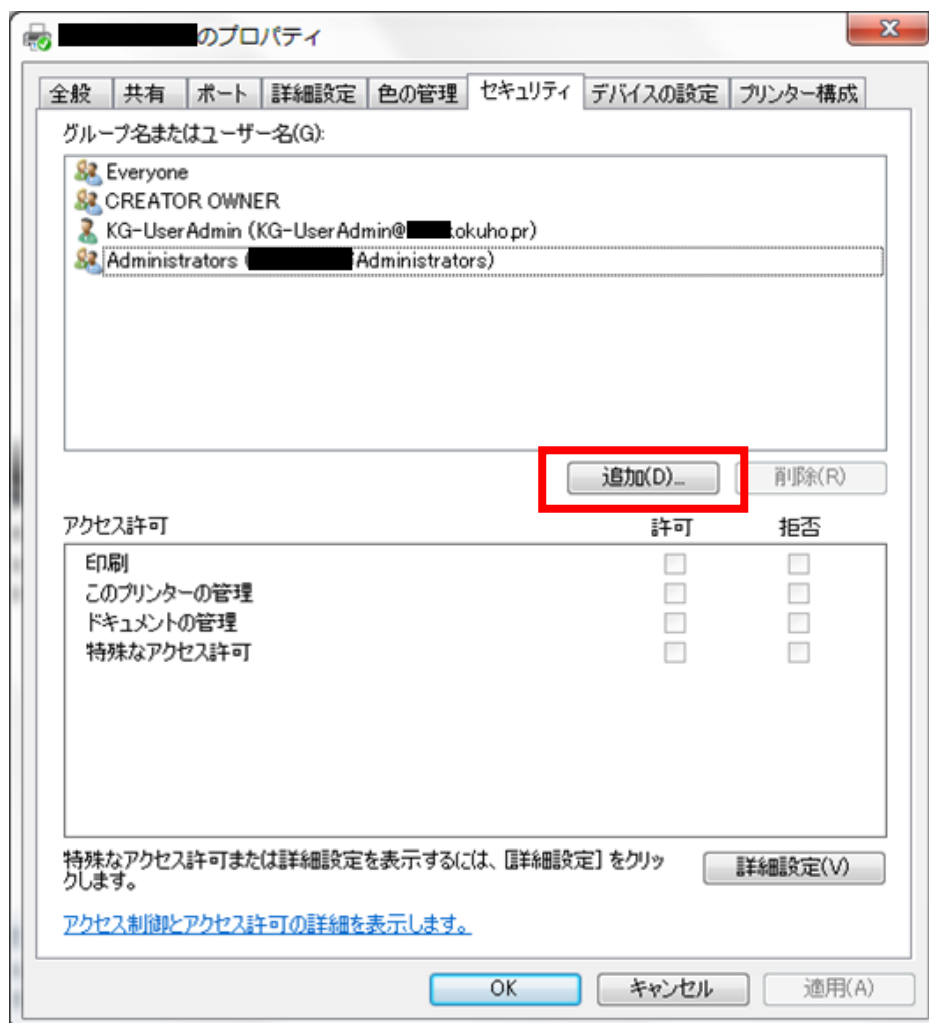


確認項目	確認
「グループ名またはユーザ名」に「Domain Users」が存在していないこと	<input type="checkbox"/>

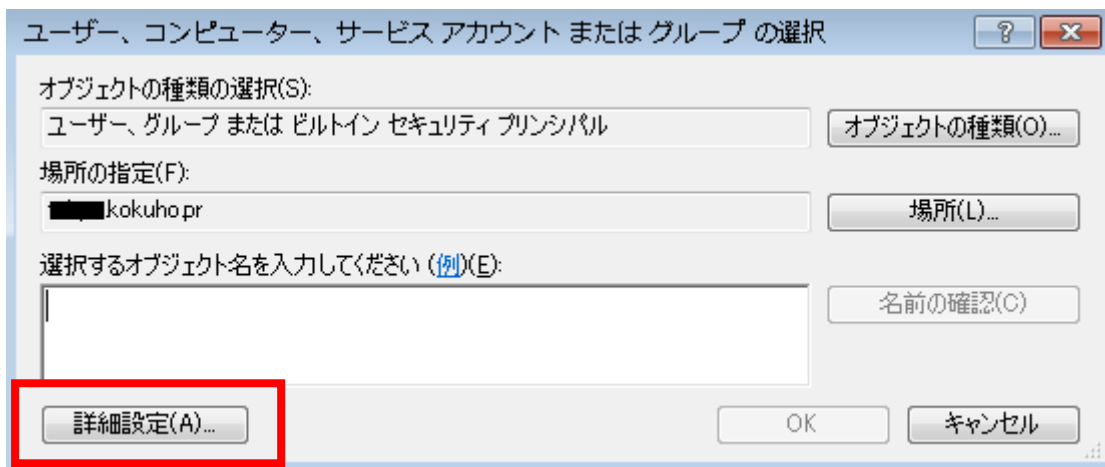
※「Domain Users」が存在していたプリンタについては、「2.17.5.3.2.権限付与設定」を実施する必要はありません。

2.12.5.3.2. 権限付与設定

- (1) 「グループ名またはユーザー名」にて「追加」をクリックします。



- (2) 「ユーザー、コンピューター、～」画面にて、「詳細設定」をクリックします。



ユーザー、コンピューター、サービス アカウント または グループ の選択

オブジェクトの種類の選択(S):
 オブジェクトの種類(O)...

場所の指定(F):
 場所(L)...

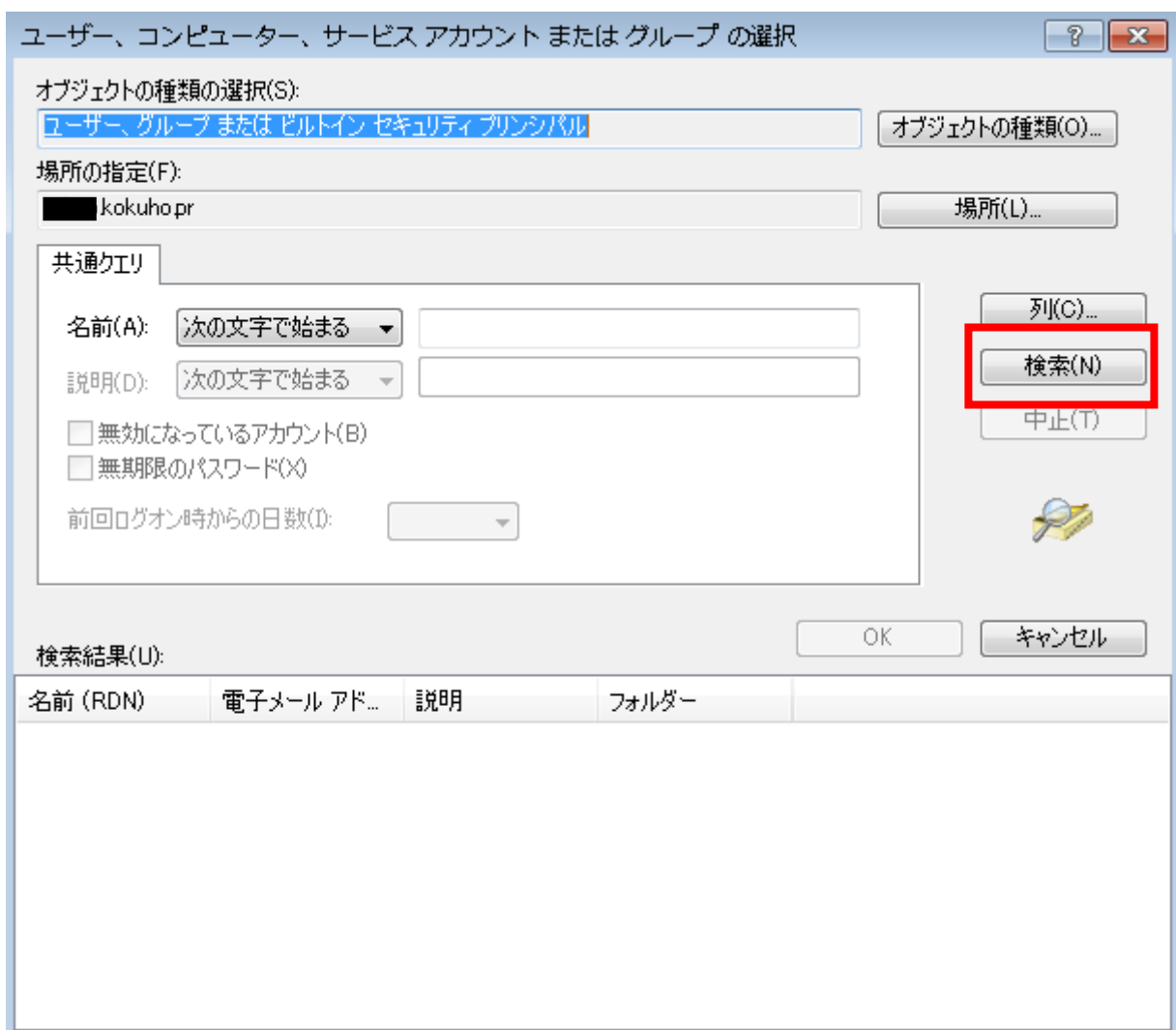
選択するオブジェクト名を入力してください (例)(E):

名前を確認(O)

詳細設定(A)...

OK キャンセル

- (3) 「検索」をクリックします。



ユーザー、コンピューター、サービス アカウント または グループ の選択

オブジェクトの種類の選択(S):
 オブジェクトの種類(O)...

場所の指定(F):
 場所(L)...

共通クエリ

名前(A): 列(C)...

説明(D): 検索(N)

☐ 無効になっているアカウント(B)

☐ 無期限のパスワード(X)

前回ログオン時からの日数(I):

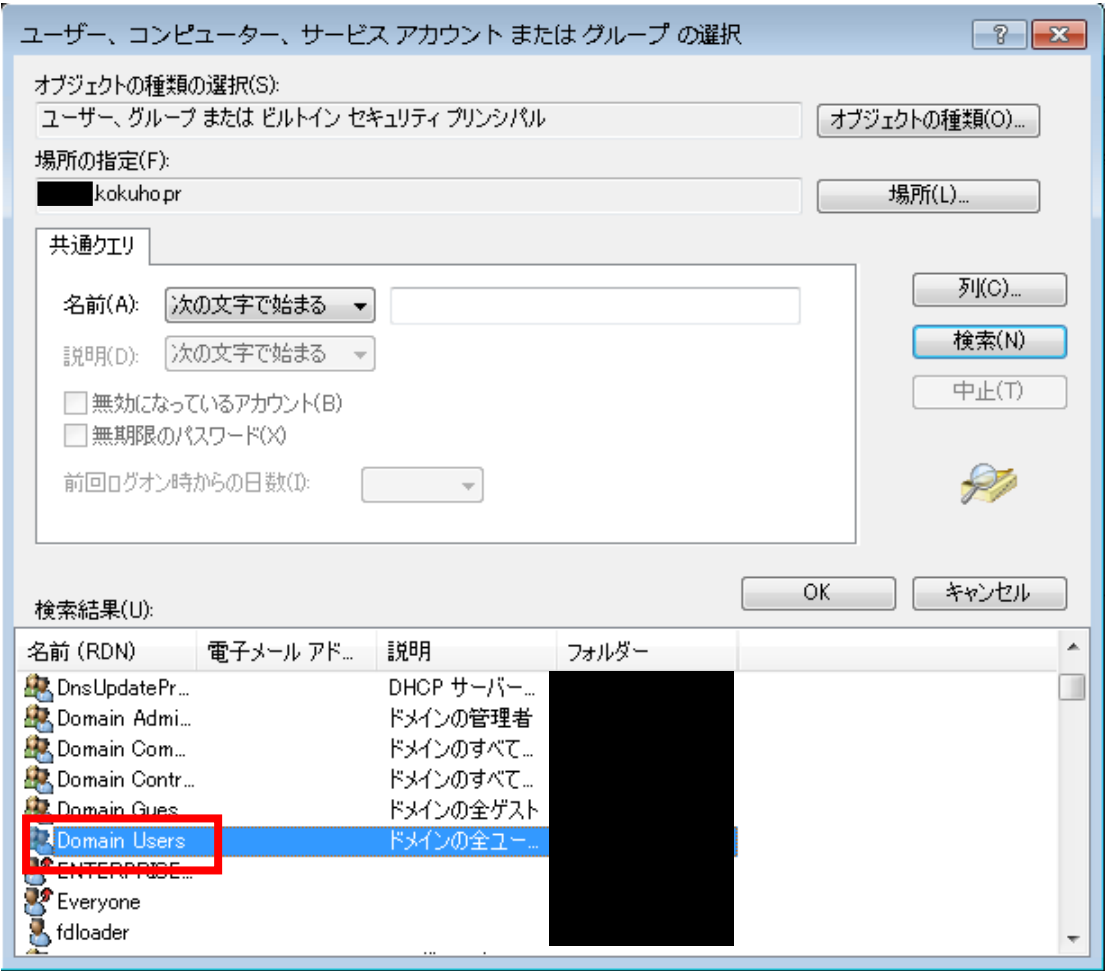
中止(T)

OK キャンセル

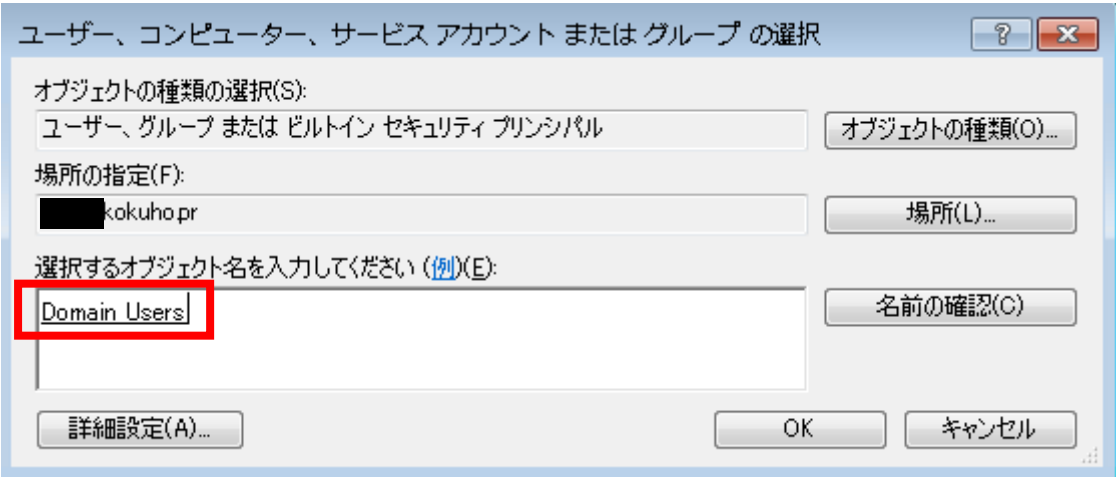
検索結果(U):

名前 (RDN)	電子メール アド...	説明	フォルダー

(4) 「検索結果」より「Domain Users」を選択し、「OK」をクリックします。



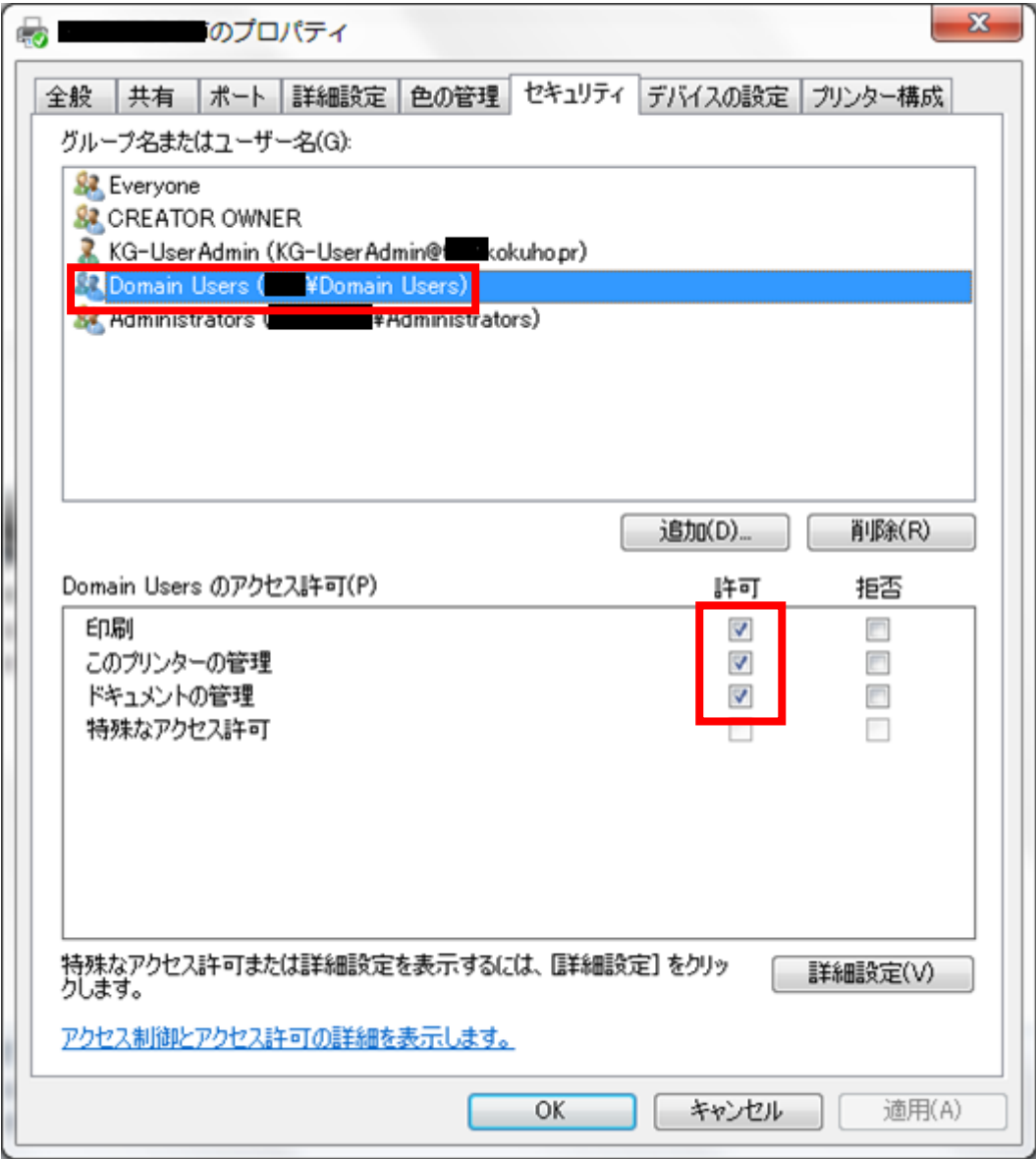
(5) 「選択するオブジェクト名～」に「Domain Users」が追加されていることを確認します。



確認項目	確認
「選択するオブジェクト名～」に「Domain Users」が存在していること	<input type="checkbox"/>

- (6) 「ユーザー、コンピューター、～」画面にて、「OK」をクリックします。
- (7) 「グループ名またはユーザー名」に表示されている「Domain Users (XXX¥Domain Users)」を選択し、「Domain Users のアクセス許可」内の「このプリンターの管理」「ドキュメントの管理」にチェックします。

※XXX：NetBIOS 名



確認項目	確認
「印刷」にチェックが入っていること	<input type="checkbox"/>
「このプリンターの管理」にチェックが入っていること	<input type="checkbox"/>
「ドキュメント管理」にチェックが入っていること	<input type="checkbox"/>

- (8) 「～のプロパティ」画面にて、「OK」をクリックします。
- (9) 「デバイスとプリンター」画面を閉じます。

2.13. StarOffice X 4.0 環境設定

2.13.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	30 分	<input type="checkbox"/>

2.13.2. 準備物

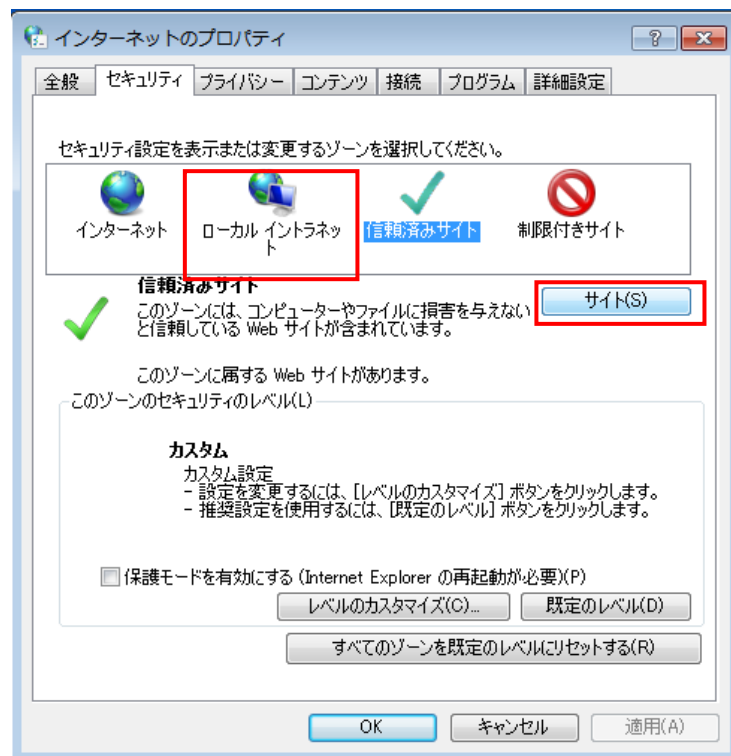
項番	種別	名称	確認
1	ドキュメント	設定変動表	<input type="checkbox"/>

2.13.3. 前提条件

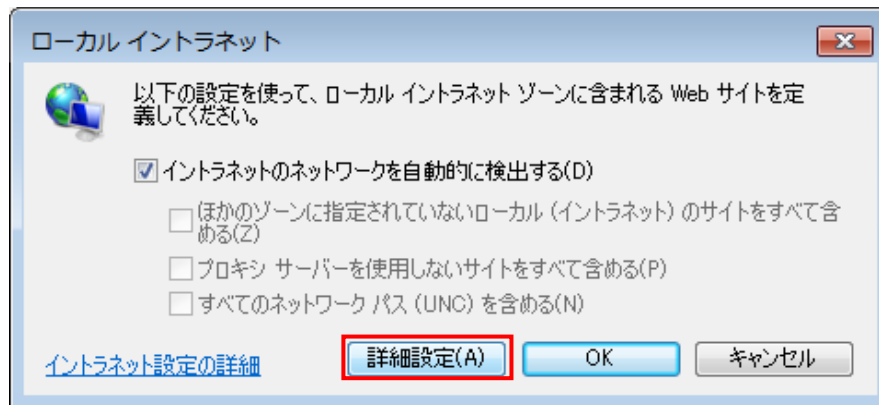
項番	前提条件	確認
1	“ドメイン名(NetBIOS)¥KKG-UserAdmin”でログオンすること	<input type="checkbox"/>

2.13.4. インターネットオプションの設定

- (1) 「スタート」→「コントロールパネル」をクリックします。
- (2) 「コントロールパネル」画面が表示されましたら、「ネットワークとインターネット」をクリックします。
- (3) 「ネットワークとインターネット」画面が表示されましたら、「インターネットオプション」をクリックします。
- (4) 「インターネットのプロパティ」画面が表示されましたら、「セキュリティ」タブをクリックし、「ローカルイントラネット」を選択後に「サイト」をクリックします。



- (5) 「ローカルイントラネット」画面が表示されましたら、「詳細設定」をクリックします。



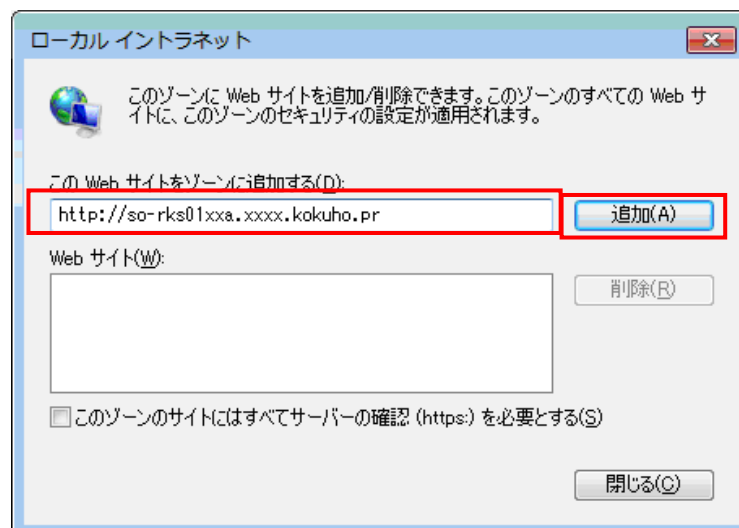
- (6) 「ローカルイントラネット」画面が表示されましたら、「この Web サイトをゾーンに追加する」に『http://so-ホスト名(連合会連携サーバ,xxxx.kokuho.pr)』を入力し、「このゾーンのサイトにはすべてサーバの確認 (https:)を必要とする」のチェックが外れていることを確認し、「追加」をクリックします。

※「xxxx.kokuho.pr」は設定変動表を参照し、各国保連合会のホスト名(FQDN)を設定すること

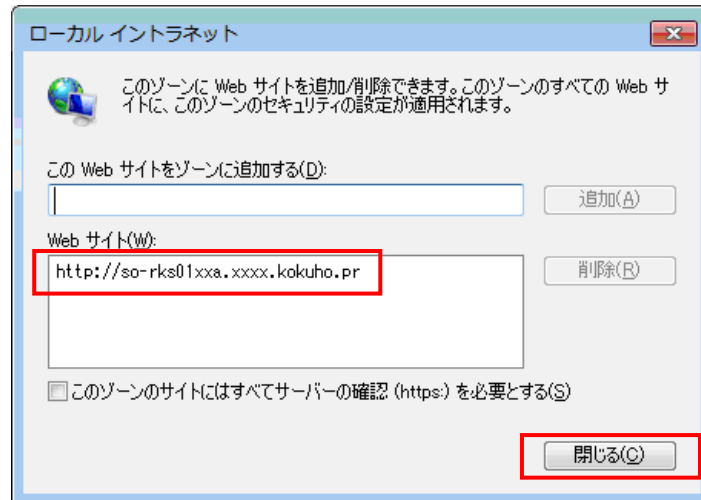
例 東京都国保連合会の場合

http://so-rks0113a.tokyo.kokuho.pr

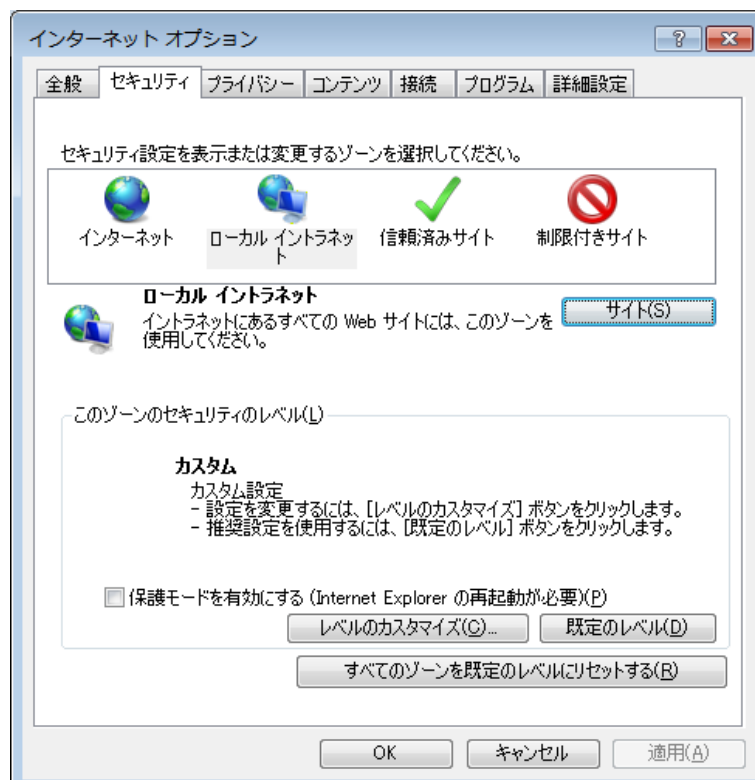
※「サイトは既に信頼済みサイトゾーンにあります～」画面が表示されましたら、「はい」をクリックしてください。



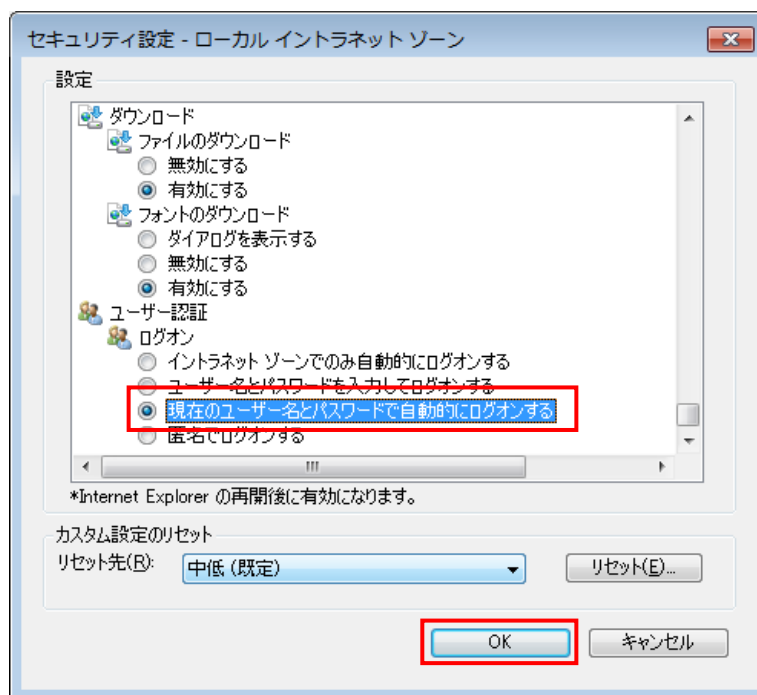
- (7) 「ローカルイントラネット」画面にて、「web サイト」に(6)にて入力した値が追加されていることを確認し、「閉じる」をクリックします。



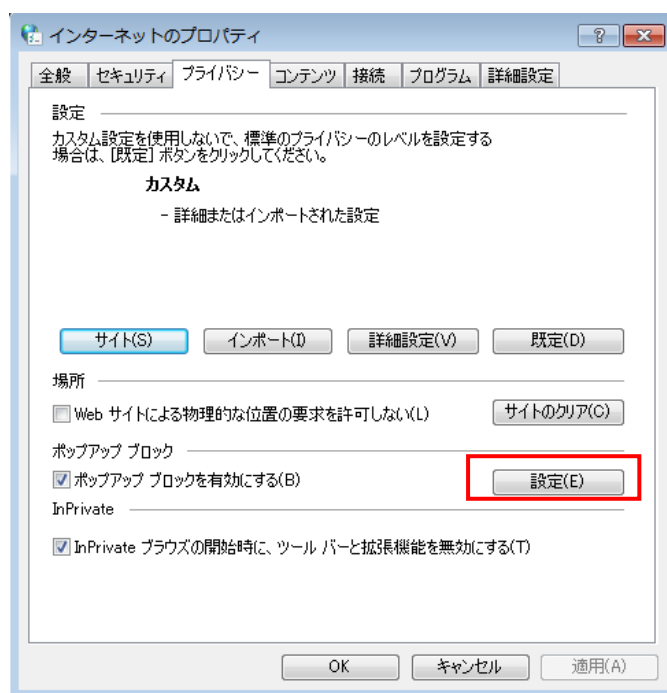
- (8) 「ローカルイントラネット」画面に戻りますので、「OK」をクリックします。
- (9) 「インターネットオプション」画面に戻りますので、「このゾーンのセキュリティのレベル」欄の「レベルのカスタマイズ」をクリックします。



- (10) 「セキュリティ設定-ローカルイントラネットゾーン」画面が表示されましたら、「ユーザ認証」「ログオン」にて「現在のユーザ名とパスワードで自動的にログオンする」を選択し、「OK」をクリックします。



- (11) 「警告」画面が表示されますので、「はい」をクリックします。
 (12) 「インターネットオプション」画面に戻りますので、「プライバシー」タブを選択し、「ポップアップ ブロック」欄の「設定」をクリックします。

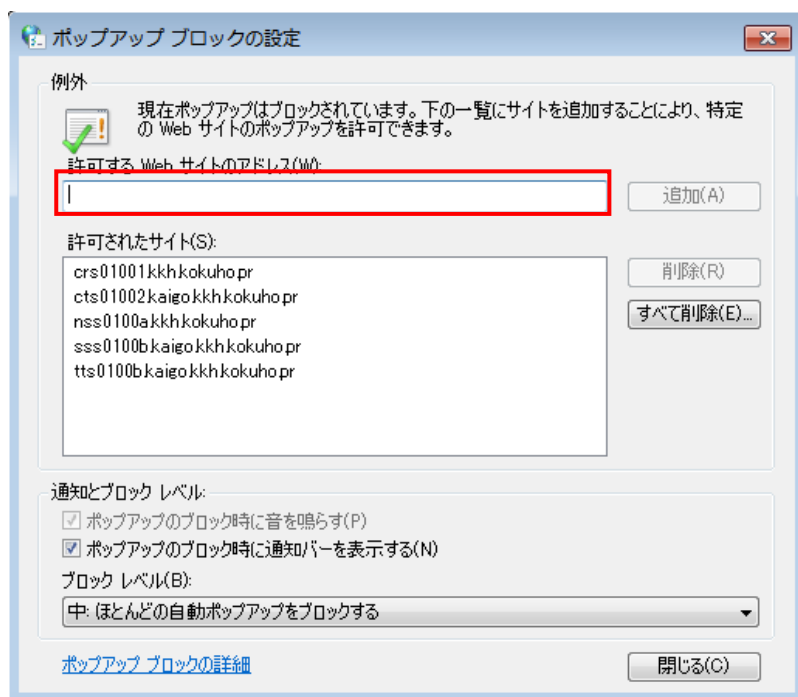


- (13) 「ポップアップ ブロックの設定」画面が表示されましたら、「許可する Web サイトのアドレス」に『ホスト名(連合会連携サーバ).xxxx.kokuho.pr』を入力し、「追加」をクリックします。

※「xxxx.kokuho.pr」は設定変動票を参照し、各国保連合会のホスト名(FQDN)を設定すること

例 東京都国保連合会の場合

rks0113a.tokyo.kokuho.pr



- (14) 「ポップアップ ブロックの設定」画面にて、「許可されたサイト」に(13)にて入力した値が追加されていることを確認し、「閉じる」をクリックします。
- (15) 「インターネットオプション」画面に戻りますので、「OK」をクリックします。
- (16) 「コントロールパネル」画面に戻りますので、右上「×」をクリックし、閉じます。


2.13.5. ActiveX のインストール手順

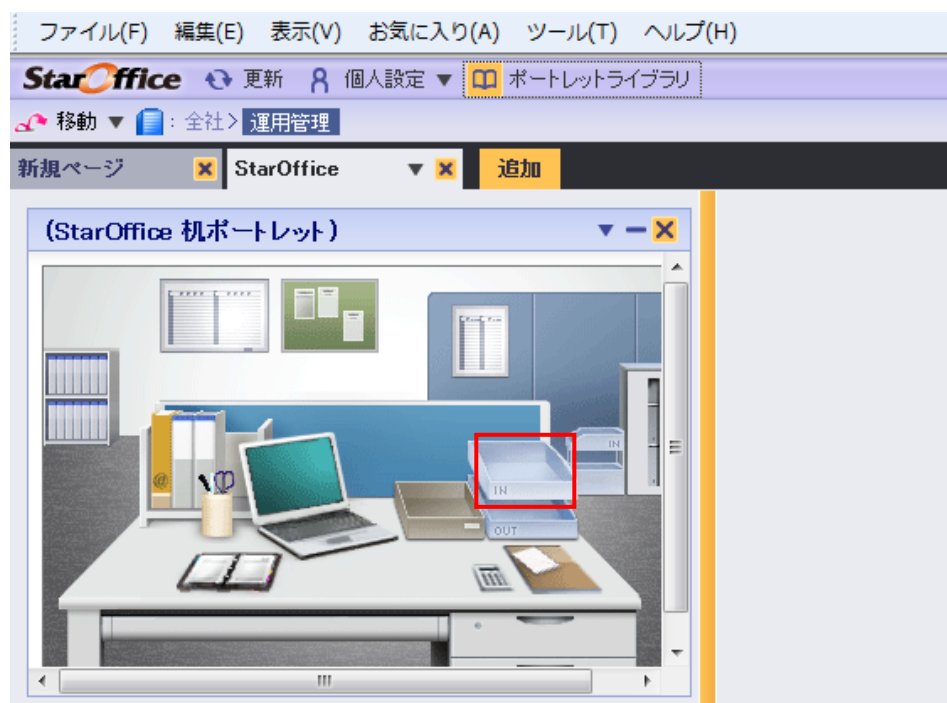
- (1) 「スタート」 → 「すべてのプログラム」 → 「Internet Explorer」を選択します。
- (2) 「インターネットエクスプローラ」が起動されましたら、「アドレス」に『[http://so-ホスト名\(連合会連携サーバ\).xxxx.kokuho.pr/webotxportal/login](http://so-ホスト名(連合会連携サーバ).xxxx.kokuho.pr/webotxportal/login)』と入力し、<Enter>キーを押下します。

※「[xxxx.kokuho.pr](http://so-ホスト名(連合会連携サーバ).xxxx.kokuho.pr/webotxportal/login)」は設定変動表を参照し、各国保連合会のホスト名(FQDN)を設定すること

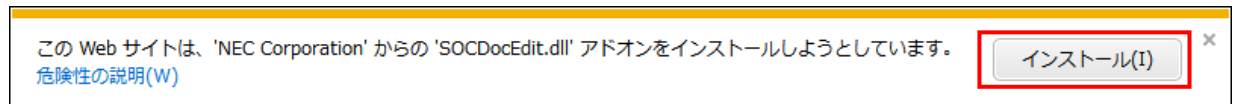
例 東京都国保連合会の場合

<http://so-rks0113a.tokyo.kokuho.pr/webotxportal/login>

- (3) 「Login Page」画面が表示されましたら、アドレスバー左のをデスクトップ上にドラッグします。
- (4) デスクトップ上に「Login Page」ショートカットが作成されましたら、名前を「StarOffice」に変更します。
- (5) 「Login Page」画面にて、「ユーザ ID」、「パスワード」に連合会にて申請済みの任意のユーザを入力し、「ログイン」をクリックします。
- (6) ログイン後、「ポータルサイトが存在しないか、～」画面が表示されますので、「閉じる」をクリックします。
- (7) 「(StarOffice 机ポートレット)」画面にて、「IN」ボックスをクリックします。



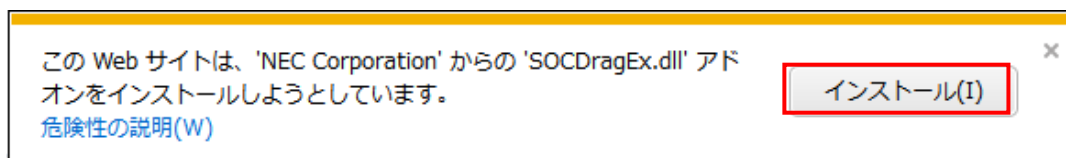
- (8) 「メールサービス」画面が表示されましたら、画面下部に「このサイトは～」画面が表示されましたら、「インストール」をクリックします。
※以下のメッセージが表示されない場合は、項番(10)から実施します。



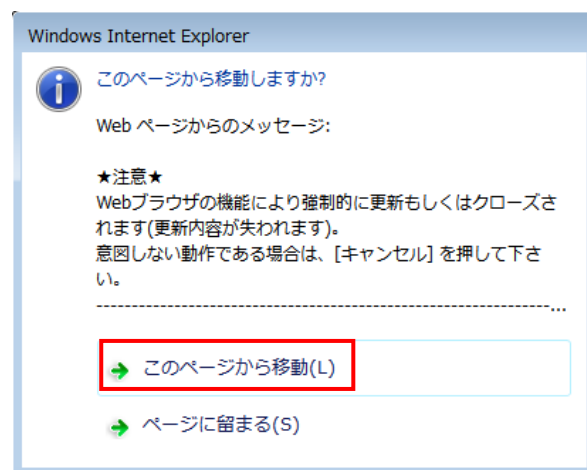
- (9) 「このソフトウェアをインストールしますか？」画面が表示されましたら、「インストールする」をクリックします。



- (10) 「メールサービス」画面に戻りますので、「新規メール」をクリックします。
(11) 「メール発信」画面が表示されましたら、画面下部に「この Web サイトは～」画面が表示されますので、「インストール」をクリックします。
※以下のメッセージが表示されない場合は、項番(14)から実施します。



- (12) 「このページから移動しますか？」画面が表示されましたら、「このページから移動」をクリックします。



- (13) 「このソフトウェアをインストールしますか？」画面が表示されましたら、「インストールする」をクリックします。



- (14) 「メール発信」画面に戻りますので、右上の「閉じる」をクリックします。
- (15) 「メール発信を中止します。～」画面が表示されますので、「OK」をクリックします。
- (16) 「メールサービス」画面に戻りますので、右上の「閉じる」をクリックします。
- (17) 「StarOffice」画面に戻りますので、右上の「×」をクリックし閉じます。

2.14. データクリア

2.14.1. 対象マシン／作業予定時間

対象マシン	作業予定時間
運用管理クライアント	10 分
運用管理クライアント(VT 系)	10 分

2.14.2. 準備物

項番	種別	名称	確認
1	CD-ROM	クライアント構築用媒体_201401版	<input type="checkbox"/>
2	ファイル	【導入：14001】介護保険審査支払等システム（140424版）の「140424_CL.exe」	<input type="checkbox"/>
3	ファイル	【導入：15007】介護保険審査支払等システム（150427版）の「150427_CL.exe」	<input type="checkbox"/>
4	ファイル	【導入：16008】介護保険審査支払等システム（160425版）の「160425_CL.exe」	<input type="checkbox"/>

2.14.3. 前提条件

項番	前提条件	確認
1	“ドメイン名(NetBIOS)¥KKG-UserAdmin” でログオンすること	<input type="checkbox"/>

2.14.4. データクリア

- (1) 作業対象クライアントの DVD-ROM ドライブに「クライアント構築用媒体_201401 版」CD-ROM をセットします。
 （「自動再生」画面が表示されますので、右上の「×」をクリックします。）
- (2) 作業対象クライアントにてエクスプローラを起動し、下記バッチファイルを選択し、右クリックメニューより「管理者として実行」で実行します。

バッチファイル	確認
E:¥データクリア¥3_DataClear_CL.bat	<input type="checkbox"/>

- (3) 「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」をクリックします。
- (4) 実行画面に「データクリアを開始します」と表示されますので、<Enter>キーを押下します。
- (5) 実行画面に「完了しました。」と表示されますので、<Enter>キーを押下します。

確認項目	確認
「完了しました。」のメッセージが表示されること。	<input type="checkbox"/>

注：エラーが発生した場合は、再度(2)より実施してください。
 エラー内容は、「C:¥DataClear_err.log」に格納されます。

- (6) エクスプローラを閉じます。
- (7) DVD-ROM ドライブから「クライアント構築用媒体_201401 版」CD-ROM を取出します。

2.14.5. ログクリア

- (1) 作業対象クライアントの DVD-ROM ドライブに「クライアント構築用媒体_201401 版」CD-ROM をセットします。
 (「自動再生」画面が表示されますので、右上の「×」をクリックします。)
- (2) 作業対象クライアントにてエクスプローラを起動し、下記バッチファイルを選択し、右クリックメニューより「管理者として実行」で実行します。

バッチファイル	確認
E:\¥データクリア¥4_LogClear_CL.bat	<input type="checkbox"/>

- (3) 「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」をクリックします。
- (4) 実行画面に「ログクリアを開始します」と表示されますので、<Enter>キーを押下します。
- (5) 実行画面に「完了しました。」と表示されますので、<Enter>キーを押下します。

確認項目	確認
「完了しました。」のメッセージが表示されること。	<input type="checkbox"/>

- (6) エクスプローラを閉じます。
- (7) DVD-ROM ドライブから「クライアント構築用媒体_201401 版」CD-ROM を取出します。

2.14.6. AP 導入準備手順

2.14.6.1. クライアント側フォルダ作成／フォルダ共有設定／環境変数の登録

- (1) 作業対象クライアント DVD ドライブに「クライアント構築用媒体_201401 版」CD-ROM をセットします。

(「自動再生」画面が表示されますので、右上の「×」をクリックします。)

- (2) 作業対象クライアントにてエクスプローラを起動し、下記バッチファイルを選択し、右クリックメニューより「管理者として実行」で実行します。

バッチファイル	確認
E:\¥AP 環境構築¥Before_Setup_CL.bat	<input type="checkbox"/>

- (3) 「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」をクリックします。
- (4) コマンドプロンプトが起動し「事前作業を開始します」と表示されますので、作業対象クライアントを確認後、〈Enter〉キーを押下します。
- (5) 処理終了後に「事前作業が完了しました」のメッセージが表示されましたら、〈Enter〉キーを押下します。

確認項目	確認
「事前作業が完了しました」のメッセージが表示されること	<input type="checkbox"/>

- (6) エクスプローラを閉じます。
- (7) 作業対象クライアントの DVD-ROM ドライブから「クライアント構築用媒体_201401 版」CD-ROM を取出します。

2.14.6.2. クライアントのファイル/ディレクトリのコピー

- (1) 作業対象クライアントの DVD-ROM ドライブに「クライアント構築用媒体_201401 版」CD-ROM をセットします。
 (「自動再生」画面が表示されますので、右上の「×」をクリックします)
- (2) 作業対象クライアントにてエクスプローラを起動し、下記バッチファイルを選択し、右クリックメニューより「管理者として実行」で実行します。

バッチファイル	確認
E:\¥導入物件①¥copy_CL.bat	<input type="checkbox"/>

- (3) 「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」をクリックします。
- (4) コマンドプロンプトが起動し「導入を開始します」と表示されますので、<Enter>キーを押下します。
- (5) 処理終了後に「完了しました。」のメッセージが表示されましたら、<Enter>キーを押下します。

確認項目	確認
「完了しました。」のメッセージが表示されること	<input type="checkbox"/>

- (6) エクスプローラを閉じます。
- (7) 作業対象クライアントの DVD-ROM ドライブから「クライアント構築用媒体_201401 版」CD-ROM を取出します。

2.14.6.3. クライアントのファイル/ディレクトリのコピー（差分リリース）

- (1) 作業対象クライアントにてエクスプローラを起動し、下記ファイルを「C:\¥TEMP」にコピーします。

ファイル	確認
140424_CL.exe	<input type="checkbox"/>

- (2) 「C:\¥TEMP¥140424_CL.exe」を実行します。
- (3) 「7-Zip self-extra～」ダイアログが表示されますので、そのまま「Extract」ボタンを押下します。
- (4) 「C:\¥TEMP¥140424_CL¥copy_CL.bat」を実行します。

バッチファイル	確認
C:\¥TEMP¥140424_CL¥copy_CL.bat	<input type="checkbox"/>

- (5) コマンドプロンプトが起動し、「導入を開始します」と表示されますので、[Enter]キーを押下します。
- (6) 処理終了後に「完了しました。」のメッセージが表示されましたら、[Enter]キーを押下します。

確認項目	確認
「完了しました。」のメッセージが表示されること	<input type="checkbox"/>

※コピーエラーがありますと表示された場合は、作業対象クライアントの再起動を行い、再度 (4) より実施ください。

- (7) 以下の差分リリースに関しても、上述 (1) ～ (6) 手順の「140424_CL」を読み替え、以下の順序で同様に実施してください。

実施順	差分リリース	確認
1	150427_CL.exe	<input type="checkbox"/>
2	160425_CL.exe	<input type="checkbox"/>
3	190425_CL.exe	<input type="checkbox"/>

- (8) すべての差分リリースコピーが完了しましたら、以下のファイルを削除します。

削除するフォルダ／ファイル	確認
C:\¥TEMP¥140424_CL.exe	<input type="checkbox"/>
C:\¥TEMP¥140424_CL[フォルダ]	<input type="checkbox"/>
C:\¥TEMP¥150427_CL.exe	<input type="checkbox"/>
C:\¥TEMP¥150427_CL[フォルダ]	<input type="checkbox"/>
C:\¥TEMP¥160425_CL.exe	<input type="checkbox"/>
C:\¥TEMP¥160425_CL[フォルダ]	<input type="checkbox"/>
C:\¥TEMP¥190425_CL.exe	<input type="checkbox"/>
C:\¥TEMP¥190425_CL[フォルダ]	<input type="checkbox"/>

2.15. AP 環境設定

2.15.1.対象マシン／作業予定時間

対象マシン	作業予定時間
運用管理クライアント	30 分
運用管理クライアント(VT 系)	30 分

2.15.2.準備物

なし

2.15.3.前提条件

項番	前提条件	確認
1	“ドメイン名(NetBIOS)¥KKG-UserAdmin” でログオンすること	<input type="checkbox"/>

2.15.4.プレビュー表示関連導入手順

2.15.4.1.NET Framework2.0 構成変更

- (1) 作業対象クライアントにてエクスプローラを起動し、下記バッチファイルを選択し、右クリックメニューより「管理者として実行」で実行します。

バッチファイル	確認
C:¥Kaigo¥HCV10¥FW20¥FW20Conf_Setup.bat	<input type="checkbox"/>

- (2) 「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」をクリックします。
- (3) 実行画面に「.NET Framework 2.0 コード・・・」と表示されますので、〈Enter〉キーを押下します。
- (4) 実行画面に「設定変更が完了しました」と表示されますので、〈Enter〉キーを押下します。

確認項目	確認
「設定変更が完了しました」のメッセージが表示されること	<input type="checkbox"/>

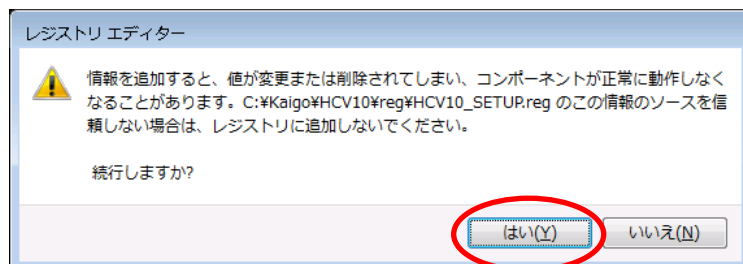
- (5) エクスプローラを閉じます。

2.15.4.2.プレビュー表示モジュールのレジストリ登録

- (1) 作業対象クライアントにてエクスプローラを起動し、下記ファイルを選択し、ダブルクリックより実行します。

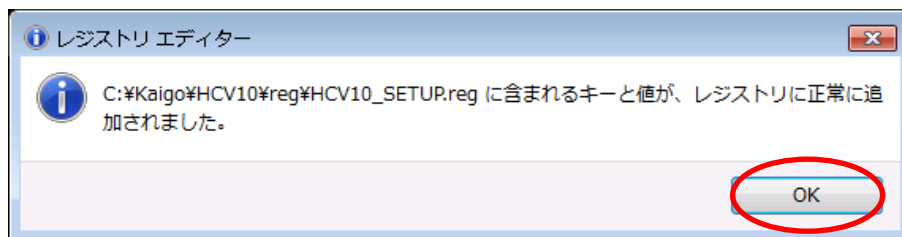
バッチファイル	確認
C:\¥Kaigo¥HCV10¥reg¥HCV10_SETUP.reg	<input type="checkbox"/>

- (2) 「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」をクリックします。
 (3) 以下のダイアログで「はい」を選択します。



- (4) 以下の内容を確認し、「OK」をクリックします。

確認内容	確認
「・・・レジストリに正常に追加されました」のメッセージが表示されること	<input type="checkbox"/>

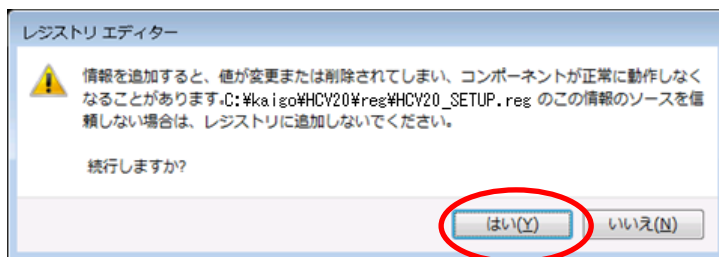


- (5) 同様に作業対象クライアントにてエクスプローラを起動し、下記ファイルを選択し、ダブルクリックより実行します。

バッチファイル	確認
C:\¥Kaigo¥HCV20¥reg¥HCV20_SETUP.reg	<input type="checkbox"/>

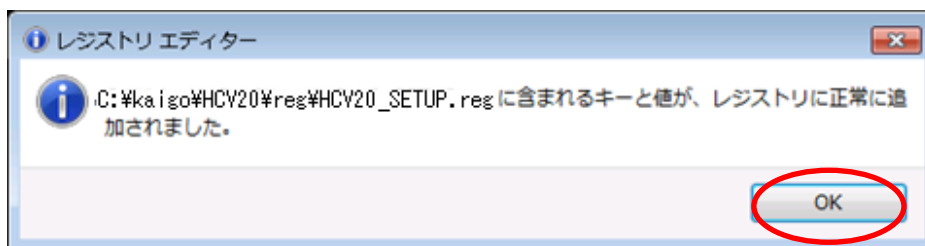
- (6) 「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」をクリックします。

- (7) 以下のダイアログで「はい」を選択します。



- (8) 以下の内容を確認し、「OK」をクリックします。

確認内容	確認
「・・・レジストリに正常に追加されました」のメッセージが表示されること	<input type="checkbox"/>



- (9) エクスプローラを閉じます。

2.15.5.ファイルアップロード・ダウンロード関連導入手順

2.15.5.1.ファイルアップロード・ダウンロードモジュールのレジストリ登録

- (1) 作業対象クライアントにてエクスプローラを起動し、下記バッチファイルを選択し、右クリックメニューより「管理者として実行」で実行します。

バッチファイル	確認
C:\¥Kaigo¥YCE00¥YCE00_OCX_Install.bat	<input type="checkbox"/>

- (2) 「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」をクリックします。
- (3) 実行画面で<Enter>キーを押下します。

```

C:\¥Windows¥system32>echo off

*****
アップロード・ダウンロード OCXの登録処理
*****

アップロード・ダウンロード OCXを登録しています。・・・
Microsoft(R) .NET Framework Assembly Registration Utility 4.0.30319.1
Copyright (C) Microsoft Corporation 1998-2004. All rights reserved.

型は正常に登録されました。
Microsoft(R) .NET Framework Assembly Registration Utility 4.0.30319.1
Copyright (C) Microsoft Corporation 1998-2004. All rights reserved.

型は正常に登録されました。
Microsoft(R) .NET Framework Assembly Registration Utility 4.0.30319.1
Copyright (C) Microsoft Corporation 1998-2004. All rights reserved.

型は正常に登録されました。

*****
■ 以下のメッセージが、出力されていないことを確認してください。

RegAsm : error RA0000 : 登録情報をレジストリに書き込み中にエラーが発生しました。
。選択されたオプションを使うには、管理者のアクセス許可が必要です。管理者のコマンド
プロンプトを使ってこれらのタスクを完了してください。
または
RegAsm : error RA0000 : 入力アセンブリ 'C:\¥Kaigo¥YCE00¥YCE50¥YCE50.dll' または
その依存関係の 1 つが見つかりません。
RegAsm : error RA0000 : 入力アセンブリ 'C:\¥Kaigo¥YCE00¥YCE62¥YCE62.dll' または
その依存関係の 1 つが見つかりません。
RegAsm : error RA0000 : 入力アセンブリ 'C:\¥Kaigo¥YCE00¥YCE63¥YCE63.dll' または
その依存関係の 1 つが見つかりません。

*****
続行するには何かキーを押してください . . .

```

※ 「型は正常に登録されました。」が、3つ表示されることを確認します。

- (4) <Enter>キーを押下し、コマンドプロンプトを閉じます。

2.16.業務 AP 導入作業

2.16.1.対象マシン／作業予定時間

対象マシン	作業予定時間
運用管理クライアント	15 分
運用管理クライアント（V T 系）	15 分

2.16.2.準備物

なし

2.16.3.前提条件

項番	前提条件	確認
1	“ドメイン名 (NetBIOS) ¥KKG-UserAdmin” でログオンすること	<input type="checkbox"/>

2.16.4.ファイルの置換

2.16.4.1.ファイルの置換実行（クライアント）

- (1) 作業対象クライアントにてエクスプローラを起動し、下記バッチファイルを選択し、右クリックメニューより「管理者として実行」で実行します。

バッチファイル	確認
C:¥Kaigo¥SetAP¥RenNmConv¥RenNmConv.bat	<input type="checkbox"/>
C:¥Kaigo¥SetAP¥RenNmConv¥PIO01_RenNmConv.bat	<input type="checkbox"/>

- (2) 処理終了後に「** 正常終了しました。 **」のメッセージが表示されましたら、〈Enter〉キーを押下します。

確認項目	確認
「** 正常終了しました。 **」のメッセージが表示されること	<input type="checkbox"/>

- (3) エクスプローラを閉じます。

2.16.4.2.ファイルの置換変更（クライアント）

- (1) エクスプローラを起動し、下記の対象ファイルをメモ帳にて開きます。

対象ファイル	確認
C:\¥Kaigo¥PIO01¥PIO01.ini	<input type="checkbox"/>

- (2) 以下のキーの設定値に含まれる IP アドレスを以下のとおり変更します。

※ 手順（2）につきましては、運用管理クライアント(VT系)のみ実施します。
運用管理クライアントでは実施不要です。

変更前の IP アドレス：10.xx.11.1

変更後の IP アドレス：10.xx.31.1

※ xx：都道府県番号

《変更対象キー》

項番	セクション名	キー名	確認
1	[TD_SetUp]	SERVER_Domain	<input type="checkbox"/>
2	[TD_SetUp]	MDB_Path	<input type="checkbox"/>
3	[KG_SetUp]	SERVER_Domain	<input type="checkbox"/>
4	[KG_SetUp]	MDB_Path	<input type="checkbox"/>
5	[SG_SetUp]	SERVER_Domain	<input type="checkbox"/>
6	[SG_SetUp]	MDB_Path	<input type="checkbox"/>

- (3) メモ帳のメニューバーより、「編集」→「置換」を選択し、「置換」画面が表示されますので、下表の通り入力し「すべて置換」をクリックします。

※ 手順（3）につきましては、自都道府県番号が 01～09 の連合会のみ実施してください。
自都道府県番号が 10～47 の連合会では実施不要です。

検索する文字列	“10.0x” (例：北海道連合会の場合、“10.01”)
置換後の文字列	“10.x” (例：北海道連合会の場合、“10.1”)

- (4) 「置換」画面を閉じます。
 (5) メニューバーより「ファイル」→「上書き保存」を選択します。
 (6) メニューバーより「ファイル」→「メモ帳の終了」を選択します。
 (7) エクスプローラを閉じます。

2.16.5.DLL ファイルのレジストリ登録 (SysReg)

- (1) 作業対象クライアントにてエクスプローラを起動し、下記のバッチファイルを選択し、右クリックメニューより「管理者として実行」で実行します。

バッチファイル	確認
C:\¥Kaigo¥SetAP¥DllReg¥DllReg.bat	<input type="checkbox"/>

- (2) 「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」をクリックします。
- (3) 実行画面に「レジストリ登録を行います。」と表示されますので、<Enter>キーを押下します。
- (4) 処理終了後に「レジストリ登録が正常終了しました。」のメッセージが表示されましたら、<Enter>キーを押下します。

確認項目	確認
「レジストリ登録が正常終了しました。」のメッセージが表示されること	<input type="checkbox"/>

- (5) 作業対象クライアントにてエクスプローラを起動し、下記のバッチファイルを選択し、右クリックメニューより「管理者として実行」で実行します。

バッチファイル	確認
C:\¥Kaigo¥SysReg¥GCC08_GCC09_DLL_Install.bat	<input type="checkbox"/>

- (6) 「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、[はい]ボタンをクリックします。
- (7) 処理終了後に「型は正常に登録されました。」のメッセージが表示されたら[Enter]キーを押下します。

確認項目	確認
「型は正常に登録されました。」のメッセージが 2 行表示されること	<input type="checkbox"/>

- (8) エクスプローラを閉じます。

2.16.6.JP1/AJS3 – UJO 登録

- (1) 「スタート」→「すべてのプログラム」→「JP1_AutomaticJob Management System3 - User Job Operation」→「JP1_AJS3 - UJO_Definer」を選択します。
- (2) 「JP1/AJS3 - User Job Operation/Definer」画面が表示されましたら、「ユーザ名」、「パスワード」、「接続ホスト名」を以下のとおり設定し、「OK」をクリックします。

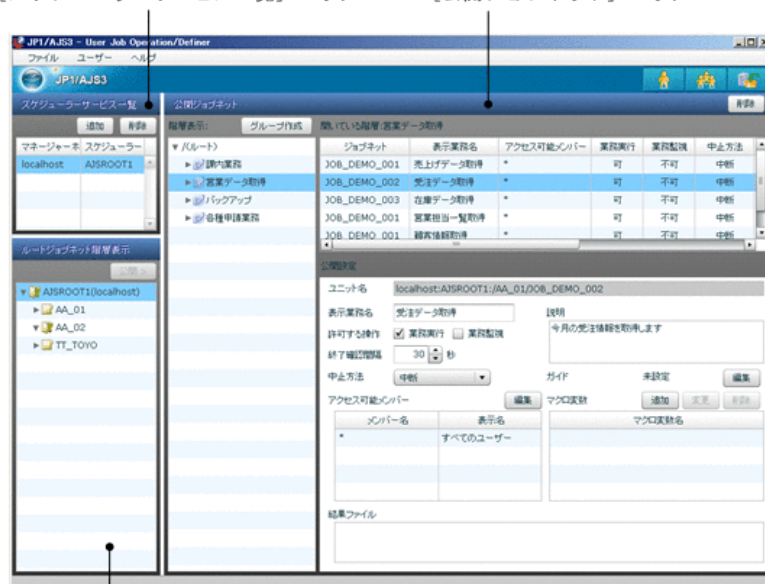
項目名		設定内容	確認
ユーザ名		jp1admin	<input type="checkbox"/>
パスワード		「パスワード一覧」を参照	<input type="checkbox"/>
接続先ホスト	運用管理クライアント	RKS01xxA	<input type="checkbox"/>
	運用管理クライアント(VT 系)	RKT01xxA	<input type="checkbox"/>

※ xx：都道府県番号

- (3) 「JP1/AJS3 - User Job Operation/Definer」画面が表示されますので、メニューバーより「ファイル」→「ローカルから読み込み」を選択します。

「スケジューラーサービス一覧」エリア

「公開ジョブネット」エリア



「ルートジョブネット階層表示」エリア

- (4) 「読み込みを実行すると～」画面が表示された場合、「はい」をクリックします。
- (5) 「公開ジョブネット定義情報の読み込み」画面が表示されますので、「C:¥Kaigo¥jmn¥SSS_MENU.txt」を選択し、「開く」をクリックします。

※ 運用管理クライアント (VT 系) の場合、「C:¥Kaigo¥jmn¥SST_MENU.txt」を選択

- (6) 「ファイル」→「サーバに登録」を選択します。
- (7) 「公開ジョブネット定義情報をサーバに登録します。～」画面が表示されますので、「はい」をクリックします。
- (8) 「公開ジョブネット定義情報を Server に登録しました。～」画面が表示されますので、「OK」をクリックします。
- (9) 「×」をクリックし、画面を閉じます。
- (10) 「このウィンドウを閉じると終了～」画面が表示されますので、「はい」をクリックします。

2.17.業務グループ設定作業

2.17.1.対象マシン／作業予定時間

対象マシン	作業予定時間
運用管理クライアント	60 分
運用管理クライアント(VT 系)	60 分

2.17.2.準備物

No	対象マシン	確認
1	導入関連情報（H28 システム導入-003-0513）で配布した資材一式 （FD コントロールシステム装置のウイルスチェック用 PC として使用するクライアントの場合のみ）	<input type="checkbox"/>

2.17.3.前提条件

項番	前提条件	確認
1	“ドメイン名(NetBIOS)¥KG-UserAdmin” でログオンすること	<input type="checkbox"/>

2.17.4.外部データ授受環境設定

2.17.4.1.レセプト電算処理システムの CD コントロールシステム装置使用時の設定

※ 以下の作業は、『レセプト電算処理システム接続』の CD コントロールシステム装置を使用し、入力データ登録処理を実施するクライアントの場合のみ行います。

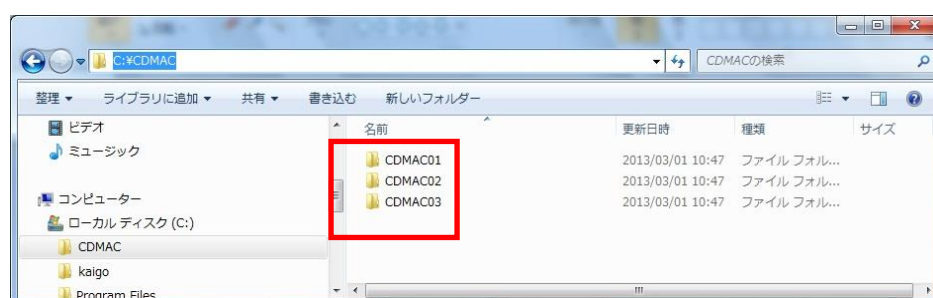
※ 以下の作業は、運用管理クライアントにて入力データ登録処理を実施する場合のみ、作業を行ってください。

- (1) C ドライブ直下に「CDMAC」フォルダを作成します。（仮移行作業で既に設定されている場合は、フォルダが存在します。その場合は、「CDMAC」フォルダの作成は不要）
- (2) (1)で作成した「C:¥CDMAC」フォルダ配下に「CDMAC01」フォルダを作成します。

※ 複数の CD オートローダを使用する場合は、フォルダ名の連番部分を変更し、CD オートローダの台数分のフォルダを作成します。

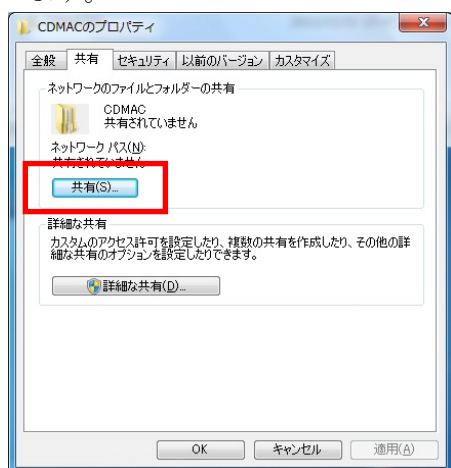
例：CD オートローダを 3 台使用する場合

「CDMAC01」、「CDMAC02」、「CDMAC03」を作成

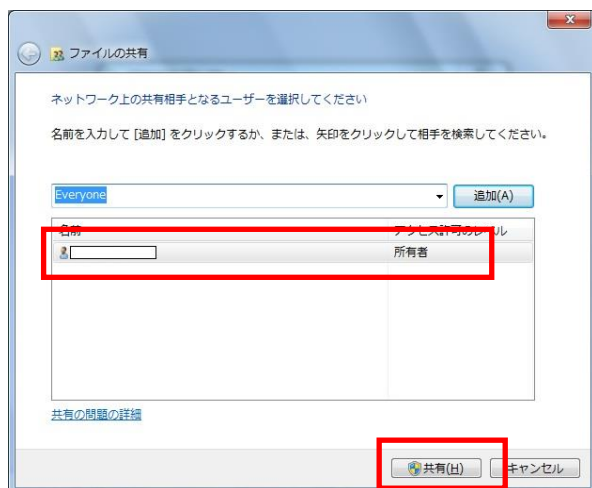


- (3) 「C:¥CDMAC」フォルダを選択し、右クリックメニューの「プロパティ」を選択します。

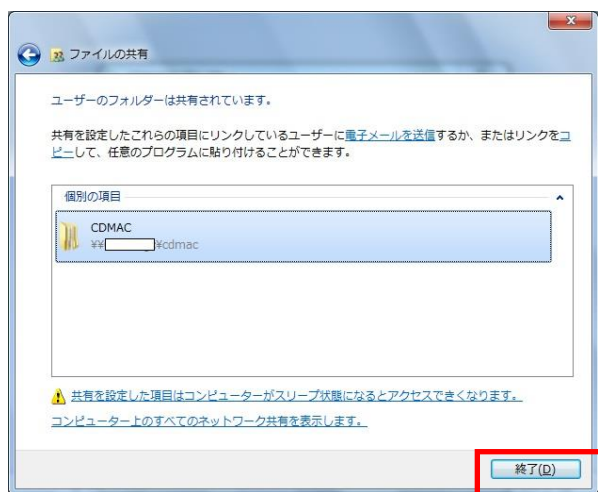
- (4) 「CDMAC のプロパティ」画面が表示されます。「共有」タブを選択し、「共有」をクリックします。



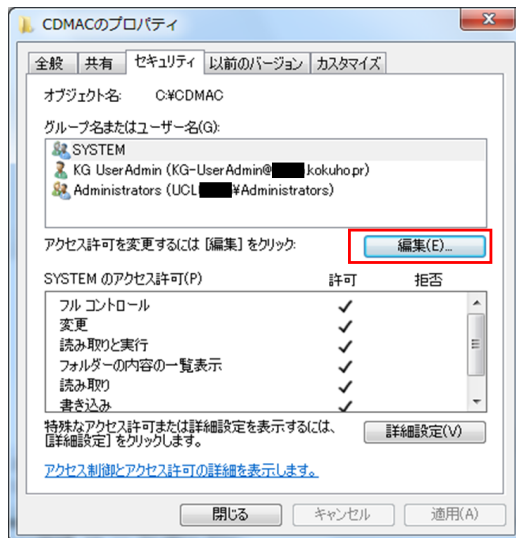
- (5) 「ファイルの共有」画面が表示されます。プルダウンより「Everyone」を選択し、「共有」をクリックします。



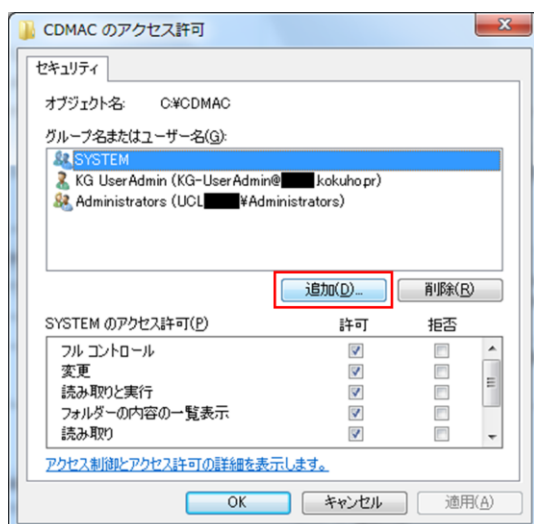
- (6) 「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」をクリックします。
(7) 「ファイルの共有」画面の「終了」をクリックします。



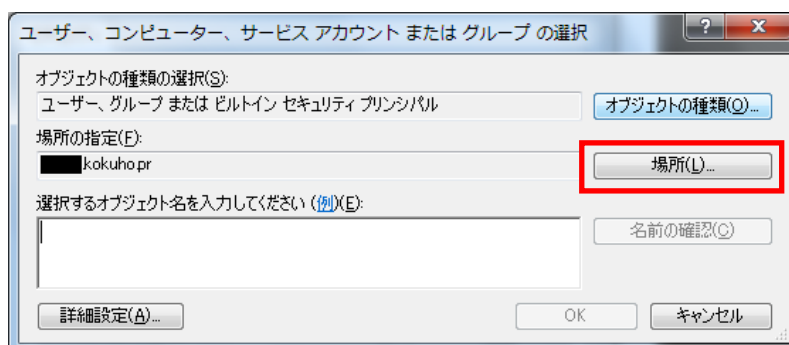
- (8) 「CDMAC のプロパティ」画面の「セキュリティ」タブを選択し、「編集」をクリックします。



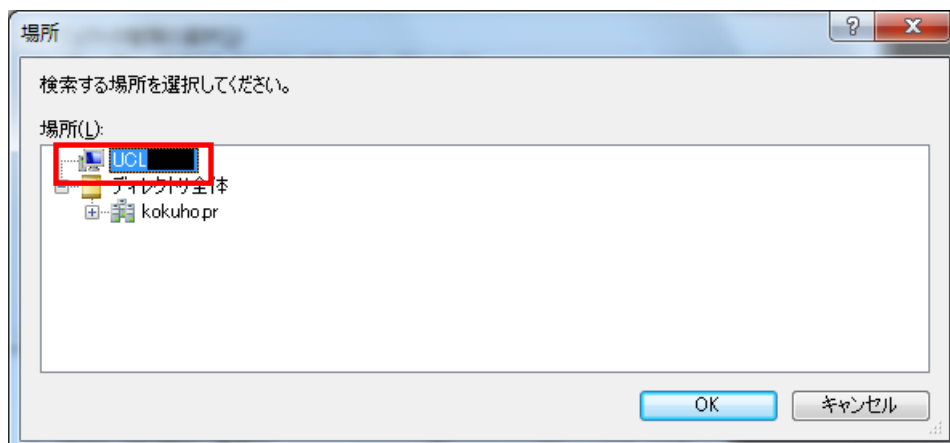
- (9) 「CDMAC のアクセス許可」画面の「追加」をクリックします。



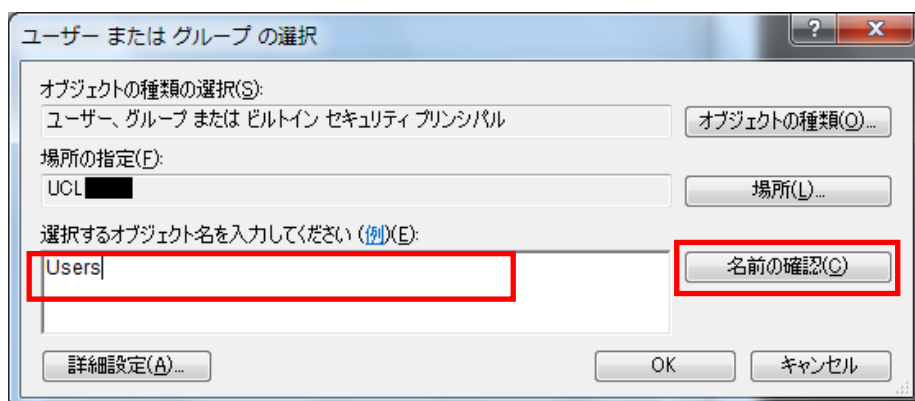
- (10) 「場所」をクリックします。



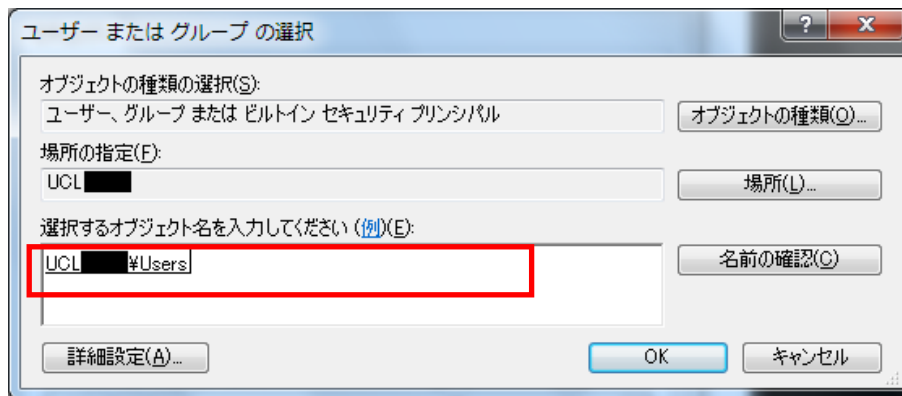
- (11) 「場所」画面でツリーより自コンピュータ名を選択し、「OK」をクリックします。



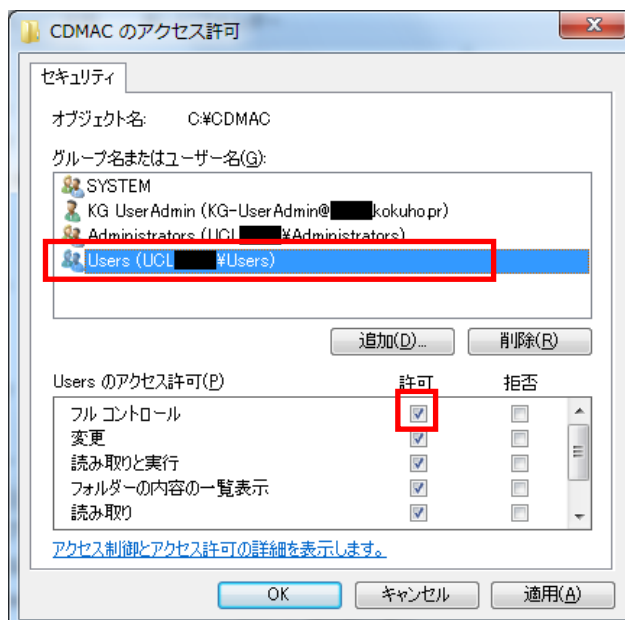
- (12) 「選択するオブジェクト名を入力してください」に「Users」と入力し、「名前の確認」をクリックします。



- (13) 「設定変動表のコンピュータ名¥Users」と表示されたことを確認し、「OK」をクリックします。



- (14) 「CDMAC のアクセス許可」画面の「グループ名またはユーザ名」より「Users」を選択し、「フルコントロール」の「許可」をチェックします。

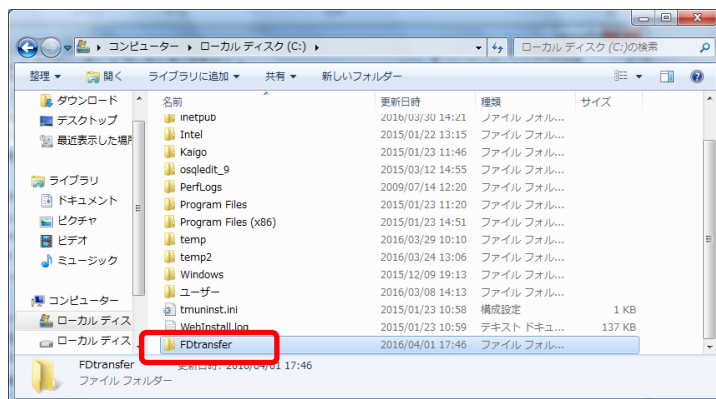


- (15) 「CDMAC のアクセス許可」画面の「OK」をクリックします。
- (16) 「CDMAC のプロパティ」画面の「閉じる」をクリックします。

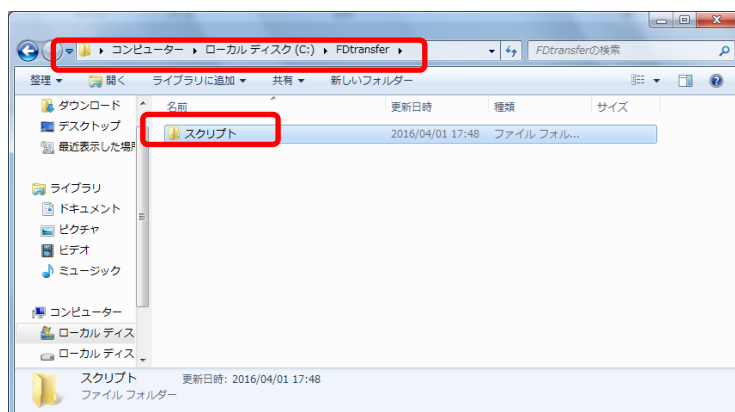
2.17.4.2.FD コントロールシステム装置使用時の設定

※ 以下の作業は、**FD コントロールシステム装置のウイルスチェック用 PC** として使用するクライアントの場合のみ行います。

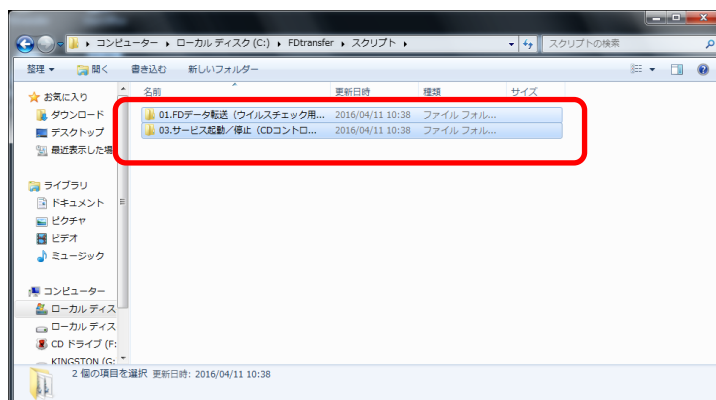
- (1) 「スタート」→「コンピュータ」→「ローカルディスク(C:)」配下に「FDtransfer」フォルダを作成します。



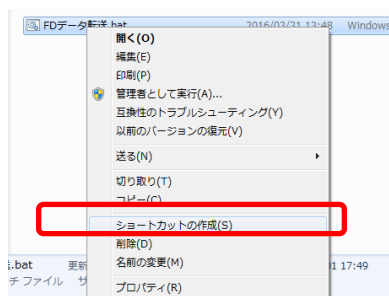
- (2) 「FDtransfer」フォルダ配下に「スクリプト」フォルダを作成します。



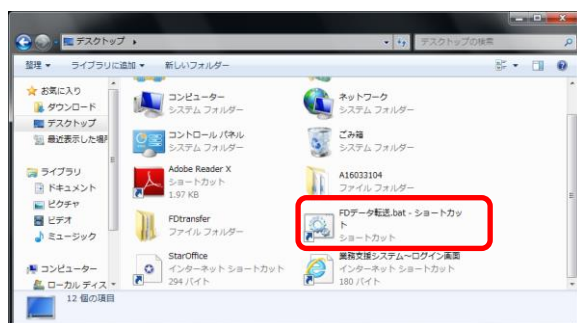
- (3) 「スクリプト」フォルダ配下に「1.2.準備物」で用意したフォルダを格納します。



- (4) 資材一式の「01.FD データ転送（ウイルスチェック PC）」フォルダ内「FD データ転送.bat」ファイルを右クリックし、「ショートカットの作成」をクリックし、bat ファイルのショートカットを作成します。



- (5) 作成したショートカットをデスクトップにコピーします。

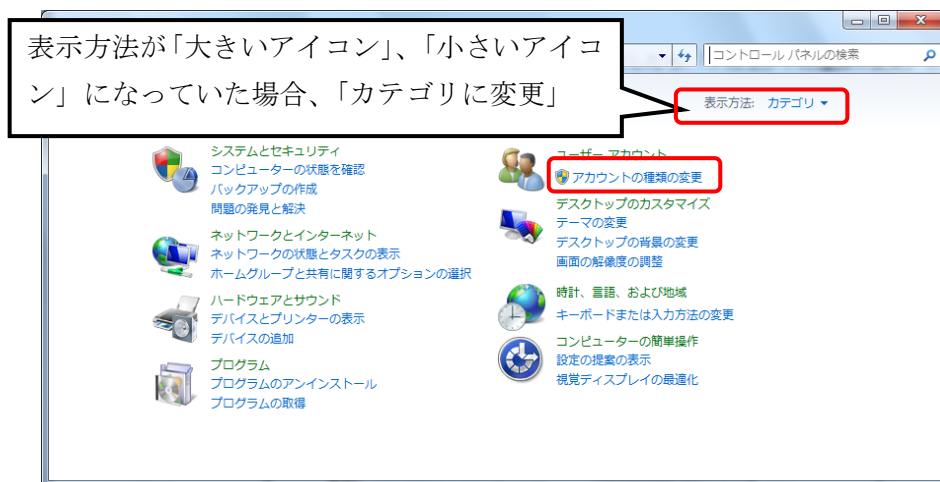


- (6) 項番(4)～(5)の手順の「FD データ転送.bat」ファイルを「CD/FD システムウイルス対策事前.bat」ファイルに読み替えて実施します。
- (7) 項番(4)～(5)の手順の「FD データ転送.bat」ファイルを「CD/FD システムウイルス対策事後.bat」ファイルに読み替えて実施します。
- (8) デスクトップに以下のショートカットが作成されていることを確認します。

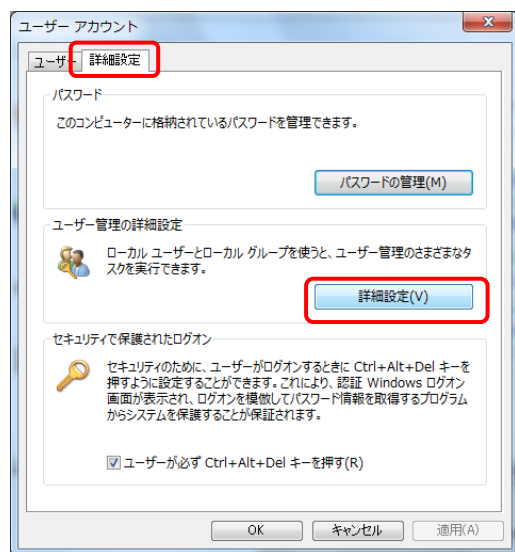
No	確認内容	確認
1	FD データ転送.bat – ショートカット	<input type="checkbox"/>
2	CD/FD システムウイルス対策事前.bat – ショートカット	<input type="checkbox"/>
3	CD/FD システムウイルス対策事後.bat – ショートカット	<input type="checkbox"/>

- (9) 「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。

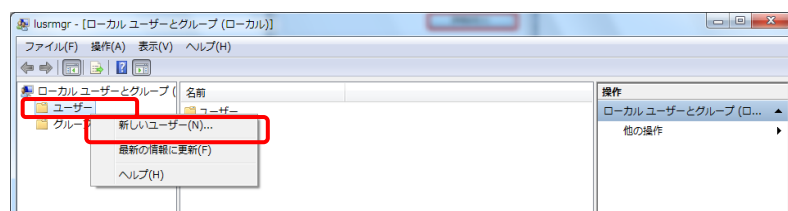
- (10) 「コントロールパネル」ウィンドウが表示されましたら、「アカウントの種類の変更」をクリックします。表示方法が「大きいアイコン」、「小さいアイコン」になっていた場合、「カテゴリ」に変更してください。



- (11) 「ユーザー アカウント」ウィンドウが表示されますので、「詳細設定」タブの「詳細設定」ボタンをクリックします。



- (12) 「lusrmgr - [ローカルユーザーとグループ (ローカル)]」ウィンドウが表示されますので、「ユーザー」を右クリックで選択し、「新しいユーザー」をクリックします。



- (13) 「新しいユーザー」ウィンドウが表示されますので、以下の内容を設定し、「作成」ボタンをクリックします。

新しいユーザー

ユーザー名(U): fdloader

フルネーム(F):

説明(D):

パスワード(P): ●●●●●●●●

パスワードの確認入力(C): ●●●●●●●●

☐ ユーザーは次回ログイン時にパスワードの変更が必要(M)

☐ ユーザーはパスワードを変更できない(S)

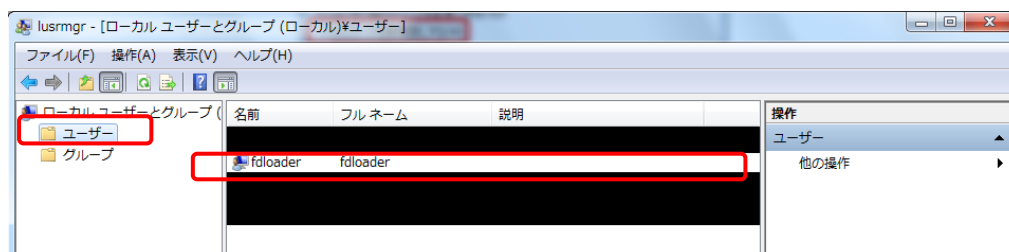
☒ パスワードを無期限にする(W)

☐ アカウントを無効にする(B)

ヘルプ(H) 作成(E) 閉じる(O)

No	項目	設定内容	確認
1	ユーザー名(U):	fdloader	<input type="checkbox"/>
2	パスワード(P):	「導入関連情報 (H28 システム導入-003-0513)」の送付物内「FD コントロールシステム装置用パスワード一覧.pdf」 №1 ウイルスチェック用 PC の PASS を参照	<input type="checkbox"/>
3	パスワードの入力確認(C):	「導入関連情報 (H28 システム導入-003-0513)」の送付物内「FD コントロールシステム装置用パスワード一覧.pdf」 №1 ウイルスチェック用 PC の PASS を参照	<input type="checkbox"/>
4	パスワードは無期限にする(W)	チェックオン	<input type="checkbox"/>

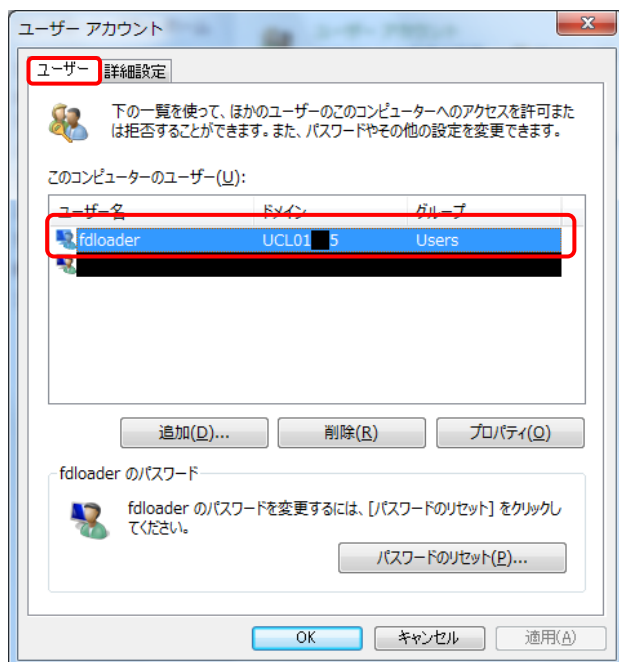
- (14) 「lusrmgr - [ローカルユーザーとグループ (ローカル)]」ウィンドウで、左ペイン (左ツリー) の「ユーザー」を選択し、項番(12)で作成したユーザーが存在していることを確認します。



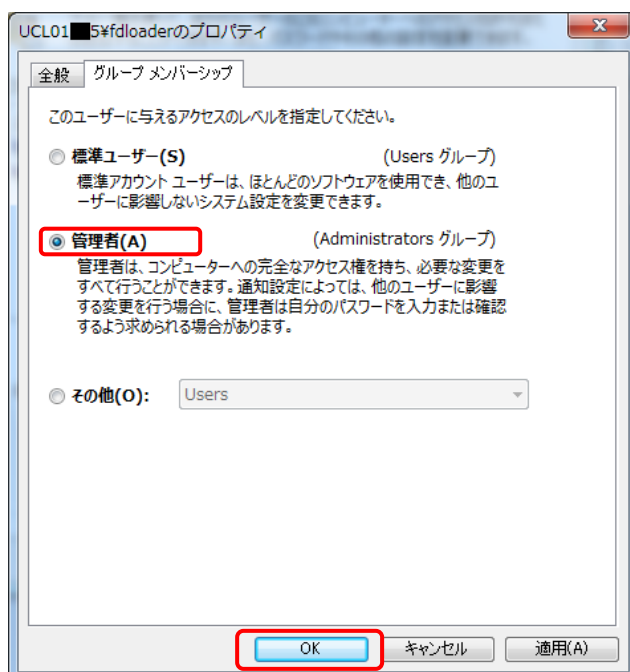
No	確認内容	確認
1	正常にユーザー「fdloader」が表示されること	<input type="checkbox"/>

- (15) 作成したユーザーが存在していることを確認したら、「lusrmgr - [ローカルユーザーとグループ (ローカル)]」ウィンドウを「×」ボタンをクリックし閉じます。

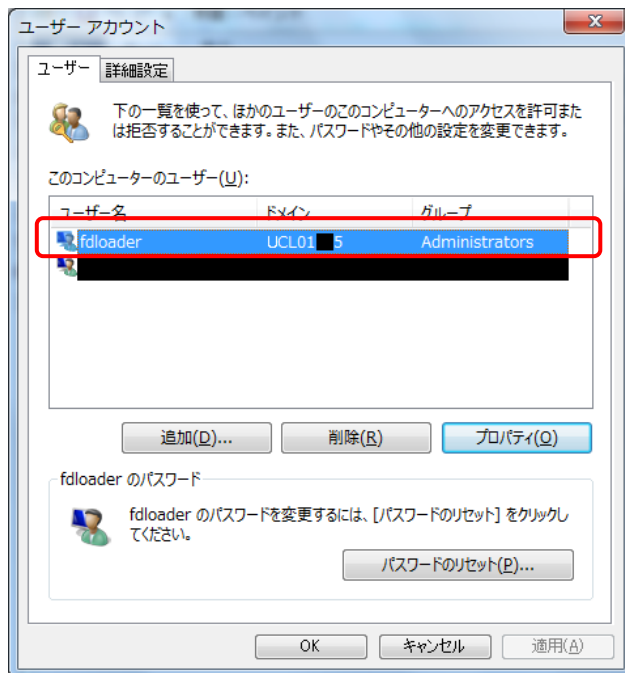
- (16) 「ユーザー アカウント」ウィンドウで、「ユーザー」タブの「fdloader」を選択し、「プロパティ」をクリックします。「fdloader」が表示されていない場合、一度「×」ボタンをクリックしウィンドウを閉じ、再度「ユーザー アカウント」ウィンドウを表示させてください。



- (17) 「UCLXXXXX (運用管理クライアントのホスト名) ¥fdloader のプロパティ」ウィンドウが表示されましたら、「グループ メンバーシップ」タブの「管理者」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



- (18) 「fdloader」のグループが「Administrators」になっていることを確認します。

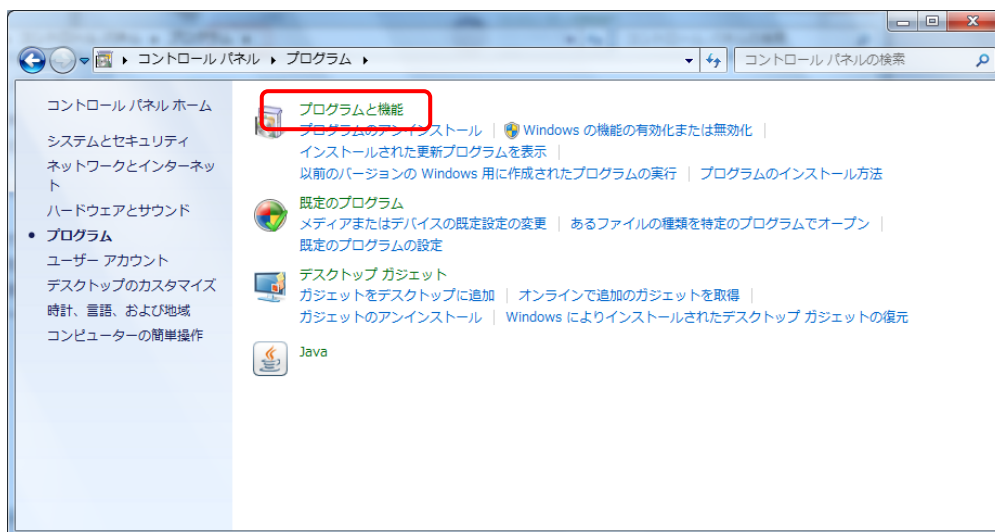


No	確認内容	確認
1	ユーザー名「fdloader」のグループが「Administrators」となっていること	<input type="checkbox"/>

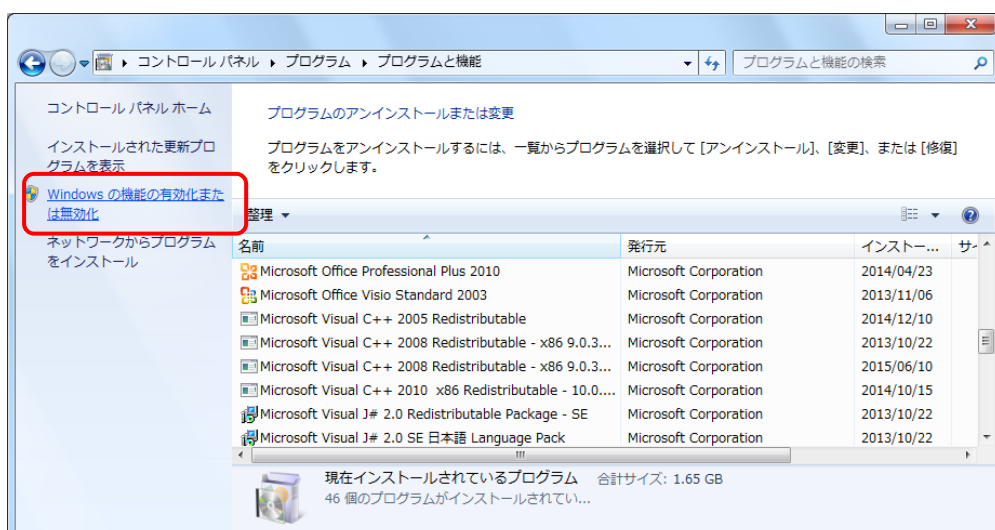
- (19) 開いているウィンドウをすべて閉じます。
- (20) 「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
- (21) 「コントロールパネル」ウィンドウが表示されましたら、「プログラム」をクリックします。表示方法が「大きいアイコン」、「小さいアイコン」になっていた場合、「カテゴリ」に変更してください。



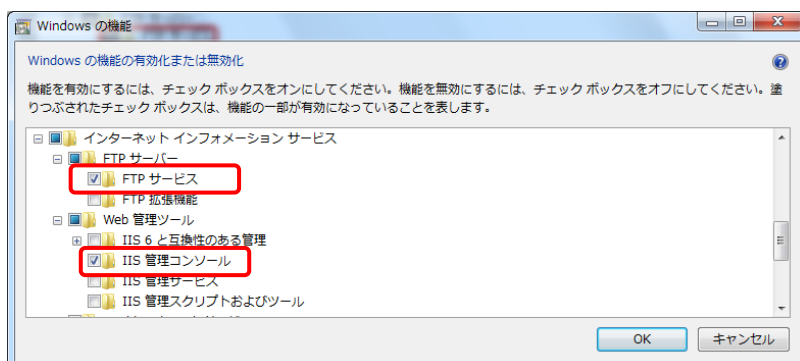
- (22) 「プログラムと機能」をクリックします。



- (23) 「Windows の機能の有効化または無効化」をクリックします。



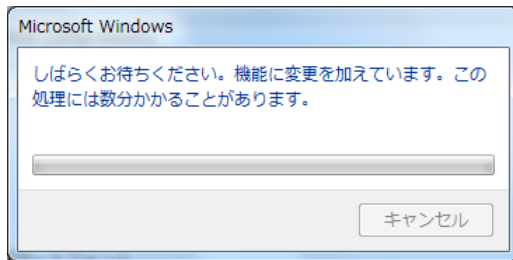
- (24) 「Windows の機能」ウィンドウが表示されますので、以下の項目にチェックを入れ、「OK」ボタンをクリックします。



No	項目	確認
1	FTP サービス	<input type="checkbox"/>
2	IIS 管理コンソール	<input type="checkbox"/>

※すでにチェックが入っていた場合、項番(26)へ進みます。

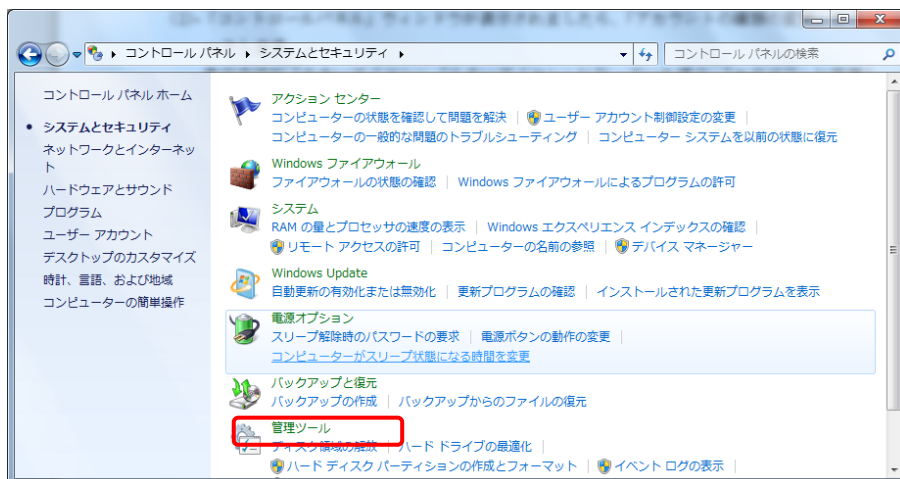
- (25) 以下のウィンドウが表示されますので、処理完了まで3分程度待ちます。



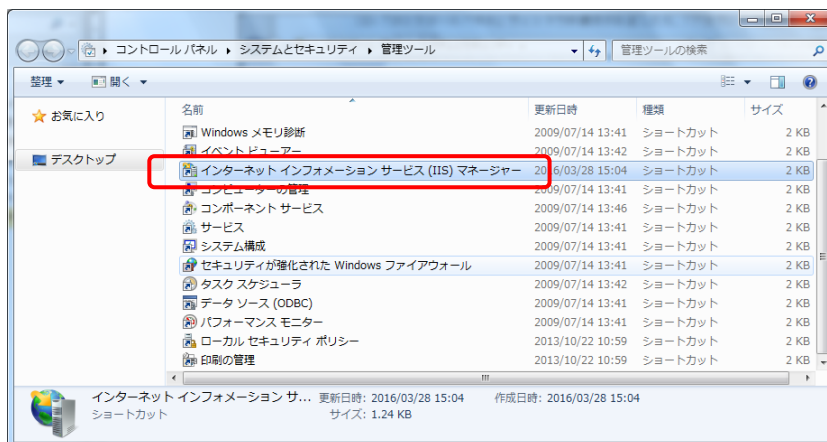
- (26) 項番(24)のウィンドウが自動で閉じましたら、開いているウィンドウをすべて閉じます。
- (27) 「コントロールパネル」ウィンドウが表示されましたら、「システムとセキュリティ」をクリックします。表示方法が「大きいアイコン」、「小さいアイコン」になっていた場合、「カテゴリ」に変更してください。



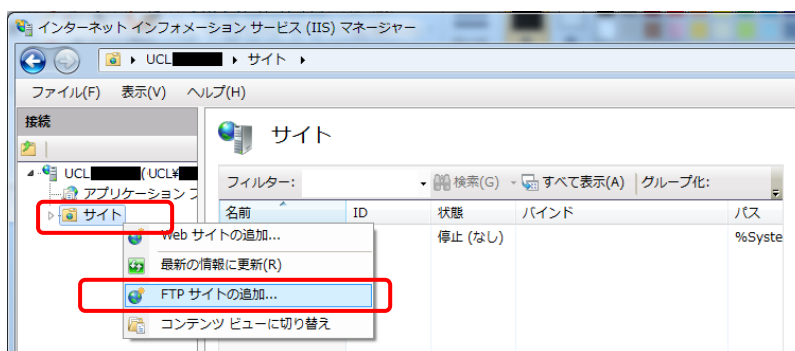
- (28) 「管理ツール」を選択します。



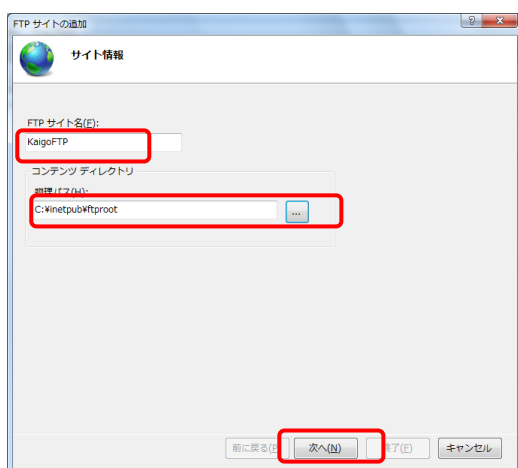
- (29) 「管理ツール」フォルダの「インターネット インフォメーション サービス(IIS)マネージャー」をクリックします。



- (30) 「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー」ウィンドウの中ペイン (ツリー) より「UCLXXXXX (運用管理クライアントのホスト名)」→「サイト」を右クリックし、「FTP サイトの追加」を選択します。



- (31) 「サイト情報」ウィンドウが表示されますので、以下の内容を設定し「次へ」ボタンをクリックします。



No	項目	設定内容	確認
1	FTP サイト名	KaigoFTP	<input type="checkbox"/>
2	物理パス	C:\inetpub\ftproot	<input type="checkbox"/>

- (32) 「バインドと SSL の設定」 ウィンドウが表示されますので、以下の内容を設定し「次へ」ボタンをクリックします。



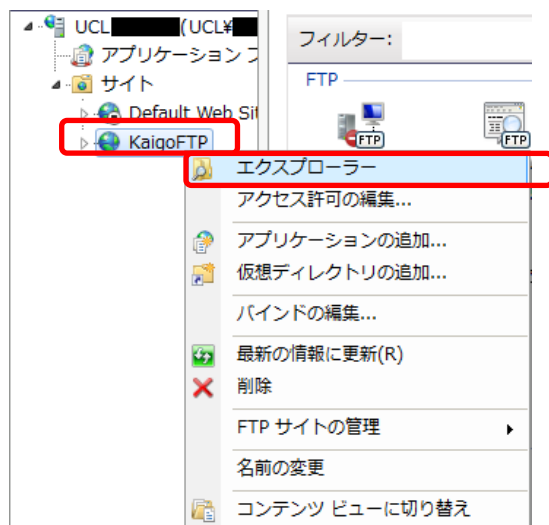
No	項目	設定内容	確認
1	IP アドレス／ポート	すべて未割り当て／21	<input type="checkbox"/>
2	仮想ホスト名を有効にする	チェックオフ	<input type="checkbox"/>
3	FTP サイトを自動的に開始する	チェックオン	<input type="checkbox"/>
4	SSL	「許可」にチェックオン ※その他はデフォルト	<input type="checkbox"/>

- (33) 「認証および承認の情報」 ウィンドウが表示されますので、以下の内容を設定し「終了」ボタンをクリックします。

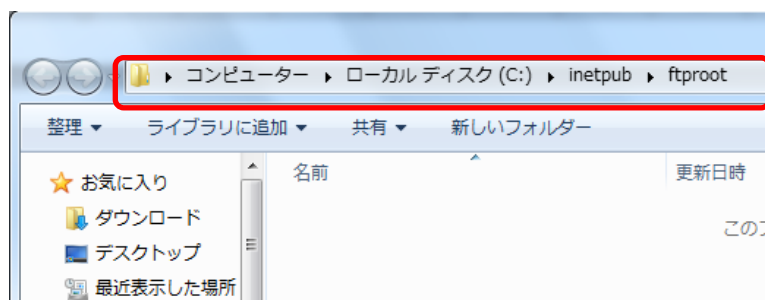


No	項目	設定内容	確認
1	認証	「基本」にチェックオン	<input type="checkbox"/>
2	承認／アクセスの許可	「すべてのユーザー」を選択し、 「fdloader」を指定	<input type="checkbox"/>
3	承認／アクセス許可	「読み取り」「書き込み」にチェックオン	<input type="checkbox"/>

- (34) 「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー」ウィンドウの中ペイン (ツリー) より「UCLXXXXX (運用管理クライアントのホスト名)」→「サイト」→「KaigoFTP」を選択し、右クリックより「エクスプローラー」を選択します。

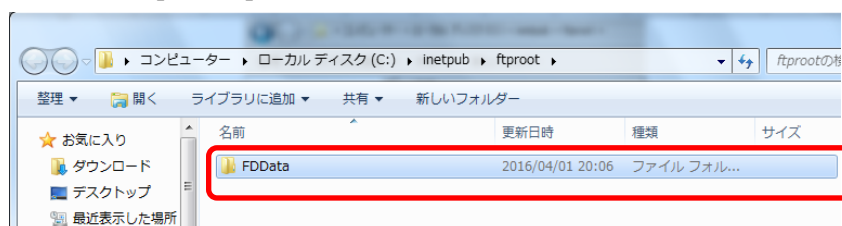


- (35) エクスプローラーが起動しますので、「C:\inetpub\ftproot」フォルダが表示されることを確認します。



No	確認内容	確認
1	正常に「C:\inetpub\ftproot」フォルダが表示されること	<input type="checkbox"/>

- (36) 「C:\inetpub\ftproot」フォルダ配下に、以下のフォルダを作成します。



No	作成フォルダ名	確認
1	FDData	<input type="checkbox"/>

- (37) エクスプローラ、「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー」を閉じます。

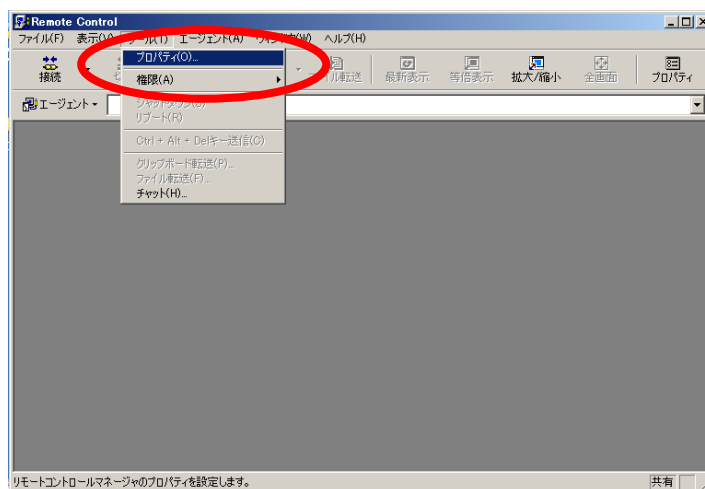
2.17.5.JP1/NETM/Remote Control – Manager 環境設定

2.17.5.1.JP1/NETM/Remote Control – Manager ログ出力の有効化

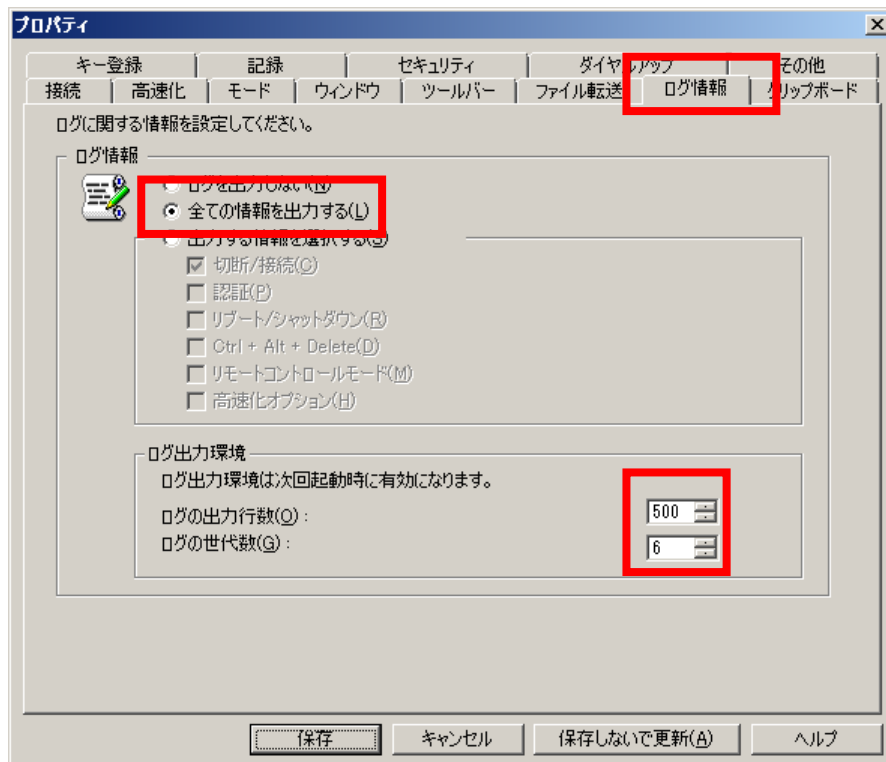
- (1) 「スタート」→「すべてのプログラム」→「JP1 Remote Control Manager」→「リモートコントロールマネージャ」を選択します。



- (2) 「Remote Control」画面が起動しますので、「ツール」メニューより「プロパティ(O)...」を選択し、「プロパティ」設定画面を表示させます。



- (3) 「プロパティ」設定画面より「ログ情報」タブを選択し、下表を参照し設定値を入力します。
設定後「保存」をクリックし画面を閉じます。

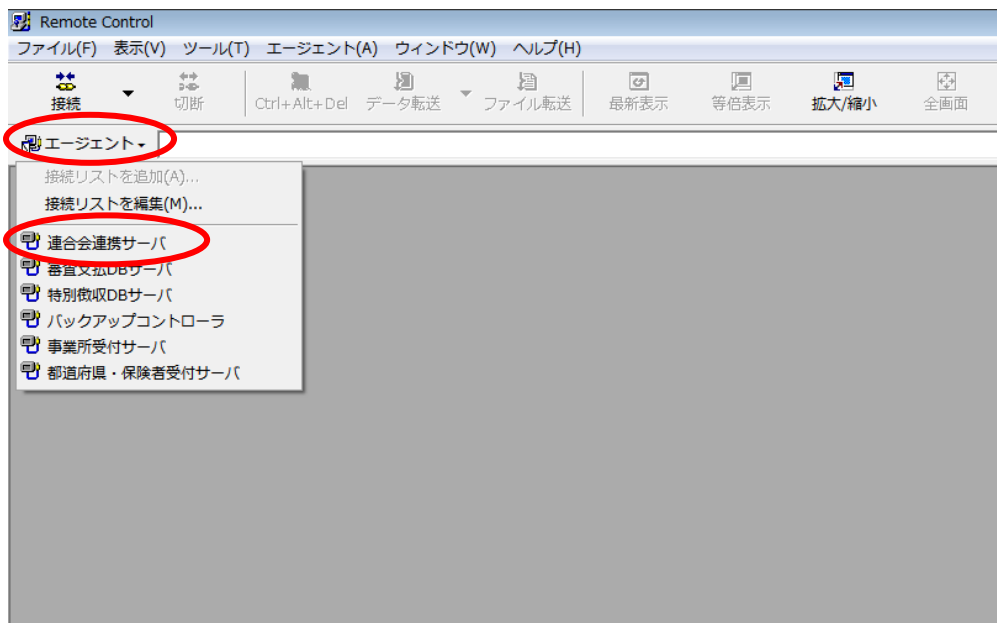


項番	項目	設定	確認
1	全ての情報を出力する (L)	チェックオン	<input type="checkbox"/>
2	ログ出力行数 (Q)	500	<input type="checkbox"/>
3	ログの世代数 (G)	6	<input type="checkbox"/>

2.17.5.2.ファイル転送オプション

- (1) 「Remote Control」画面にて、「エージェント」をクリックし、プルダウン表示されたリストより、「連合会連携サーバ」を選択します。

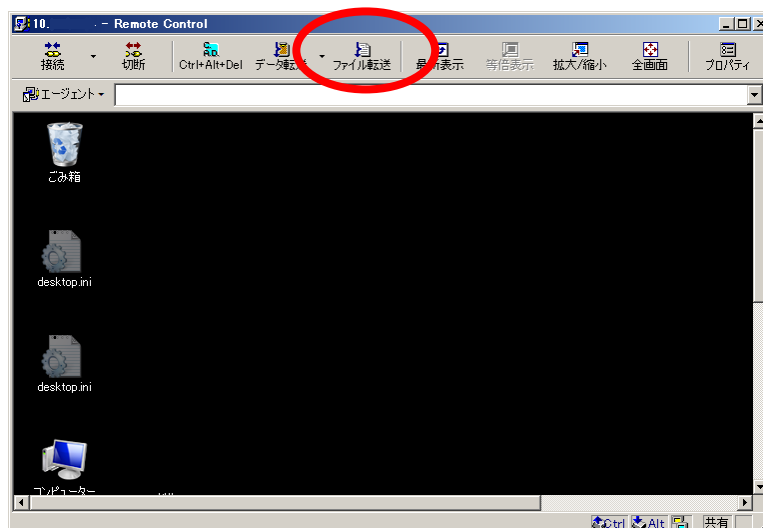
※運用管理クライアント(VT系)の場合は「連合会連携サーバ(VT系)」を選択します。



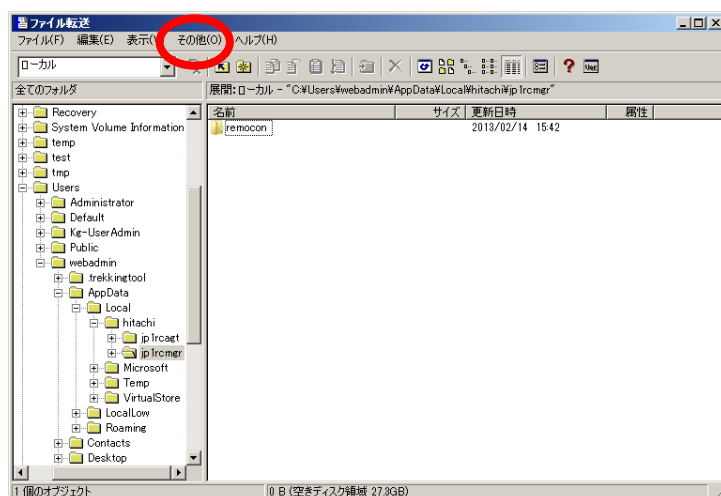
- (2) 「10.xx.11.1 –Remote Control」画面にて、「ツール」より「ファイル転送」をクリックします。

※ xx：都道府県番号

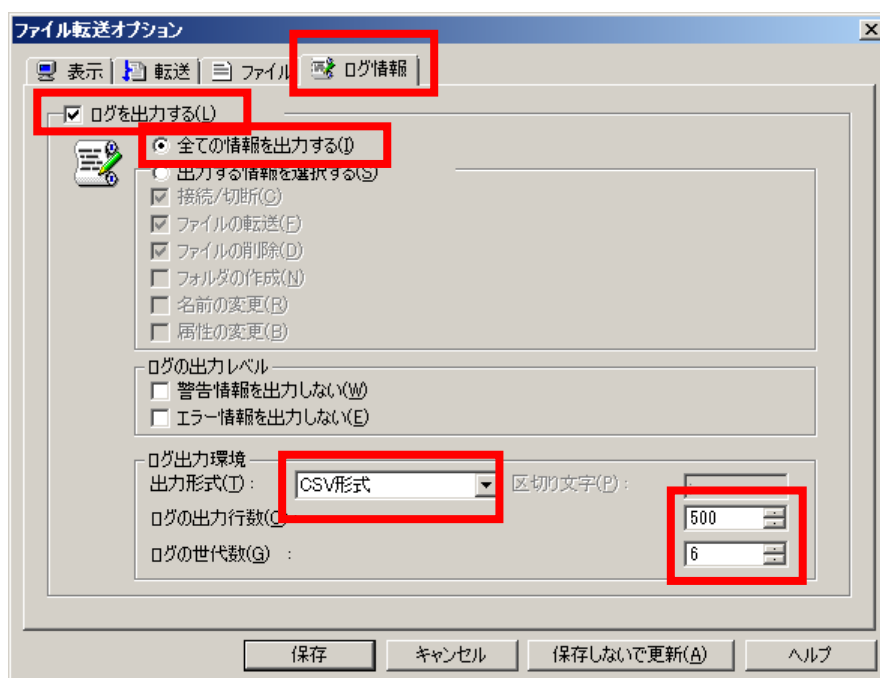
※運用管理クライアント(VT系)の場合は「10.xx.31.1 –Remote Control」画面



- (3) 「ファイル転送」画面が表示されますので、「その他」メニューから「オプション (O) ...」を選択し「ファイル転送オプション」画面を表示させます。



- (4) 「ファイル転送オプション」画面から「ログ情報」タブをクリックし、下表を参照し設定内容を入力します。入力後「保存」をクリックし画面を閉じます。



項番	設定項目	設定内容	確認
1	ログを出力する (L)	チェック ON	<input type="checkbox"/>
2	全ての情報を出力する (I)	チェック ON	<input type="checkbox"/>
3	出力形式 (T)	CSV 形式	<input type="checkbox"/>
4	ログ出力行数 (Q)	500	<input type="checkbox"/>
5	ログの世代数 (G)	6	<input type="checkbox"/>

- (5) 「ファイル転送」画面「ファイル」メニューから「アプリケーションの終了 (X)」を選択し、「ファイル転送」画面を終了します。
- (6) 「リモートコントロールマネージャ」画面を閉じます。

2.18. 暗号危殆化対策用の外部系 INI ファイル更新

2.18.1.対象マシン／作業予定時間

対象マシン	作業予定時間	確認
運用管理クライアント	10 分	<input type="checkbox"/>
運用管理クライアント(VT 系)	10 分	<input type="checkbox"/>

2.18.2.準備物

項番	種別	名称	確認
1	ファイル	緊急リリース（【導入:T0193】暗号危殆化対策用の外部系 INI ファイル更新ツール）で配布した資材 「160627-01_T0193.EXE」	<input type="checkbox"/>

2.18.3.前提条件

項番	前提条件	確認
1	“ドメイン名(NetBIOS)¥KG-UserAdmin” でログオンすること	<input type="checkbox"/>

2.18.4.暗号危殆化対策用の外部系 INI ファイル更新化作業

- (1) 「C:¥Temp」に「160627-01_T0193.EXE」を格納します。
- (2) 「C:¥Temp¥160627-01_T0193.EXE」をダブルクリックすると、「解凍先の指定」画面が表示されますので、「OK」ボタンをクリックし、ファイルを解凍します。
- (3) エクスプローラで以下のファイルを右クリックし、「管理者として実行」をクリックします。
C:¥Temp¥160627-01_T0193¥GaibuIniSet.bat
- (4) 開始メッセージ「外部系 Ini ファイルの更新を開始します。」が表示されますので、<Enter>キーを押下します。
- (5) 実行後、「外部系 Ini ファイルの更新が完了しました。」が表示されますので、<Enter>キーを押下します。

項番	確認事項	確認
1	「外部系 Ini ファイルの更新が完了しました。」が表示されること	<input type="checkbox"/>

- (6) 「C:¥Kaigo¥PIO01¥PIO01.ini」ファイルの更新日付がツールの実行時間となっていることを確認します。

項番	確認事項	確認
1	「C:¥Kaigo¥PIO01¥PIO01.ini」ファイルの更新日付がツールの実行時間と一致していること	<input type="checkbox"/>

- (7) エクスプローラで「C:¥Temp¥160627-01_T0193」フォルダを削除します。

項番	確認事項	確認
1	「C:¥Temp」の「160627-01_T0193」フォルダが存在しないこと	<input type="checkbox"/>

- (8) エクスプローラで「C:¥Temp¥160627-01_T0193.EXE」ファイルを削除します。

項番	確認事項	確認
1	「C:¥Temp」の「160627-01_T0193.EXE」ファイルが存在しないこと	<input type="checkbox"/>

- (9) エクスプローラを閉じます。

2.19. vSphere Client 導入

運用管理クライアントに連合会仮想化サーバ 4、5 を操作するために必要な「VMware vSphere Client」をインストールする手順について説明しています。

2.19.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間
1	運用管理クライアント	約 10 分

2.19.2. 準備物

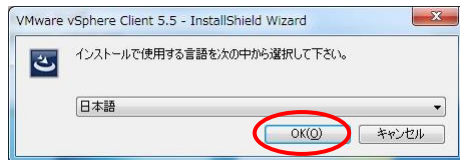
項番	種別	名称	確認
1	DVD-ROM	構築作業用媒体 ※平成 28 年度システム導入関連情報（H28 システム導入-017-0921）で送付	<input type="checkbox"/>

2.19.3. 前提条件

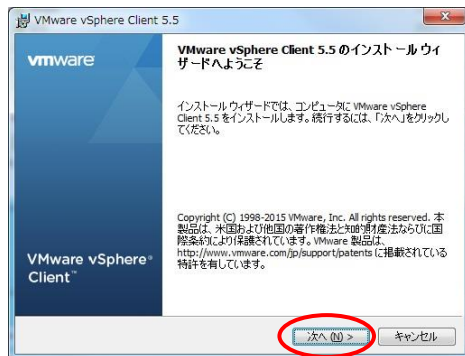
項番	前提条件	確認
1	“ドメイン名（NetBIOS）¥KG-UserAdmin”でログオンすること	<input type="checkbox"/>

2.19.4. vSphere Client のインストール

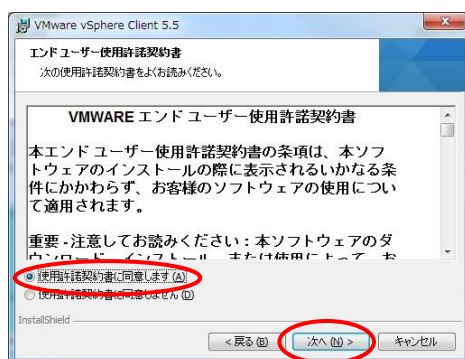
- (1) 「構築作業用媒体」を運用管理クライアントの DVD ドライブにセットします。
- (2) エクスプローラで「<DVD-ROM>:\VMware」フォルダを開き、
「VMware-viclient-all-5.5.0-1993072.exe」をダブルクリックします。以下のウィンドウが
開きますので「日本語」を選択し、「OK」をクリックします。



- (3) 「インストールウィザード」のウィンドウが開きますので、次へをクリックします。

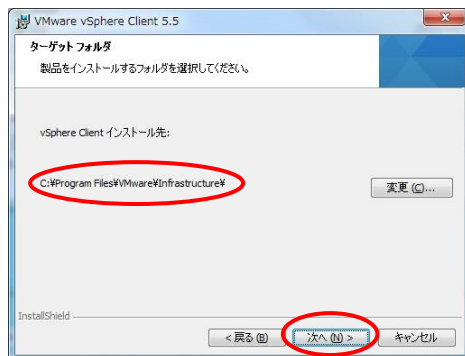


- (4) 「エンドユーザー使用許諾誓約書」のウィンドウが開きますので、「使用許諾に同意します」を選択して「次へ」をクリックします。



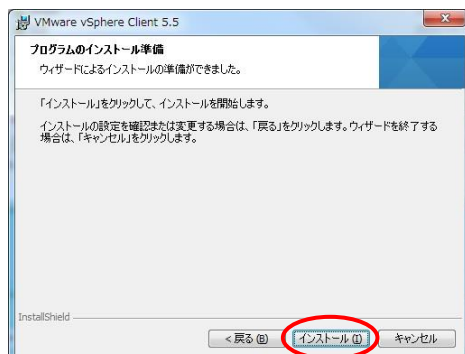
- (5) 「ターゲットフォルダ」のウィンドウで、「vSphere Client インストール先」を確認し、デフォルトで問題なければ「次へ」をクリックします。

vSphere Client インストール先：C:\Program Files\VMware\Infrastructure\

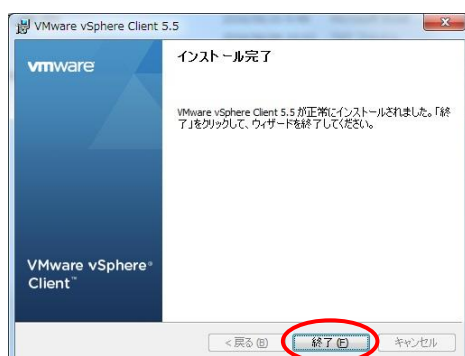


項番	インストール先	確認
1	C:\Program Files\VMware\Infrastructure\	<input type="checkbox"/>

- (6) 「プログラムのインストール準備」ウィンドウが表示されたら「インストール」をクリックします。



- (7) 「インストール完了」ウィンドウが表示されたら「終了」をクリックしてウィンドウを閉じます。



- (8) エクスプローラを終了します。

(9) デスクトップに「VMware vSphere Client」アイコンが作成されていることを確認します。

項番	確認内容	確認
1	VMware vSphere Client	<input type="checkbox"/>

(10) DVD ドライブから「構築作業用媒体」を取出します。

以上で「VMware vSphere Client 5.5」のインストールは完了です。

以上で本手順は終了です。